

横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 2号館外壁その他改修工事

図面リスト			
図番	図面名称	図番	図面名称
A-01	表紙、図面リスト	A-36	配管類改修立面図 2号館東側：③断面
A-02	建築改修工事 特記仕様書その1	A-37	配管類改修平面図 2号館東側：X3通り
A-03	建築改修工事 特記仕様書その2	A-38	外壁補修立面図 2号館西側：①断面
A-04	建築改修工事 特記仕様書その3	A-39	外壁補修立面図 2号館西側：②断面
A-05	建築改修工事 特記仕様書その4	A-40	外壁補修立面図 2号館西側：③断面
A-06	工事内容、案内図、安全対策、一般事項、足場設置基準	A-41	外壁補修立面図 2号館西側：④断面
A-07	配置図	A-42	外壁補修立面図 2号館南側：①断面
A-08	改修内容一覧表、補修数量集計	A-43	外壁補修立面図 2号館東側：①断面
A-09	外壁改修塗装仕様	A-44	外壁補修立面図 2号館東側：②断面
A-10	防水改修仕様	A-45	外壁補修立面図 2号館東側：③断面
A-11	1号館1階・2号館1階 平面図	A-46	外壁補修立面図 2号館東側：④断面
A-12	1号館中2階・2号館2階 平面図	A-47	外壁補修立面図 2号館北側：①断面
A-13	1号館2階・2号館3階 平面図	A-48	外壁の改修工法 詳細図
A-14	1号館3階・2号館4階 平面図	A-49	防水改修平面図 1号館中2階・4階 平面図
A-15	1号館4階・2号館屋階 平面図	A-50	防水改修平面図 1号館屋階 平面図その1
A-16	1号館5階・2号館PH階 平面図	A-51	防水改修平面図 1号館屋階 平面図その2
A-17	1号館屋階・2号館PH屋階 平面図	A-52	防水改修平面図 1号館PH屋階 平面図
A-18	1号館PH屋階 平面図	A-53	防水改修 断面詳細図その1
A-19	外壁改修立面図 2号館西側・南側：①断面	A-54	防水改修 断面詳細図その2
A-20	外壁改修立面図 2号館西側：②・③断面	A-55	防水改修 断面詳細図その3
A-21	外壁改修立面図 2号館西側：④断面、渡り廊下	A-56	防水改修 断面詳細図その4
A-22	外壁改修立面図 2号館東側・北側：①断面	A-57	防水改修 デTAIL
A-23	外壁改修立面図 2号館東側：②・③断面	A-58	仮設計画図その1(参考図)
A-24	外壁改修立面図 2号館東側・北側：④断面	A-59	仮設計画図その2(参考図)
A-25	外壁改修 断面詳細図その1	A-60	仮設計画図その3(参考図)
A-26	外壁改修 断面詳細図その2	A-61	仮設計画図その4(参考図)
A-27	外壁改修 1号館1階・2号館1階 天井伏図		
A-28	外壁改修 1号館中2階・2号館2階 天井伏図		
A-29	外壁改修 1号館2階・2号館3階 天井伏図		
A-30	外壁改修 1号館3階・2号館4階 天井伏図		
A-31	外壁改修 1号館4階・2号館屋階 天井伏図		
A-32	配管類改修立面図 2号館西側：①断面		
A-33	配管類改修立面図 2号館西側：③断面		
A-34	配管類改修平面図 2号館西側：X0通り		
A-35	配管類改修立面図 2号館東側：①断面		

備考	工事名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	表紙、図面リスト	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-01
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

建築改修工事特記仕様書【抜粋】(令和6年版)

I. 工事内容
 (1)2号館、渡り廊下の外壁改修を行う
 (2)1号館の屋根防水改修を行う

II. 建築改修工事仕様
 1 共通仕様
 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(以下「改修標準仕様書」という)による。ただし、改修標準仕様書に規定されている項目以外は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)」(以下「標準仕様書」という)ほか特記仕様書1章1項適用基準等による。

2 特記仕様書の取り扱い
 (1) 章、項目は番号に ○ 印の付いたものを適用する。
 (2) 特記事項は ○ 印の付いたものを適用する。
 ○ 印の付かない場合は ※ 印の付いたものを適用する。
 ○ 印と ◎ 印の付いた場合は共に適用する。
 (3) 特記事項に記載の [] 内表示番号は、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(以下「改修標仕」という)の項目番号及び表番号を示す。

※は標準的な仕様を示し、特記が必要な場合は・を選択する。

章	項目	特記事項																														
各章共通事項	① ① 適用基準等	本特記仕様書によるほか下記による。 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版 [令和5年3月改定] 国土交通省大臣官房官庁営繕部 建築工事標準詳細図(令和4年版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部 公共建築木造工事標準仕様書(令和4年版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部 ＝横浜市建築局建築工事特記仕様書(最新版)＝ ＝(以下「特記仕様書」という)＝ 営繕工事写真撮影要領(令和5年版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部																														
	2 工事実績情報サービス(CORINS)への登録	※行う ・行わない [1.1.4] コリンズ工事実績情報システムによる「メール送付の承諾」 ※する ・しない																														
	③ 発生材の再資源化等	○本工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成12年5月31日法第104号)」、「資源の有効な利用の促進に関する法律(平成3年法律第48号)」の対象建設工事であり分別解体等および特定建設資材の再資源化等について適切な処置を行う。ただし、工事契約後によりむを得ない事情により予定した条件により難しい場合は、監督員と協議する。 [1.3.11] ※工事着手前 「再生資源利用計画書」、「再生資源利用促進計画書」、「工事登録証明書」(計画書作成時の出力したもの)及び建設発生土搬出先の盛土規制法許可等及び、土地の形質の変更時の土壌汚染対策に関する?続き状況について記載した票(以下、確認結果票)を、監督員に報告・説明したうえで施工計画書に含めて提出する。また、上記2つの計画書及び確認結果票を工事現場の見やすい場所に掲げる等により、公衆の閲覧に供すること。 ※工事完成時 「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」及び「工事登録証明書」(実施書作成後に出力したもの)を、工事完成図書に含めて提出すること。																														
	4 発生材の処理等	分別解体等の方法 [1.3.12] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工程</th> <th rowspan="2">作業内容</th> <th colspan="2">分別解体の方法</th> </tr> <tr> <th>手作業</th> <th>手作業・機械作業の併用(範囲)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">・解体工事</td> <td>・建設設備の取り外し</td> <td>・</td> <td>・(※図面による)</td> </tr> <tr> <td>・内装材等の取り外し</td> <td>・</td> <td>・(※図面による)</td> </tr> <tr> <td>・屋根ふき材の取り外し</td> <td>・</td> <td>・(※図面による)</td> </tr> <tr> <td>・外装材の取壊し</td> <td>・</td> <td>・(※図面による)</td> </tr> <tr> <td>・上部構造部分の取壊し</td> <td>・</td> <td>・(※図面による)</td> </tr> <tr> <td>・基礎の取壊し</td> <td>・</td> <td>・(※図面による)</td> </tr> <tr> <td>・基礎杭の取壊し</td> <td>・</td> <td>・(※図面による)</td> </tr> <tr> <td>・その他</td> <td>・</td> <td>・(※図面による)</td> </tr> </tbody> </table>	工程	作業内容	分別解体の方法		手作業	手作業・機械作業の併用(範囲)	・解体工事	・建設設備の取り外し	・	・(※図面による)	・内装材等の取り外し	・	・(※図面による)	・屋根ふき材の取り外し	・	・(※図面による)	・外装材の取壊し	・	・(※図面による)	・上部構造部分の取壊し	・	・(※図面による)	・基礎の取壊し	・	・(※図面による)	・基礎杭の取壊し	・	・(※図面による)	・その他	・
工程	作業内容	分別解体の方法																														
		手作業	手作業・機械作業の併用(範囲)																													
・解体工事	・建設設備の取り外し	・	・(※図面による)																													
	・内装材等の取り外し	・	・(※図面による)																													
	・屋根ふき材の取り外し	・	・(※図面による)																													
	・外装材の取壊し	・	・(※図面による)																													
	・上部構造部分の取壊し	・	・(※図面による)																													
	・基礎の取壊し	・	・(※図面による)																													
	・基礎杭の取壊し	・	・(※図面による)																													
・その他	・	・(※図面による)																														

・増築工事 ・修繕 ・模様替え	・造成等の工事 ・基礎の取壊し工事 ・基礎杭の工事 ・上部構造部分の工事 ・外装材の工事 ・屋根の工事 ・建築設備工事 ・内装材等の工事 ・その他	・(※図面による) ・(※図面による) ・(※図面による) ・(※図面による) ・(※図面による) ・(※図面による) ・(※図面による) ・(※図面による) ・(※図面による) ・(※図面による)		
・再資源化等をする特定建設資材廃棄物の種類及び施設等	特定建設資材廃棄物の種類 ・コンクリート ・建設発生木材 ・アスファルトコンクリート ・コンクリートおよび鉄からなる建設資材	再資源化等する施設の名称及び所在地 ・「本市工事に伴い排出する建設副産物の処分要領」で指定する施設 ・「本市工事に伴い排出する建設副産物の処分要領」で指定する施設 ・「本市工事に伴い排出する建設副産物の処分要領」で指定する施設 ・建設リサイクル法第13条第1項に基づく書面による ・特則仕様書による		
特定建設資材廃棄物以外の発生材の処分	種類	施設の名称	再資源化	所在地
・現場において再利用するもの() [1.3.12] ・引渡しを要するもの(・金属類 ・PCB) [1.3.12] ・特別管理産業廃棄物(・廃石棉 ・PCB含有物) [1.3.12] 処理方法() ・ひ素・カドミウム含有せっこうボードの処理 [1.3.12] ・製造業者への処分委託 ・管理型最終処分場での埋立処分 ・石綿・ひ素・カドミウムのいずれも含有しないせっこうボードの処理 [1.3.12] ・管理型最終処分場での埋立処分 ・再資源化 [1.3.12] ・PCB含有シーリング材の処理 ・分析調査() ・撤去する ・撤去しない	5 電気保安技術者	・配置する ・配置しない [1.3.3]	⑥ 施工条件 [1.3.5] ○現場説明書による。 ○下記以外は現場説明書による。 工事用車両の駐車場所 ※図面による 資機材置場 ※図面による	
横浜市工事安全管理規則による安全管理指定工事 ・指定する(「特則仕様書」第1章8節による)	7 施工中の安全確保	[1.3.7]	⑧ 材料の品質等 [1.4.2] 本工事に使用する材料は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及びJASマークのない材料及びその製造業者等は、次の(1)から(6)の事項を満たすものとする。 (1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 (2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 (3) 安定的な供給が可能であること。 (4) 法令等で定める許可、認可、認定または免許を取得していること。 (5) 製造または施工の実績があり、その信頼性があること。 (6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。 なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質および性能を有することの証明となる資料、または外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 また備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品または同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は使用する場合は監督職員の承諾を得ること。	

9 木材又は木材を原料とする資材	・木工事に使用する木材又は木材を原料とする資材を使用する場合は、神奈川県産木材又は地域材(関東甲信地方に属する都県及び静岡県で生産された素材等)を利用することとし、使用した材料の種類、産地等を監督員に報告する。ただし、神奈川県産材又は地域材とすることが困難な場合には、原則として、監督員の承諾を受けた国産材とする。 ※木材又は木材を原料とする資材を使用する場合は、間伐材や合法性の証明された材を使用する。 [1.4.2] 「改修標仕」および「標仕」に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 [1.4.1]		
⑩ 特別な材料の工法	化学物質	建築材料等	性能
⑪ 空気汚染低減措置	ホルムアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、アセトアルデヒド等	①合板 木質系フローリング 構造用パネル 集成材 単板積層材 MDF パーティクルボード その他の木質建材(下地材含)	※ホルムアルデヒド放散量は『F☆☆☆☆』とする。 ※アセトアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。
	②作り付け家具 作り付け書架 実験台	②ユリア樹脂	※ホルムアルデヒド放散量は『F☆☆☆☆』とする。 ※アセトアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。
	④壁紙 ⑤木工事、内装工事に使用する接着剤 ⑥保温材、防露材 緩衝材 断熱材 ⑦塗料 ⑧仕上塗材	④木材保存(木材の防 腐・防蟻処理)剤	※ホルムアルデヒド放散量は『F☆☆☆☆』とする。 ※アセトアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 ※⑤は併せて、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ないJIS規格品とする。 また、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシン等を含む難揮発性の可塑剤を使用しているJIS規格品とする。 ※⑦は併せて、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ないJIS規格品とする。 ※⑧は併せて、トルエン、ダイアジン及びフェノルカルジンを含む非有機リン系の薬剤とし、加圧式防蟻・防蟻処理等は工場で行い、十分乾燥した後現場へ搬入する。
※ 工事中の安全管理 接着剤及び塗料の塗布に当たっては、使用方法及び塗布量を十分に管理し、適切な乾燥時間をとるものとする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に発散した化学物質等を室外に放出させる。	調査報告書の貸与 ※する ・しない 事前調査 ※「改修標仕」1.5.11による 石綿含有の分析調査 ・行う (・定性分析 ・定量分析) ・行わない	[1.5.1]	施工数量調査 [1.6.2] 調査項目 ○防水改修 ○外壁改修 外壁改修工事の施工数量調査を行う場合は、本特記仕様書「4-1 外壁改修工事・コンクリート打放し仕上げ外壁」1 施工数量調査」4-4 外壁改修工事・塗り仕上げ外壁」1 施工数量調査」による 調査範囲 ※図面による 調査方法 ※図面による 報告書部数 2部 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 [1.6.3] ※図面による
⑫ 石綿含有建材の調査	⑬ 施工調査	[1.6.2]	[1.6.3]

14 技能士 [1.7.2]	通用工事種別	技能検定の職種
⑮ 見本施工	防水改修工事	・アスファルト防水工 ・塩化ビニル系シート防水工 ・ウレタンゴム系塗膜防水工 ・シーリング防水工
	外壁改修工事	・左官 ・タイル張り ・塗装(建築塗装作業) ・樹脂接着剤注入施工
⑯ 化学物質の濃度測定	建具改修工事	・サッシ施工 ・ガラス施工
	内装改修工事	・プラスチック系床仕上げ工事 ・ボード仕上げ工事 ・表装(壁装作業) ・内装仕上げ工(鋼製下地工事) ・左官 ・建築大工 ・タイル張り ・塗装(建築塗装作業)
17 中間技術検査 [1.8.2]	塗装改修工事	・塗装(建築塗装作業)
	耐震改修工事	・鉄筋施工 ・型枠施工 ・とび
⑰ 完成時の提出図書	既製コンクリート	・ブロック建築 ・エネルギーパネル施工
	石工事	・石材施工(石張り作業)
⑱ 完成写真	植栽工事	・造園
	○実施する 工種(外壁改修)	[1.7.5]
20 設備工事との施工区分	実施する	[1.7.9] 測定対象化学物質、測定方法、測定対象室及び測定箇所は「横浜市建築局所管工事揮発性有機化合物(VOC)等の室内濃度測定マニュアル」(平成27年版)による。
	17 中間技術検査	中間技術検査を実施する段階 () [1.8.2]
21 建築基準法に基づく区分	○完成図(原図のサイズ A2)	[1.9.1~3][表1.9.1] 完成図の種類 ※「改修標仕」表1.8.1のうち監督職員が指示するもの ・下記による
	完成図(原図)の作成方法 [1.9.2]	※CAD CADデータ貸与 ※貸与する ・貸与しない ・完成図CADデータ (CD-R)
22 電子納品	※デジタルデータで提出する (提出方法は営繕工事写真撮影要領に準ずる) ○200万画素(キャピネ判)程度以上 ・400万画素(A4判)程度以上 ・	○下記のもの監督員に提出する。 ・アルバム・300×300 ○A4判 冊提出 (○施設管理者 ○発注者 ・工事担当課 ○監理者)
	23 その他	分類・規格 ※カラー ※キャビネ版 ・
24 備考	完成写真の使用については、横浜市(建物所有者)の発行する印刷物等(広報誌など)に限り、使用を認めるものとする。 撮影業者 ※監督員の承諾する撮影業者(建築完成写真撮影の実績のあるもの)とする。 ・指定しない	分類・規格 ※カラー ※L版 ・
	施工範囲	※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ※図示した壁、天井仕上材の切込み及び下地材の補強 ※駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ ※自動閉鎖装置取付箇所の切込み及び補強 ・その他()
25 備考	※建築基準法に基づき定められる風圧区分等 ・風速 (Vo= ※34m/s ・ m/s) ・地表面粗度区分 (・Ⅰ ・Ⅱ ※Ⅲ ・Ⅳ) ・垂直積雪量 (※ 30cm ・ cm)	※対象工事とする ○工事記録写真 ○施工図 ○完成図 ・製作図 ○打合せ記録 ○その他(保全上必要となるもの) ・対象工事としない
	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事
図面名称	建築改修工事 特記仕様書その1	図面番号
作成年月	令和8年3月	A-02
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

② 仮設工事	1 騒音・粉じん等の対策	騒音・粉じん等の対策 ・防音パネル ・防音シート 防音パネル等の取付け足場等の範囲等 ※図面による	[2. 1. 3]
	2 足場その他	内部足場 種別 ※脚立、足場板等 外部足場 外部足場 ○設置する ＝(枠組み足場については、特則仕様書による)＝ ＝枠組み足場は、手すり先行型とする ○防護シートによる養生 ・行う 材料、撤去材等の運搬方法 [2. 2. 1][表2. 2. 1] ・A種 ・B種 ○C種 ・D種 ○E種	[2. 2. 1]
	3 既存部分の養生	既存部分の養生 ※ビニルシート等 既存家具等の養生 ※ビニルシート等 固定された備品、机・ロッカー等の移動・行う(図面による) 外部開口部の養生 ・行う(図面による)	[2. 3. 1]
	4 仮設間仕切	仮設間仕切等の種別 [2. 3. 2][表2. 3. 1] 種別 下地 材質 充填材 塗装 ・A種 ・木下地 ・せっこうボード(※9.5) ・片面 ※B種 ※軽量鉄骨 (※9.0) ※合板 (※9.0) ※無し ・C種 ・単管下地 防火シート 仮設扉 ※木製扉 ※合板張り ※無し ・鋼製扉 ※片面フラッシュ あり	[2. 3. 2]
	5 監督員事務所	・設ける [2. 4. 1] ・既存建物内の一部を使用する ・構内に新設する 監督員事務所を設ける場合の規模 ・10㎡程度 ・20㎡程度 ・30㎡程度 ・㎡程度	[2. 4. 1]
	6 監督員事務所の設備、備品	備品の設置 備品の種類 () 数量 ()	[2. 4. 1]
	7 工事標示板	※工事現場の適切な場所に「特則仕様書」1.23の標示板を設ける。(900mm×1800mm、白地にゴシック黒文字)	[2. 4. 1]
	8 工事用水	構内既存の施設 ※利用できる(○有償 無償) ・利用できない	
	9 工事用電力	構内既存の施設 ※利用できる(・有償 無償) ○利用できない	
	10 仮囲い	・位置・仕様については参考図を参照のこと。	
	11 工事用車両の駐場所、資機材の置場所	※工事現場内 ○位置・仕様については参考図を参照のこと。	
	12 その他	・	
③ 防水改修工事	1 降雨等に対する養生方法(とい共)	※「改修標仕」3.1.3(5)による	[3. 1. 3][3. 8. 3]
	2 防水改修方法	○ (POX、M4AS) 工法	[3. 1. 4][表3. 1. 1]
	3 シーリング改修工法	○シーリング充填工法 ○シーリング再充填工法 ・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法	[3. 1. 4][表3. 1. 2]
	4 改修用ドレン	○設ける(主防水材製造所の仕様による)	[3. 2. 5]
	5 既存下地の処理	補修箇所の形状、長さ、数量等 ※図面による 立上り部保護層、防水層の撤去 ○行う ・行わない 既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部の補修 ・POS、POS1工法(機械的固定方法) ※「改修標仕」3.2.6(4)(f)(g)による	[3. 2. 6]
	6 既存露出防水層表面の仕上げ塗装除去	・行う ○行う(高圧水洗)	[3. 2. 6]

⑦ 脱気装置	○設ける [3. 3. 3][3. 4. 3][3. 5. 3][3. 6. 3]	種類 材質 設置数量 平面部脱気型 ・ポリスチレン ・ABS樹脂 ○ステンレス ・鋳鉄 ・ 立上がり部脱気型 ・合成ゴム ・塩化ビニル樹脂 ・ステンレス ・鋼銅	※製造所の指定による ・1個/80㎡ ㎡ ○図示 ※製造所の指定による ・1個/立上り長さ10m ㎡
	8 アスファルト防水	防水保証期間 (引渡しの日から ・屋根 年間 ・外壁 年間 ・その他 年間) 施工箇所 工法 種別 ・PIB ・PIBI ・P2AI ・P2A ・M4C ・M3D ・POD ・PODI ・M3DI ・M4DI ・PIE ・P2E	※B-2 ・B-1 ・B-3 ※BI-2 ・BI-1 ・BI-3 ※AI-2 ・AI-1 ・AI-3 ※A-2 ・A-1 ・A-3 ※C-2 ・C-1 ・C-3 ・C-4 ※D-2 ・D-1 ・D-3 ・D-4 ※DI-2 ・DI-1 ※E-2 ・E-1
	9 改質アスファルトシート防水	アスファルトの種類 [3. 2. 2(7)]による 押え金物 ※アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度 断熱材 [3. 3. 2] 工法 種類 厚さ(mm) PIBI ※JIS A9521(建築用断熱材)に基づく押 P2AI 出法ポリスチレンフォーム断熱材3種 TIBI bA(スキン層付き) PODI ※JIS A9521に基づく発泡プラスチック M3DI 断熱材(硬質ウレタンフォーム断熱材 M4DI 2種1号若しくは2号の場合、透湿係数 を除く規格に準ずるもの)	[3. 3. 2]
	絶縁用シート [3. 3. 2]	工法 種類 厚さ(mm) PIB、P2A ※ポリエチレンフィルム ・0.15mm 以上 PIBI、P2AI ※フラットヤークロス(70g/㎡) TIBI PIE、P2Eの保護層 ・設ける [3. 3. 3] 屋根露出防水絶縁断熱工法の断熱材張りじまい位置 ※図面による [3. 3. 4(f)(g)] 平場の保護コンクリートの施工 [3. 3. 5] こて仕上げの場合 厚さ ※80mm以上 仕上げ材がある場合 厚さ ※60mm以上 屋上排水溝 ※図面による 立上り部の保護の方法 [3. 3. 5] ・乾式保護材 製造所の仕様による ・れんが押さえ ・コンクリート押さえ ・モルタル押さえ(屋内)	[3. 3. 2]
	防水保証期間 (引渡しの日から ○屋根10年間 ・外壁 年間 ・その他 年間) 屋根露出防水絶縁断熱工法に用いる断熱材 [3. 4. 2]	材質 厚さ(mm) ※JIS A 9521のA種硬質ウレタンフォーム 保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を 除く規定に適合するもの	[3. 4. 2]
	防水層の種類(JIS A6013による) [表3. 1. 1][3. 4. 1][3. 4. 2][3. 4. 3]	施工箇所 防水改修工法の種類 材質 厚さ(mm) ・M4AS ・AS-T1 下層用 改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種) ※2.5 上層用 改質アスファルトシート(露出複層防水用R種) ※3.0 ・AS-T2 改質アスファルトシート(露出単層防水用R種) ※4.0 ・AS-J2 粘着層付改質アスファルトシート(露出単層防水用R種) ※3.0	[3. 4. 2]

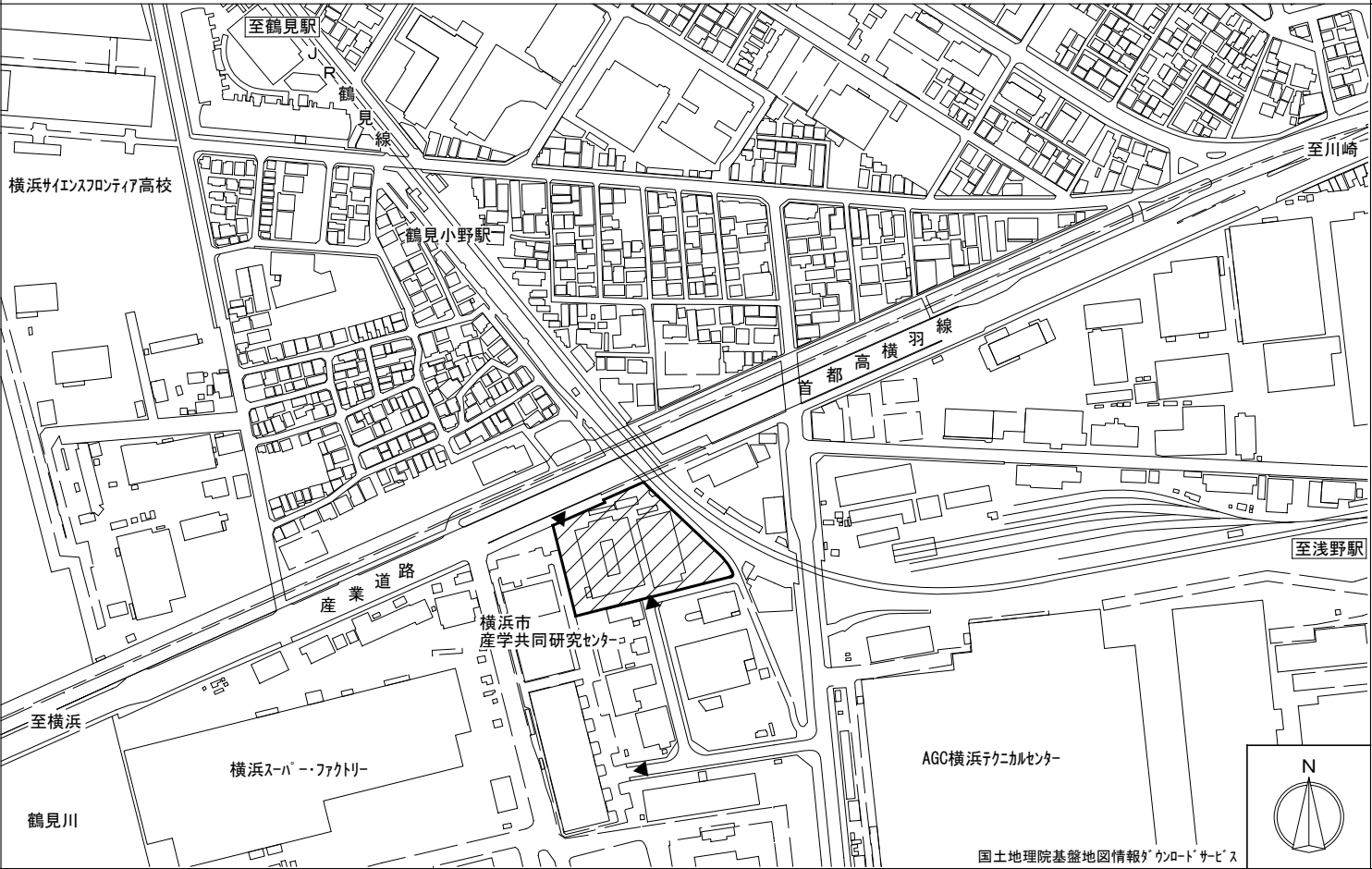
⑩ 合成高分子系ルーフィングシート防水	電気室EV屋根	・M3AS ・POAS ○M4AS	・AS-T3 下層用 部分粘着層付改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種) ※1.5 上層用 改質アスファルトシート(露出複層防水用R種) ※3.0 ・AS-T4 改質アスファルトシート(露出単層防水用R種) ※4.0 ○AS-J1 下層用 部分粘着層付改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種) ※1.5 上層用 粘着層付改質アスファルトシート(露出複層防水用R種) ※2.0 ・AS-J3 粘着層付改質アスファルトシート(露出単層防水用R種) ※3.0 ・M3ASI ・M4ASI ・POASI ・ASI-T1 下層用 部分粘着層付改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種) ※1.5 上層用 改質アスファルトシート(露出複層防水用R種) ※3.0 ・ASI-J1 下層用 部分粘着層付改質アスファルトシート(非露出複層防水用R種) ※1.5 上層用 粘着層付改質アスファルトシート(露出複層防水用R種) ※2.0	[3. 5. 3]
	防水保証期間 (引渡しの日から ・屋根 年間 ・外壁 年間 ・その他 年間) ルーフィングシートの種類及び厚さ [3. 5. 2][3. 5. 3] (JIS A6008Iによる) [表3. 5. 1、表3. 5. 2]	施工箇所 工法 種別 仕上塗料 使用分類 ・POS ・POS1 ・S4S ・S4SI ・S-F1 ・S-M1 ・S-F1 ・S-M1 ・S-F2 ・S-M2 ・S-F1 ・S-M1 ・S-F2 ・S-M2 ・S-M1 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M1 ・S-M2	※非歩行 ・軽歩行 ※非歩行 ・軽歩行 ※非歩行 ・軽歩行	[3. 5. 2]
	絶縁用シート、可塑性移行防止用シート ※発泡ポリエチレンシート	既防水層下地がPCコンクリート部材及びALCパネルの場合(S-F1・S-F2) 目地処理 ・行う(工法) 増張り ・行う(工法) 種別S-F1及びS1-F1の場合のPCコンクリート部材 [3. 5. 4]	[3. 5. 4]	
	入隅部増張り 機械式固定工法によるルーフィングシートの風圧力に対応した工法 [3. 5. 4(f)(2)]	保護層の施工(屋内保護密着工法) ・床塗り工法 ※[3. 5. 5(d)(1)~(3)]による ・下地モルタル塗り ※[6. 15. 6(c)(1)]に準ずる ・保護コンクリートの厚さ mm ・立上り部の保護モルタル塗厚 ※7mm以下 mm	[3. 5. 4]	
	防水保証期間 (引渡しの日から ○屋根10年間 ・外壁 年間 ・その他 年間) ウレタンゴム系塗膜防水 [表3. 1. 1][3. 6. 3][表3. 6. 1~表3. 6. 2] 及びゴムアスファルト系塗膜防水	施工箇所 工法 種別 その他 屋根 ○POX ○X-1 ・X-1H 仕上塗料塗り ・L4X ・P1Y ※Y-2 保護層 ※適用する ・P2Y ※適用しない	[3. 6. 3]	
	○歩行用 ・非歩行用			

⑫ シーリング	シーリング改修工法 [3. 1. 4][表3. 1. 2] ○シーリング充填工法 [3. 7. 4~3. 7. 7] ○シーリング再充填工法 ・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法	シーリング材の目地寸法 [3. 7. 3] 箇所 幅(mm) 深さ(mm) コンクリート打継目地、ひび割れ誘発目地 ・20以上 ・10以上 [5. 13. 3]以外のガラス回り ・5以上 ・5以上 上記以外 ・10以上 ・10以上 ○図示	[3. 1. 4][表3. 1. 2]	
	ブリッジ工法	ポンドプレーカー張り ・適用する [3. 7. 7] エッジング材張り ・適用する 接着性試験 ※簡易接着性試験 [3. 7. 8][図3. 7. 1] ・引張接着性試験	[3. 7. 7]	
	13 とい	その他の材種 ※図面による [3. 8. 2][表3. 8. 1] 防露材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [3. 8. 2] 清掃口 ・設ける 鋼管製といの防露 ・行う(工法 ※「改修標仕」表3. 8. 4による) たてどい受金物の取付け ※図面による [3. 8. 3] ・「改修標仕」表3. 8. 2による ルーフトレン ・ろく屋根用 (・縦型 ・横型) [3. 8. 3]	[3. 8. 2][表3. 8. 1]	
	14 アルミニウム製笠木	[3. 9. 2][表3. 9. 1][表5. 2. 2] 種類 製品幅(mm) 板厚(mm) 表面処理の種別 固定間隔 備考 押出し ・250形 ・300形 ・350形 ・350形 折り曲げ形 笠木の地下補修 ・行う(工法 ※図面による) 笠木の取付方法 ※「改修標仕」3.9.3(b)による ・図面による	[3. 9. 2]	
	15 その他			
	④ 外壁改修工事・コンクリート打放し仕上げ外壁	① 施工数量調査	調査範囲 ※躯体コンクリート面 ・図面による [1. 6. 2] 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 調査報告書の部数 ※2部	[1. 6. 2]
		② ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法 [4. 1. 4][4. 2. 5] 注入工法の種類 ひび割れ幅(mm) 注入口間隔(mm) 注入量(ml/m) 備考 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2~1.0 ・200~300 ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2~1.0 ・250~300 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 注入材料 [4. 2. 4] ※建築補修用注入エポキシ樹脂(JIS A6024) ・低粘度形 ・中粘度形 ・確認方法 ※コアの抜き取り () [4. 2. 5] (抜き取り部の補修方法:) (抜き取り部数:) ・Uカットサークル材充填工法 [4. 1. 4][4. 2. 4][4. 2. 6] 充填材料 品質・規格等 備考 ・シーリング ※1成分形または2成分形ポリウレタン系シーリング材 ・可とう性エポキシ樹脂 ・JIS A 6024 ポリマーセメントモルタルの品質・規格等 実績等の資料を監督員に提出する [4. 1. 4][4. 2. 4][4. 2. 7] ・シール工法 シール材料 品質・規格等 ・パテ状エポキシ樹脂 ・JIS A 6024 ・可とう性エポキシ樹脂	[4. 1. 4][4. 2. 5]
		③ 欠損部改修工法	※充填工法 [4. 1. 4][4. 2. 4][4. 2. 8] 充填材料 品質・規格等 ○エポキシ樹脂モルタル ○JIS A 6024 ○ポリマーセメントモルタル	[4. 1. 4][4. 2. 4][4. 2. 8]
		4 その他		

備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ)2号館外壁その他改修工事
	図面名称	建築改修工事 特記仕様書その2 図面番号
	作成年月	令和8年3月
		公益財団法人 横浜企業経営支援財団 A-03

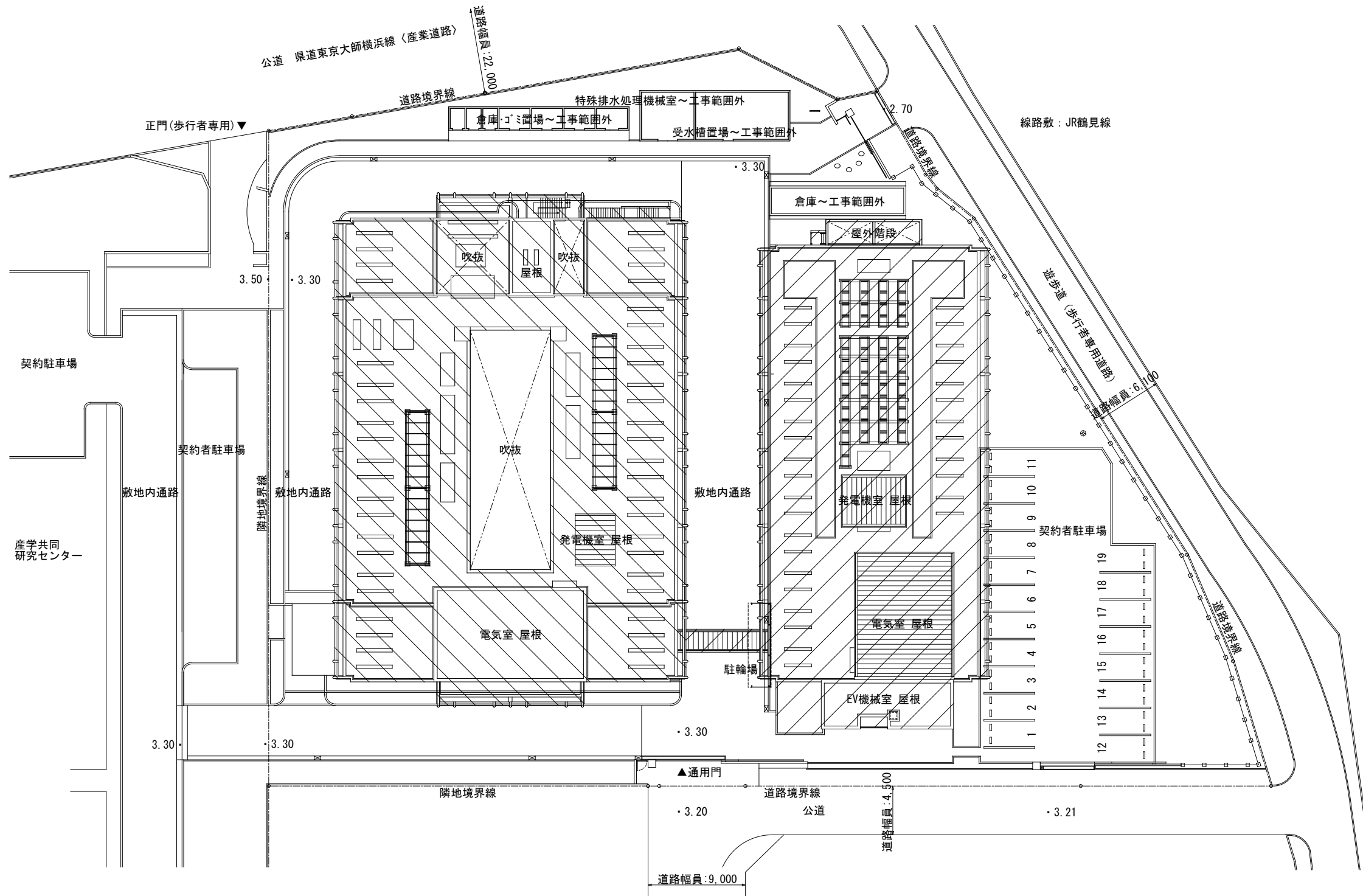
4 1 2 外壁改修工事・モルタル塗り仕上げ外壁	1 ひび割れ部改修工法	<p>既存モルタル撤去工法 (範囲は図面による) 撤去部分の補修は、2 欠損部改修工法による) ※樹脂注入工法 [4. 1. 4][4. 3. 5][4. 3. 6] (※既存モルタル面・既存躯体コンクリート面)</p> <table border="1"> <tr> <th>注入工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (ml/m)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.05~0.2</td> <td>・200~250</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2~1.0</td> <td>・250~300</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>注入材料 [4. 2. 4] ※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A6024) ・低粘度形 ・中粘度形 ・確認(コア抜き)を行う。 (抜き部の補修方法: (抜き部個数: (抜き部個数: ・Uカットシーリング材充填工法 [4. 1. 4][4. 2. 2][4. 2. 6][4. 3. 7]</p> <table border="1"> <tr> <th>充填材料</th> <th>品質・規格等</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・シーリング用材料</td> <td>※1成分形または2成分形ポリウレタン系シーリング材</td> <td>ポリマーセメントモルタルの充填※行う・行わない</td> </tr> <tr> <td>・可とう性エポキシ樹脂</td> <td>・JIS A 6024</td> <td></td> </tr> </table> <p>ポリマーセメントモルタルの品質・規格等 実績等の資料を監督員に提出する ・シール工法 [4. 1. 4][4. 2. 4][4. 2. 7][4. 3. 8]</p> <table border="1"> <tr> <th>シール材料</th> <th>品質・規格等</th> </tr> <tr> <td>・パテ状エポキシ樹脂</td> <td>・JIS A 6024</td> </tr> <tr> <td>・可とう性エポキシ樹脂</td> <td></td> </tr> </table> <p>・既存塗り仕上げ材の撤去及び補修 [4. 4. 2][4. 6. 3] (※シール工法の範囲)</p>	注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備考	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.05~0.2	・200~250	・		・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2~1.0	・250~300			・機械式エポキシ樹脂注入工法					充填材料	品質・規格等	備考	・シーリング用材料	※1成分形または2成分形ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充填※行う・行わない	・可とう性エポキシ樹脂	・JIS A 6024		シール材料	品質・規格等	・パテ状エポキシ樹脂	・JIS A 6024	・可とう性エポキシ樹脂		4 その他	<p>改修場所 ※既存タイル張り面 ・既存タイル撤去面 (・コンクリート面・モルタル面) ※樹脂注入工法 [4. 1. 4][4. 3. 4][4. 5. 5]</p> <table border="1"> <tr> <th>注入工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (ml/m)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.05~0.2</td> <td>・200~250</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2~1.0</td> <td>・250~300</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>注入材料 [4. 2. 2] ※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A6024) ・低粘度形 ・中粘度形 ・確認(コア抜き)を行う。 (抜き部の補修方法: (抜き部個数: (抜き部個数: ・Uカットシーリング材充填工法 [4. 1. 4][4. 2. 2][4. 3. 5][4. 5. 6]</p> <table border="1"> <tr> <th>充填材料</th> <th>品質・規格等</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・シーリング用材料</td> <td>※1成分形または2成分形ポリウレタン系シーリング材</td> <td>ポリマーセメントモルタルの充填※行う・行わない</td> </tr> <tr> <td>・可とう性エポキシ樹脂</td> <td>・JIS A 6024</td> <td></td> </tr> </table> <p>ポリマーセメントモルタルの品質・規格等 実績等の資料を監督員に提出する</p> <p>○タイル部分張替え工法 [4. 1. 4][4. 4. 7] 事前調査に基づき、適用範囲については監督員と協議する。 ・タイル張替え工法 [4. 1. 4][4. 4. 8] 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 [4. 4. 8][表4. 4. 2] 位置 ※「改修標仕」表4. 4. 2による 図面による タイル張りの工法 [4. 4. 7~8][表4. 4. 5]</p> <table border="1"> <tr> <th>タイルの種類</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td>○外装タイル</td> <td>・密着張り ・改良積上げ張り</td> </tr> <tr> <td>・ユニットタイル</td> <td>・マスク張り ・モザイクタイル張り</td> </tr> </table> <p>・タイルの試験張りを行う ・既製調査モルタル(張付け用) [4. 4. 5(4)(エ)④] 実績等の資料を監督員に提出 ・外装タイル貼り下地等の下地モルタル及び下地調整 塗材塗りの接着剤試験を行う [4. 4. 8(8)(ア)(a)] () ・外装壁タイル接着剤張り [表4. 4. 6]</p> <table border="1"> <tr> <th>タイルの種類</th> <th>裏あし高さ</th> <th>裏面反り</th> <th>接着剤使用量</th> </tr> <tr> <td>・外装タイル</td> <td>裏あし高さ0.9mm以下、かつ、裏面反り±0.7mm以下</td> <td>上記以外</td> <td>2.5kg/m²</td> </tr> <tr> <td>・ユニットタイル</td> <td>裏あし高さ0.9mm以下、かつ、裏面反り±0.7mm以下</td> <td>上記以外</td> <td>2kg/m²</td> </tr> <tr> <td>・外装壁タイル接着剤張り専用タイル以外のタイル</td> <td>上記以外</td> <td></td> <td>2.5kg/m²</td> </tr> </table>	注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備考	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.05~0.2	・200~250	・		・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2~1.0	・250~300			・機械式エポキシ樹脂注入工法					充填材料	品質・規格等	備考	・シーリング用材料	※1成分形または2成分形ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充填※行う・行わない	・可とう性エポキシ樹脂	・JIS A 6024		タイルの種類	工法	○外装タイル	・密着張り ・改良積上げ張り	・ユニットタイル	・マスク張り ・モザイクタイル張り	タイルの種類	裏あし高さ	裏面反り	接着剤使用量	・外装タイル	裏あし高さ0.9mm以下、かつ、裏面反り±0.7mm以下	上記以外	2.5kg/m ²	・ユニットタイル	裏あし高さ0.9mm以下、かつ、裏面反り±0.7mm以下	上記以外	2kg/m ²	・外装壁タイル接着剤張り専用タイル以外のタイル	上記以外		2.5kg/m ²	<p>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25</p> <p>・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※50</p> <p>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25</p> <p>・タイル部分張替工法 - - - -</p> <p>・タイル張替工法 - - - -</p> <p>アンカーピン [4. 3. 5] 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの</p> <p>注入口付アンカーピン [4. 3. 5] 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外形6mm</p> <p>ポリマーセメントスラリー [4. 3. 5] 実績等の資料を監督員に提出 タイル部分張替工法、タイル張替工法については欠損部改修工法による</p> <p>伸縮調整目地改修工法 [4. 1. 4][4. 4. 16]</p> <table border="1"> <tr> <th>目地の位置</th> <th>寸法</th> </tr> <tr> <td>・図面による</td> <td></td> </tr> <tr> <th>シーリング用材料</th> <th>種類</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td>・図面による</td> </tr> </table> <p>4 目地改修工法</p> <p>5 タイルの種類 [4. 4. 7~8]</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形状寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">うわぐすり</th> <th rowspan="2">役物</th> <th rowspan="2">色</th> <th rowspan="2">再生材</th> <th rowspan="2">対凍害性</th> <th rowspan="2">用途による区分</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>施</th> <th>無</th> <th>あり</th> <th>なし</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th>適用</th> <th>あり</th> <th>なし</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>施</td> <td>無</td> <td>あり</td> <td>なし</td> <td>標準</td> <td>特注</td> <td>適用</td> <td>あり</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>役物 標準的な曲がり(小口、標準、二丁、屏風)の役物は一体成形とする。 ・タイルの見本焼きを行う</p> <p>6 その他</p>	目地の位置	寸法	・図面による		シーリング用材料	種類	施工箇所	・		・図面による	施工箇所	形状寸法 (mm)	うわぐすり	役物	色	再生材	対凍害性	用途による区分	備考	施	無	あり	なし	標準	特注	適用	あり	なし			施	無	あり	なし	標準	特注	適用	あり	なし				<p>・薄付仕上塗材</p> <p>・外装薄塗材E</p> <p>・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・さざ波状 ・凹凸状 ・着色骨材砂壁状</p> <p>・吹付け ・こて ・ローラー</p> <p>・可とう形外装薄塗材E</p> <p>・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・さざ波状 ・凹凸状</p> <p>・吹付け ・こて ・ローラー</p> <p>・防水形外装薄塗材E</p> <p>・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・さざ波状 ・凹凸状</p> <p>・吹付け ・ローラー</p> <p>・外装薄塗材S</p> <p>・砂壁状</p> <p>・吹付け</p> <p>・外装厚塗材C</p> <p>・吹付け ・吹出し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・掻き落とし</p> <p>・吹付け ・こて</p> <p>・外装厚塗材Si</p> <p>・外装厚塗材E</p> <p>・吹出し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし</p> <p>・吹付け ・こて ○ローラー</p> <p>○複層仕上塗材</p> <p>・複層塗材CE</p> <p>・複層塗材Si</p> <p>・複層塗材E</p> <p>・複層塗材RE</p> <p>・可とう形複層塗材CE</p> <p>・防水形複層塗材CE</p> <p>○防水形複層塗材E</p> <p>・防水形複層塗材RE</p> <p>対候性 ※耐候形3種 ○耐候性1種 上塗材 溶媒 ※水系 樹脂 ※アクリル系 ○フッ素系 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック</p> <p>防水形の増塗材 ※行う</p> <p>・可とう形改修用仕上塗材</p> <p>・可とう形改修塗材E</p> <p>・可とう形改修塗材RE</p> <p>・可とう形改修塗材CE</p> <p>・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状</p> <p>・吹付け ・ローラー 塗り</p> <p>防火材料の指定がある場合 [4. 5. 2] ※建築基準法に基づく認定を受けた材料 [4. 5. 3] ※見本帳又は見本塗板を監督員に提出する [4. 6. 2]</p> <p>種別・A種</p> <p>・B種</p> <p>仕上げの形状 [4. 7. 2][表4. 7. 1][4. 7. 3]</p> <p>・凹凸状 ・ゆず肌状 ・凸部処理 ・さざ波状 ・吹付け ・ローラー</p> <p>工法 下地挙動緩衝材 ・適用する ・適用しない</p> <p>耐候性 ・耐候形1種 ※耐候形2種 ・耐候形3種</p> <p>○低汚染型水性フッ素樹脂7A-塗料 工法 ・吹付け ○ローラー 溶媒 ※水系 樹脂 ※フッ素系 外観 ※つやあり ・つやなし</p> <p>7 ①材料 [7. 1. 3] ※屋内の壁、天井仕上げは次の箇所を除き防火材料とする。(箇所) 材質 ・水性系 「横浜市公共建築物シックハウス対策ガイドライン」に基づくものとする。 ホルムアルデヒド放散量 ※☆☆☆☆</p>
	注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備考																																																																																																																																	
	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.05~0.2	・200~250	・																																																																																																																																		
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2~1.0	・250~300																																																																																																																																				
・機械式エポキシ樹脂注入工法																																																																																																																																						
充填材料	品質・規格等	備考																																																																																																																																				
・シーリング用材料	※1成分形または2成分形ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充填※行う・行わない																																																																																																																																				
・可とう性エポキシ樹脂	・JIS A 6024																																																																																																																																					
シール材料	品質・規格等																																																																																																																																					
・パテ状エポキシ樹脂	・JIS A 6024																																																																																																																																					
・可とう性エポキシ樹脂																																																																																																																																						
注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備考																																																																																																																																		
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.05~0.2	・200~250	・																																																																																																																																			
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2~1.0	・250~300																																																																																																																																				
・機械式エポキシ樹脂注入工法																																																																																																																																						
充填材料	品質・規格等	備考																																																																																																																																				
・シーリング用材料	※1成分形または2成分形ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充填※行う・行わない																																																																																																																																				
・可とう性エポキシ樹脂	・JIS A 6024																																																																																																																																					
タイルの種類	工法																																																																																																																																					
○外装タイル	・密着張り ・改良積上げ張り																																																																																																																																					
・ユニットタイル	・マスク張り ・モザイクタイル張り																																																																																																																																					
タイルの種類	裏あし高さ	裏面反り	接着剤使用量																																																																																																																																			
・外装タイル	裏あし高さ0.9mm以下、かつ、裏面反り±0.7mm以下	上記以外	2.5kg/m ²																																																																																																																																			
・ユニットタイル	裏あし高さ0.9mm以下、かつ、裏面反り±0.7mm以下	上記以外	2kg/m ²																																																																																																																																			
・外装壁タイル接着剤張り専用タイル以外のタイル	上記以外		2.5kg/m ²																																																																																																																																			
目地の位置	寸法																																																																																																																																					
・図面による																																																																																																																																						
シーリング用材料	種類	施工箇所																																																																																																																																				
・		・図面による																																																																																																																																				
施工箇所	形状寸法 (mm)	うわぐすり	役物	色	再生材	対凍害性	用途による区分	備考																																																																																																																														
									施	無	あり	なし	標準	特注	適用	あり	なし																																																																																																																					
		施	無	あり	なし	標準	特注	適用	あり	なし																																																																																																																												
2 欠損部改修工法	<p>既存モルタル面の欠損部 [4. 1. 4][4. 2. 2][4. 4. 3][4. 4. 8~9]</p> <table border="1"> <tr> <th>改修工法の種類</th> <th>材料</th> <th>品質・規格等</th> </tr> <tr> <td>・充填工法</td> <td>・エポキシ樹脂モルタル</td> <td>・JIS A 6024</td> </tr> <tr> <td>・モルタル塗替え工法</td> <td>「改修標仕」4. 2. 2(7)による</td> <td>・実績等の資料を監督員に提出 塗り厚25mmを超える場合の補強処置 ※行う・行わない ・図面による</td> </tr> </table>	改修工法の種類	材料	品質・規格等	・充填工法	・エポキシ樹脂モルタル	・JIS A 6024	・モルタル塗替え工法	「改修標仕」4. 2. 2(7)による	・実績等の資料を監督員に提出 塗り厚25mmを超える場合の補強処置 ※行う・行わない ・図面による	<p>②欠損部改修工法</p>	<p>5 マスチック塗材塗り</p> <p>6 外壁用塗膜防水材塗り</p>																																																																																																																										
改修工法の種類	材料	品質・規格等																																																																																																																																				
・充填工法	・エポキシ樹脂モルタル	・JIS A 6024																																																																																																																																				
・モルタル塗替え工法	「改修標仕」4. 2. 2(7)による	・実績等の資料を監督員に提出 塗り厚25mmを超える場合の補強処置 ※行う・行わない ・図面による																																																																																																																																				
3 浮き部改修工法	<p>既製目地材 [4. 3. 4] ・適用する(形状 ※図面による)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類 (モルタルを撤去しない場合)</th> <th colspan="2">アンカーピンの本数 (本/m)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数 (箇所/m)</th> <th rowspan="2">充填量注入量 (ml/箇所)</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td></td> <td></td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※50</td> </tr> </table> <p>アンカーピン [4. 3. 5] 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの</p> <p>注入口付アンカーピン [4. 3. 5] 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外形6mm</p> <p>ポリマーセメントスラリー [4. 3. 5] 実績等の資料を監督員に提出</p>	改修工法の種類 (モルタルを撤去しない場合)	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		充填量注入量 (ml/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25			※25	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法	※13	※20	※12	※20	※50	・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16			※25	・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法	※9	※16	※9	※16	※50	<p>③浮き部改修工法</p> <p>[4. 4. 9~15][表4. 3. 5~6]</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類 (モルタルを撤去しない場合)</th> <th colspan="2">アンカーピンの本数 (本/m)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数 (箇所/m)</th> <th rowspan="2">充填量注入量 (ml/箇所)</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> <tr> <td>○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td></td> <td></td> <td>※25</td> </tr> </table> <p>④下地調整材 [4. 5. 2][4. 5. 4] ※下地調整材 ○ポリマーセメントモルタル 製造所 性能等の確認できる資料を提出し監督員の承諾を受ける。 ・防水形仕上げ塗材主材を使用</p> <p>種類、仕上げの形状、工法 [4. 1. 4][4. 5. 2][表4. 5. 1~2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状等</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td>・薄付仕上塗材</td> <td>・外装薄塗材Si</td> <td>・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状</td> <td>・吹付け ・ローラー</td> </tr> <tr> <td>・可とう形外装薄塗材Si</td> <td>・外装薄塗材Si</td> <td>・砂壁状 ・さざ波状 ・ゆず肌状</td> <td>・吹付け ・ローラー</td> </tr> </table> <p>④仕上げ塗材仕上げ</p>	改修工法の種類 (モルタルを撤去しない場合)	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		充填量注入量 (ml/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25			※25	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法	※13	※20	※12	※20	※50	・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16			※25	種類	呼び名	仕上げの形状等	工法	・薄付仕上塗材	・外装薄塗材Si	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・ローラー	・可とう形外装薄塗材Si	・外装薄塗材Si	・砂壁状 ・さざ波状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー	<p>4 ①施工数量調査 [1. 5. 2] 調査範囲 ※躯体コンクリート面 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 調査報告書の部数 ※2部</p> <p>②既存塗膜等の除去及び下地処理 [4. 5. 4][表4. 5. 3~7] 既存塗膜劣化部の除去、下地処理の工法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法</th> <th>処理範囲</th> <th>下地面の補修</th> </tr> <tr> <td>・サンダー工法</td> <td>※既存仕上面全体</td> <td>○ひび割れ部改修工法</td> </tr> <tr> <td>○高圧水洗工法</td> <td>※既存仕上面全体</td> <td>○浮き部改修工法</td> </tr> <tr> <td>・塗膜はく離剤工法</td> <td>※既存仕上面全体</td> <td>○欠損部改修工法</td> </tr> <tr> <td>・水洗い工法</td> <td>※上記処理範囲以外の既存仕上面全体</td> <td></td> </tr> </table>	工法	処理範囲	下地面の補修	・サンダー工法	※既存仕上面全体	○ひび割れ部改修工法	○高圧水洗工法	※既存仕上面全体	○浮き部改修工法	・塗膜はく離剤工法	※既存仕上面全体	○欠損部改修工法	・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上面全体																									
改修工法の種類 (モルタルを撤去しない場合)	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		充填量注入量 (ml/箇所)																																																																																																																																	
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																																																																																																		
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25			※25																																																																																																																																	
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25																																																																																																																																	
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法	※13	※20	※12	※20	※50																																																																																																																																	
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16			※25																																																																																																																																	
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25																																																																																																																																	
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法	※9	※16	※9	※16	※50																																																																																																																																	
改修工法の種類 (モルタルを撤去しない場合)	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		充填量注入量 (ml/箇所)																																																																																																																																	
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																																																																																																		
○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25			※25																																																																																																																																	
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25																																																																																																																																	
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー工法	※13	※20	※12	※20	※50																																																																																																																																	
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16			※25																																																																																																																																	
種類	呼び名	仕上げの形状等	工法																																																																																																																																			
・薄付仕上塗材	・外装薄塗材Si	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・ローラー																																																																																																																																			
・可とう形外装薄塗材Si	・外装薄塗材Si	・砂壁状 ・さざ波状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー																																																																																																																																			
工法	処理範囲	下地面の補修																																																																																																																																				
・サンダー工法	※既存仕上面全体	○ひび割れ部改修工法																																																																																																																																				
○高圧水洗工法	※既存仕上面全体	○浮き部改修工法																																																																																																																																				
・塗膜はく離剤工法	※既存仕上面全体	○欠損部改修工法																																																																																																																																				
・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上面全体																																																																																																																																					

<p>② 下地調整 ・素地ごしらえ</p> <p>③ 錆止め塗料塗り</p> <p>④ 塗装</p>	<p>既存塗膜の除去範囲 [7.2.1][表7.2.1~7.2.7] (塗替えでRB種の場合) ※劣化部分除去 下地調整・素地ごしらえ [7.2.2~7.3.7][表7.2.1~7.3.7]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">下地面の種類</th> <th colspan="2">下地調整等の種別</th> <th rowspan="2">ひび割れ部の補修</th> </tr> <tr> <th>塗替え</th> <th>新規</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木部</td> <td>※RB種</td> <td>・A種 ・B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td>※RB種</td> <td>※C種 ・DPはB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>垂鉛めっき鋼面</td> <td>※RB種</td> <td>・A種 ・B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>垂鉛めっき鋼面(鋼製建具)</td> <td>※RB種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>モルタル、せつこう プaster面</td> <td>※RB種</td> <td>・A種 ※B種</td> <td>・行う</td> </tr> <tr> <td>コンクリート(8節以 外)、ALCパネル面</td> <td>※RB種</td> <td>・A種 ※B種</td> <td>・行う</td> </tr> <tr> <td>コンクリート(8節)、 押出成形セメント板面</td> <td></td> <td>・A種 ・B種</td> <td>・行う</td> </tr> <tr> <td>せつこうボード、そ の他のボード面</td> <td>※RB種</td> <td>・A種 ・B種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>錆止め塗料塗りの種別 [7.4.2, 7.4.3][表7.4.1~7.4.6]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">塗装面</th> <th rowspan="2">適用</th> <th rowspan="2">塗料種別</th> <th colspan="2">工程種別</th> </tr> <tr> <th>塗替え</th> <th>新規</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">鉄鋼面</td> <td rowspan="2">5節(SOP塗り)</td> <td rowspan="2">※A種</td> <td>※C種</td> <td>・A種(見掛り) ・B種(見隠れ)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8節(DP塗り) 新規面</td> <td rowspan="2">1回目C種 2・3回目 D種</td> <td></td> <td>・A種 ・B種 ・C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8節(DP塗り) 塗替えRA種</td> <td rowspan="2">1回目C種 2・3回目 D種</td> <td></td> <td>・A種 ・B種 ・C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8節(DP塗り) 塗替え RB・RC種</td> <td rowspan="2">※E種</td> <td></td> <td>・A種 ・B種 ・C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">垂鉛め つき鋼 面</td> <td rowspan="2">5節(SOP塗り)</td> <td rowspan="2">※A種</td> <td>※C種</td> <td>・A種(見掛り) ・B種(見隠れ)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8節(DP塗り)</td> <td rowspan="2">※B種</td> <td></td> <td>・A種 ・B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">9節(屋内EP -G塗り)</td> <td rowspan="2">※C種</td> <td>※C種</td> <td>・A種 ・B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>耐火材吹付けなど、被覆材が接着する面への塗装 ・行わない 適用箇所 塗料の種別</p> <p>⑨ 環境配慮改修工事</p> <p>① 石綿の処理</p> <p>一般事項 [9.1.1] 適用範囲 ※除去工法 ・封じ込め工法 ・囲い込み工法 ・仕上げ工事を行う</p> <p>石綿粉じん濃度測定 [9.1.1] ・行う 「改修標仕」9.1.1(6)による</p> <p>除去工法 「改修標仕」9.1.3(2)(7)による [9.1.3] 石綿含有吹付け材の飛散防止措置 ※湿潤化 ・固化 石綿含有吹付け材の処分 [9.1.3] ○埋立処分 ・中間処理</p> <p>3 石綿含有保温材等の除去 [9.1.4] 養生等 作業場の隔離 ・行う ・行わない 石綿含有保温材等の処分 ・埋立処分 ・中間処理</p> <p>4 石綿含有成形板等の除去 [9.1.5] 石綿含有成形板等の処分 ・埋立処分 ・中間処理</p> <p>5 石綿含有仕上塗材の除去 [9.1.6] 除去工法 「改修標仕」9.1.6(3)による [9.1.6] 石綿含有仕上塗材の飛散防止措置 ・負圧隔離養生 ・隔離養生(負圧不要) 石綿含有仕上塗材の処分 [9.1.6] ・埋立処分 ・中間処理</p>	下地面の種類	下地調整等の種別		ひび割れ部の補修	塗替え	新規	木部	※RB種	・A種 ・B種		鉄鋼面	※RB種	※C種 ・DPはB種		垂鉛めっき鋼面	※RB種	・A種 ・B種		垂鉛めっき鋼面(鋼製建具)	※RB種			モルタル、せつこう プaster面	※RB種	・A種 ※B種	・行う	コンクリート(8節以 外)、ALCパネル面	※RB種	・A種 ※B種	・行う	コンクリート(8節)、 押出成形セメント板面		・A種 ・B種	・行う	せつこうボード、そ の他のボード面	※RB種	・A種 ・B種		塗装面	適用	塗料種別	工程種別		塗替え	新規	鉄鋼面	5節(SOP塗り)	※A種	※C種	・A種(見掛り) ・B種(見隠れ)			8節(DP塗り) 新規面	1回目C種 2・3回目 D種		・A種 ・B種 ・C種			8節(DP塗り) 塗替えRA種	1回目C種 2・3回目 D種		・A種 ・B種 ・C種			8節(DP塗り) 塗替え RB・RC種	※E種		・A種 ・B種 ・C種			垂鉛め つき鋼 面	5節(SOP塗り)	※A種	※C種	・A種(見掛り) ・B種(見隠れ)			8節(DP塗り)	※B種		・A種 ・B種			9節(屋内EP -G塗り)	※C種	※C種	・A種 ・B種			<table border="1"> <tr> <td>・ウレタン樹脂 ワニス塗り (屋内)(UC)</td> <td>木部</td> <td>※B種</td> <td>※B種</td> </tr> <tr> <td>・木材保護塗料 塗り(WP)</td> <td>木部</td> <td>※B種</td> <td>※B種</td> </tr> </table> <p>合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)の塗料の種別 [7.5.2] ※1種</p> <p>耐候性塗料塗り(DP)の上塗り塗料の等級 [7.8.2][7.8.3] ○鉄鋼面(フ素) ○垂鉛めっき鋼面(フ素)</p> <p>つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)のしみ止め ・しみ止めシーラー 合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)のしみ止め ・しみ止めシーラー</p> <p>ステイン塗りの塗料 [7.12.2] ・()</p> <p>⑨ 断熱・防露改修工事(外壁)</p> <p>材料(外断熱) [9.2.2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種別</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・ビーズ法ポリ スチレン ・ビーズ法ポリ スチレンフ ォーム保温材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・保温板(2種b)</td> <td>・25</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・押出法ポリ スチレンフ ォーム保温材A種</td> <td>・保温板(3種b)</td> <td>・25</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・フェノール フォーム保温材</td> <td>※F☆☆☆☆</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ロックウール</td> <td>・JIS A 9504</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・グラスウール</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>外装材の種類及び防火性能 [9.2.2] ・図面による</p> <p>既存外壁の処置 [9.2.3] 既存外壁の仕上げ材撤去 ・図面による 下地面の清掃 ・行う 下地面欠損部の改修工法 ・図面による</p> <p>工法 [9.2.4] 通気層の有無及び厚さ 断熱材施工 外装材の施工</p> <p>7 断熱・防露改修工事 [9.3.2] 断熱材打込み工法 断熱材の種類 接着剤の単位体積放出量 ※F☆☆☆☆</p> <p>断熱材現場発泡工法 [9.3.3] 断熱材の種類 断熱材の吹付け厚さ 断熱材後張り工法 [9.3.4] 断熱材の種類 接着剤の単位体積放出量 ※F☆☆☆☆</p> <p>8 屋上緑化 [9.4.2] 材料 芝及び地被類の種類等 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 工法 [9.4.3] 固定工法 かん水装置 既存保護層の撤去 新植芝等の枯植償</p> <p>新植した芝及び地被類の枯れ補償期間 ※引渡しの日から1年</p> <p>9 透水性アスファルト舗装 [9.5.2] 既存舗装の撤去及び再利用 既存舗装の撤去 ※図面による 既存舗装の再利用 ※図面による 路床の構成、材料及び厚さ等 [9.5.3] ・遮断層を設置 (mm) [表9.5.1~9.5.3] 材料 ※川砂、海砂又は良質な山砂とし、品質は75µm ふるい通過量が10%以下のもの ・凍上抑制層を設置 材料 厚さ(mm) フィルター層の厚さ(mm) 車道部 ※150 歩道部 ※50</p> <p>・路床安定処理 方法 ※添加材料による安定処理 厚さ ()mm CBR () 添加材料の種類 ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・普通ポルトランドセメント ・生石灰 () ・消石灰 ()</p> <p>・ジオテキスタイル ジオテキスタイルの品質: 盛土の種類 ・A種 ・B種 ・C種 C種の場合(建設発生土受入量()m3 発生場所) 発生土の処理 ※指定処分 () ・構内指示の場所に堆積 ・構内指示の場所に敷き均し ・再利用 () ・確認処分</p> <p>・路床土の支持力比(CBR)試験 ・路床の締固め度試験 ・現場CBR試験 ・砂の粒度試験</p> <p>路盤材料及び厚さ等 [9.5.4] 路盤材料 ※再生クラッシャーラン(RC-40) ・クラッシャーラン(C-40) ・クラッシャーラン鉄鋼スラグ(CS-40)</p> <p>路盤厚さ(mm) 車道部 ※150 歩道部 ※100</p> <p>・路盤の締固め度試験</p>	・ウレタン樹脂 ワニス塗り (屋内)(UC)	木部	※B種	※B種	・木材保護塗料 塗り(WP)	木部	※B種	※B種	種類	種別	厚さ(mm)	施工箇所	・ビーズ法ポリ スチレン ・ビーズ法ポリ スチレンフ ォーム保温材				・保温板(2種b)	・25		・押出法ポリ スチレンフ ォーム保温材A種	・保温板(3種b)	・25					・フェノール フォーム保温材	※F☆☆☆☆			・ロックウール	・JIS A 9504			・グラスウール				<p>① 事前調査</p> <p>② 工事打合せ</p> <p>③ 安全対策</p> <p>④ 作業上の注意</p> <p>⑤ 書類の提出</p> <p>⑥ 工事写真</p> <p>⑦ 完成時提出書類</p> <p>⑧ かし自主点検及びかし補修</p> <p>⑨ 保証書</p> <p>10 塗膜防水仕上げ塗料</p>	<p>舗装材料及び厚さ等 [9.5.5~6] 車道部 ※ストレートアスファルト 厚さ(mm) ※50 歩道部 ※ストレートアスファルト 厚さ(mm) ※30 舗装の平たん性 [9.5.5] ※著しい不陸がないもの ・透水性アスファルト混合物等の抽出試験を行う [9.5.9]</p> <p>工事着手にあたり、工事施工範囲及び搬入路等の現状調査を十分に に行い、記録しておく。 万一、施設等に損傷を与えた場合は、直ちに監督員に報告し 施工者の負担で速やかに原型に復旧する。</p> <p>工事着手にあたり、実施工程表を作成のうえ監督員及び施設 管理者と打合せを行う。 工事に関する打合せ記録簿を作成し、提出する。</p> <p>作業範囲は常に整理整頓に心掛け、災害事故の予防には最大限の 注意を払う。足場は関係者以外の人や幼児が容易に入り込めない ようにしておく。 揚重設備の配置についても、危険のないよう常に安全の確保に 努める。</p> <p>作業所への出入りに際しては、ヘルメット・腕章等にて身分を明らか にし、休憩・喫煙は指定された場所で行い、工事に関係ない部屋 には出入りしない。 工事車輛は指定された場所に駐車し、路上には絶対に駐車しない。 作業上生じた疑問や変更等については、速やかに監督員に連絡し 指示を受ける。 有機溶剤を使用する場合は、作業所内への持ち込み量は必要 最小限とし、関係法令を順守する。</p> <p>下記の書類は工事着手前に提出する (1)現場代理人選定通知書 (2)下請け人選定通知書 (3)工事用材料等承諾願 (4)その他指定された書類</p> <p>工事写真は工程毎に入念に撮影し、説明文をつけて写真帳に整理 し1部を提出する。 特に隠蔽される部分の記録写真がない場合は、検査員または 監督員が請負人の責任で破壊検査、復旧を指示する場合がある。</p> <p>下記の書類については、工事完成時にA47A11にまとめて提出する こと。 (1)材料等出荷証明書(使用材料一覧表及び色形表含む) (2)産業廃棄物処理報告書(マニフェスト伝票) (3)完成図面 (4)工事写真 (5)その他 監督員の指示した書類</p> <p>※かし自主点検の履行は監督員の指示による ※かし自主点検履行の指示があった場合、工事完成引渡し後 速やかに、かし自主点検計画書を提出する ※引き渡しの日から1年以内(原則として引き渡しの日から起算 して11か月を経過以降、12か月経過する以前の期間)に施設 管理者立ち会いのうえ、かし自主点検を行う。 ※かし自主点検終了時に、下記の書類を提出する。 (1)かし自主点検報告書 (2)かし自主点検チェックリスト(写真添付) ※かし補修が出た場合は、補修方法及び報告方法を監督員と 協議し対応する。</p> <p>下記工事について、保証書(請負人・施工者・メカ)を提出すること (1)屋根葺き工事 5年 ※10年 (2)防水工事 5年 ※10年 (3)外壁工事塗膜保証 ※5年 年 (4)外壁工事防水保証 5年 ※10年 (5)シリング 5年 ○10年 (6)外壁塗装 ○5年 年</p> <p>※塗膜防水仕上げ塗料は、遮熱塗料とする</p>
下地面の種類	下地調整等の種別		ひび割れ部の補修																																																																																																																																
	塗替え	新規																																																																																																																																	
木部	※RB種	・A種 ・B種																																																																																																																																	
鉄鋼面	※RB種	※C種 ・DPはB種																																																																																																																																	
垂鉛めっき鋼面	※RB種	・A種 ・B種																																																																																																																																	
垂鉛めっき鋼面(鋼製建具)	※RB種																																																																																																																																		
モルタル、せつこう プaster面	※RB種	・A種 ※B種	・行う																																																																																																																																
コンクリート(8節以 外)、ALCパネル面	※RB種	・A種 ※B種	・行う																																																																																																																																
コンクリート(8節)、 押出成形セメント板面		・A種 ・B種	・行う																																																																																																																																
せつこうボード、そ の他のボード面	※RB種	・A種 ・B種																																																																																																																																	
塗装面	適用	塗料種別	工程種別																																																																																																																																
			塗替え	新規																																																																																																																															
鉄鋼面	5節(SOP塗り)	※A種	※C種	・A種(見掛り) ・B種(見隠れ)																																																																																																																															
	8節(DP塗り) 新規面	1回目C種 2・3回目 D種		・A種 ・B種 ・C種																																																																																																																															
8節(DP塗り) 塗替えRA種	1回目C種 2・3回目 D種		・A種 ・B種 ・C種																																																																																																																																
8節(DP塗り) 塗替え RB・RC種	※E種		・A種 ・B種 ・C種																																																																																																																																
垂鉛め つき鋼 面	5節(SOP塗り)	※A種	※C種	・A種(見掛り) ・B種(見隠れ)																																																																																																																															
8節(DP塗り)	※B種		・A種 ・B種																																																																																																																																
9節(屋内EP -G塗り)	※C種	※C種	・A種 ・B種																																																																																																																																
・ウレタン樹脂 ワニス塗り (屋内)(UC)	木部	※B種	※B種																																																																																																																																
・木材保護塗料 塗り(WP)	木部	※B種	※B種																																																																																																																																
種類	種別	厚さ(mm)	施工箇所																																																																																																																																
・ビーズ法ポリ スチレン ・ビーズ法ポリ スチレンフ ォーム保温材																																																																																																																																			
	・保温板(2種b)	・25																																																																																																																																	
・押出法ポリ スチレンフ ォーム保温材A種	・保温板(3種b)	・25																																																																																																																																	
・フェノール フォーム保温材	※F☆☆☆☆																																																																																																																																		
・ロックウール	・JIS A 9504																																																																																																																																		
・グラスウール																																																																																																																																			
備考																																																																																																																																			
工事名		横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事																																																																																																																																	
図面名称		建築改修工事 特記仕様書その4 図面番号																																																																																																																																	
作成年月		令和8年3月																																																																																																																																	
公益財団法人		横浜企業経営支援財団																																																																																																																																	
		A-05																																																																																																																																	

<p>■工事内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 2号館(RC造+S造:珪砂)の外壁その他改修工事を行う 渡り廊下(S造)の外壁その他改修工事を行う 1号館の屋上・屋根の防水改修工事を行う 	<p>■案内図</p> <p>工事場所：横浜市鶴見区小野町72番6外（住居表示：小野町75-1）</p> 	<p>■安全対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 工事資材の搬入出は施設側の搬入出等と事前に調整すること。 敷地内での工事車両安全速度は「5km/h」以下とすること。 外部足場の昇降口や資材置き場の出入口は常に施錠し、第三者の工事エリアへの進入を防ぐこと。工事場所は必ず区画し、作業は必ず工事区画内で行い、工事箇所には工事関係者以外の人が安易に入り込めないようにする。 工事区域周囲や資材置場の仮囲いの出入口は、作業中においても常に施錠し、工事関係者以外の第三者の工事区域内の侵入を防ぐこと。 仮囲い等の仮設物の設置後は常に点検を行い、不備が認められた際には速やかに是正処置を講ずること。 火気使用時(アーク溶接等)には床・壁共防災シートの養生を行い消火器を設置する。また、火気使用30分後に、作業場所の安全を確認すること。 急な暴風雨、豪雨等にも迅速に対応出来るよう、予め体制を整備しておくこと。 外部仮囲い等は強固に固定し、また、施設利用者が触れても危険が無いよう設置すること。 震度4以上の地震発生時や暴風・大雨警報などの「悪天候」が予想される時は、事前に点検し対策を実施して災害防止に備えるとともに事後点検結果を報告すること。 搬入に伴う工事車両の運用、荷揚げ等、やむを得ず一時的に工事エリア外での作業を行う際には、カーコンコーン等に区画を行うと共に、工事施工区域とは別に監視員を配置し、第三者の安全を確保すること。 関係法令、各種規準を遵守し、第三者の安全確保対策を充分に行うこと。
--	--	--

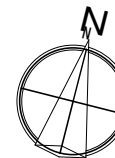
<p>■一般事項-1(共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 工事着手に先立ち本図を参考とし、監督員・施設管理者ほかの関係機関と綿密な協議を行い、施設運営に支障のない工事計画を行い、「安全管理施工計画書」を作成し、監督員に提出し確認を得たのちに着手すること。 全ての各種工事の施工に先立っては、施工計画書・施工図・製作図等の工事関係必要書類を作成し、監督員に提出し確認を得たのちに着手すること。 既存部分の解体作業ほか工事に伴う騒音・振動・粉塵・臭気の発生等の環境汚染の抑止に努め、諸官庁への必要な手続きは、適時延滞なく行うこと。 工事区域、及び周囲の作業通路ほか工事関連箇所全ての既存部分の養生を行い、完成検査(引渡し)前に清掃(クリーニング)を行うこと。 コンクリートの壁及び床のはつりや叩きを行う場合は、事前に施設で保管している図面等を参照し、現場調査を入念に行うこと。また、作業前にインスペクション調査等を行うなど、埋設物を破損させない準備を行うこと。 土間解体及び、掘削等の作業には以下に注意すること。 <ul style="list-style-type: none"> 範囲内の地中埋設物を損傷させないよう、解体掘削は慎重に行い急激な作業を行わないこと。 状況に応じ重機を使わず、手はつり、手堀で作業を行うこと。 自動火災報知機感知器が誤発報しないよう、以下による適切な対応を行うこと。 <ul style="list-style-type: none"> また、工事範囲内の感知器への対応は以下とすること。 <ul style="list-style-type: none"> 感知器には専用カバー等で養生を行う。作業時間帯以外は取り外すこと。 室内温度差等により感知器が作動しないよう、投光器等の熱源は感知器から距離を置き、熱の影響を受けないよう考慮すること。 万一自動火災報知機感知器が発報した際、工事によるものか否かを確認する方法や発報を停止する措置(施設側対応)に関して、事前に施設管理者と協議を行っておくこと。 材料の搬入に使用する廊下、階段には養生(ベニヤ板)を行うこと。 図中以外に必要なと思われる箇所には養生を行い、資材置場・工事箇所は仮囲いを設けること。 	<p>■一般事項-2(壁面改修)</p> <ol style="list-style-type: none"> 工事に先立ち、施工計画、施工仕様、安全対策等を記載した「施工要領書」を提出し監督員の承認を得ること。 既存外壁塗膜の付着力試験を各面100m²ごと及びその端数につき1か所以上、かつ各面3か所以上行ない0.7N/mm²以上あることを確認する。下回った場合は監督員と協議のうえ、当該面の下地洗浄に超高压洗浄・サワー掛けなど工期を考慮した適正な工法を選択し、脆弱塗膜を除去すること。 外壁モルタルの浮き処理に使用するアンカーピンの長さは、試し孔をあけ決定すること。試験体は各面100m²ごと及びその端数につき1か所以上、かつ各面3か所以上行い、モルタル部を穿孔してその最大厚みを確認し、その厚さに30mmを加えた長さをピンの長さとする。 <ul style="list-style-type: none"> ※施工面が多い場合は、一定の範囲を調査後、上記を行うこととする。 監督員下検査時に膜厚計を用意すること。測定位置は上階部・中階部・下階部とする。(膜厚基準として1mm以上を目安とする。) 雑金物周囲にはシーリング打ち(3方)を行う。 原則として0.2mm未満のクラック補修は、下地調整材・防水形複層塗材Eによる処理とする。ただし、漏水等があり補修方法が前記では不十分と判断される部分は、監督員と協議のうえ工法を変更する。 足場掛け後、改修範囲の外壁調査を実施し、調査報告書を作成し監督員と協議すること。作業は施工範囲、数量を計画上確定したうえで着手すること。 施工完了後、施工報告書を提出すること。 	<p>■足場設置基準</p> <p>外部足場</p> <ol style="list-style-type: none"> 外部足場の外側には防災I類ネット状養生シートをGLまで設置し、下記の養生枠を設置すること。 <ul style="list-style-type: none"> ■ GL+H1,800までは金網式養生枠を設置する。 □ GL+H2,000までは塗装した仮囲鉄板を足元の隙間がないよう設置する。 □ GL+H3,000までは塗装した仮囲鉄板を足元の隙間がないよう設置する。 外部足場は設置場所を汚さないようシート養生を行った上に設置する。また、足場の外へ現場のゴミなどが出ないように処理すること。 足場の出隅は緩衝材等で養生を行うこと。 足場の外部に金物等の突起物が出る場合は緩衝材や既製の養生材で養生を行うこと。 枠組足場・くさび緊結式足場は手すり先行据置方式とすること。 手すり、下棧、幅木は四方に設置する。 層間ネットは専用金具を使用し、2層毎に設置する。 足場柱の柱脚部は、短・長辺方向に根がらみを設置する。 壁つなぎ用後施工アンカーはコンクリート躯体に直に打ち込むこと。そのため、事前に躯体コンクリートまでの仕上材厚(モルタルやタイル)を測定しておくこと。 壁つなぎの設置 <ul style="list-style-type: none"> 垂直方向：根がらみ上から始めて2m²毎及び最上部は全縦地に取り付ける。 水平方向：外壁角から近い建地から2m²毎に設置する。 足場組立等作業主任者の掲示、最大荷重の表示を行う。 壁つなぎ穿孔作業は石綿作業主任者が常駐のうえ「石綿作業主任者」又は「石綿作業従事者特別教育修了者」が行い、集塵機及びHEPAフィルター付きドリルを使用し、既存外壁塗材の飛散を防止すること。 バラハット外周(外部足場設置部を除く)には全てスタンプを設置する。
---	---	---

備考	<table border="1"> <tr> <td>工事名</td> <td>横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ)2号館外壁その他改修工事</td> </tr> <tr> <td>図面名称</td> <td>工事内容、案内図、安全対策、一般事項、足場設置基準</td> </tr> <tr> <td>作成年月</td> <td>令和8年3月</td> </tr> <tr> <td>図面番号</td> <td>A-06</td> </tr> </table> <p>公益財団法人 横浜企業経営支援財団</p>	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ)2号館外壁その他改修工事	図面名称	工事内容、案内図、安全対策、一般事項、足場設置基準	作成年月	令和8年3月	図面番号	A-06
工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ)2号館外壁その他改修工事								
図面名称	工事内容、案内図、安全対策、一般事項、足場設置基準								
作成年月	令和8年3月								
図面番号	A-06								



配置図 1/300

- 凡例
- 今回外壁改修工事範囲
 - 今回防水改修工事範囲
 - .○○ 地盤面の高さ(標高)



備考
1. 標高+3.300(=IFL-0.15)を基準GLとする

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
図面名称	配置図	図面番号
作成年月	令和8年3月	
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		A-07

■ 外壁面・屋根面の改修内容一覧表

【主な既存仕上げ】 外壁・梁型・上げ裏：浸透性吸水防止材フッ素樹脂クリア(石綿含有の有無：無し) PH:防水型複層塗材E(石綿含有の有無：無し)

区分	No.	項目	概要	区分	No.	項目	概要									
仕 上 げ 関 係	①	低汚染型水性フッ素樹脂クリア塗料 塗替え	カークリアー	外壁等	64	エアコン屋外機廻りメッシュフェンス脱着	メッシュフェンス部分のみ(支柱はそのまま)									
	②	低汚染型水性フッ素樹脂クリア塗料 塗替え	カークリアー	外壁等	65	樋受け石新設	【BD-03】									
	③	防水形複層塗材E 塗替え	凸凹模様	PH廻りの外壁等	66											
	④	低汚染型水性弾性フッ素樹脂塗装 塗替え		外幅木	67											
	⑤	外装薄塗材E 塗替え	砂壁状	大庇・バルコニー上げ裏	68											
	⑥	外壁タイル クリーニング		酸洗い(環境対応型)	69											
	⑦				70											
	⑧				71	自転車置き場移動・再設置										
	⑨				72											
	⑩				73											
防 水 ・ シ ー リ ン グ 関 係	11	高伸長型ウレタン塗膜防水 立上り・バルコニー等天端		密着工法	74											
	12	高伸長型ウレタン塗膜防水 壁面		同上	75											
	13	高伸長型ウレタン塗膜防水 平場・立上り		同上	76											
	14	外部建具廻りシーリング		変成シリコン系(MS-2) 15×10	77											
	15	水切り部シーリング		同上	78											
	16	打継部目地シーリング		変成シリコン系(MS-2) 25×10	79											
	17	誘発目地部シーリング		同上	80											
	18	ALC版ジョイント目地シーリング		ホリウレタン系(PU-2) 10×10	99	AC屋外機、ACドレン管、ラッキング配管・冷媒管、亜鉛メッキ管(電線管)	既存のまま									
	19	PCaジョイント目地シーリング		変成シリコン系(MS-2) 25×10		ガス管(塩ビ被覆)、手すりフェンス類										
	20	ALC～躯体ジョイント部、PCa～躯体ジョイント部シーリング		同上												
	21	EXP. J部シーリング		変成シリコン系(MS-2) 30×10	凡 例											
	22	ベントキャップ、スリーブ、ホックス等廻りシーリング(3方)		変成シリコン系(MS-2) 10×10	<input checked="" type="checkbox"/>	エアコン室外機	<input checked="" type="checkbox"/> ガス給湯器									
	23	外灯、ブラケット等廻りシーリング(3方)		同上	<input checked="" type="checkbox"/>	換気扇エザーカバー-:30cm扇用	<input type="checkbox"/> 外灯									
	24	手すり支柱周囲シーリング		同上	<input type="checkbox"/>	換気扇エザーカバー-:特記無き限り25cm扇用	<input checked="" type="checkbox"/> 分電盤等ホックス類									
	25	支持金物廻りシーリング(3方)		同上	<input checked="" type="checkbox"/>	ベントキャップ	<input checked="" type="checkbox"/> スピーカー									
	26	金属ハネ廻りシーリング	渡り廊下、2号館マリアン他	変成シリコン系(MS-2) 20×10	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 時計									
	27	高伸長型ウレタン塗膜防水 平場		通気緩衝工法(接着固定)												
	28	露出アスファルト防水 平場・立上り	1号館EV屋根・電気室屋根		註 記											
	29	常温アスファルト系塗膜防水	1号館EV屋根 配管基礎	2液性常温反応型改質アスファルト系塗膜防水												
	30															
塗 装 関 係	31	鉄部塗替え DP塗り	鋼製建具は両面、枠共	工程B種 塗料1種 錆止工程C 塗料A 下地RB種(塗替え面)	1. 特記なき限り、梁底・下がり壁底の改修は①または②とする。また天井面の仕上げは天井伏図による。 2. 立面図に表現しきれないバルコニーなどの手すりは背面も表面に做うこと。 3. 防水形複層塗材面の各種配管の貫通部及び支持金物、各種機器(スピーカー・照明器具等)の周囲3方にはシーリング(MS-2)を施すこと。 4. 電気分電盤および配管のホックスは周囲3方にシーリング(MS-2)を施すこと。 5. 外壁下地処理の際に配管類も洗浄すること。 6. 使用材料はいずれも「F☆☆☆☆」とすること。 7. DP塗装はフッ素樹脂系とすること。											
	32	鉄製配管塗替え DP塗り	配管名表示	同上												
	33	鋼製ホックス(分電盤他)塗替え DP塗り		同上												
	34	樹脂製配管類塗替え DP塗り	配管名表示	工程B種 下地RB種(塗替え面)												
	35	樹脂製飾り柵塗替え DP塗り		同上												
	36	樹脂製縦樋塗替え DP塗り		同上												
	37	ドレン清掃・塗替え タルフリー変成珪矽塗り		同上												
	38	縦樋受け樹鉄蓋 タルフリー変成珪矽塗り		同上												
	39	天井ホード面塗替え EP-G塗り	既存フレックスメット類	同上												
	40	壁ホード面塗替え EP-G塗り	同上	同上												
	41	コンクリート面塗替え 高耐候性水性フッ素樹脂塗り	光沢、6色塗り分け	同上												
	42	金属ハネ面塗替え 高耐候性水性フッ素樹脂塗り	光沢、6色塗り分け	同上												
	43	コンクリート面・PCa面塗り 高耐候性水性フッ素樹脂塗り	梁型等の天端	工程B種 下地RB種(新規面)												
	44	樹脂製縦樋塗り EP-G塗り水性反応硬化形弾性ホリウレタン樹脂塗り		同上												
	45	フッ素樹脂塗装鋼板瓦棒葺き面 DP塗り														
	46															
	47															
	48															
	49															
	50															
金 物 関 係	51	換気扇エザーカバー 撤去新設		ステンレス製 特記無き限り30cm扇用												
	52	ベントキャップ 撤去新設		ステンレス製 焼き付け塗装 防虫網付き シーリング(MS-2)												
	53	消火器ホックス 撤去新設		ステンレス製 三方シーリング(MS-2)、消火器(既存再使用)												
	54	飾り柵 撤去新設		塩ビ製 220×300												
	55	縦樋 撤去新設	カーVP管	φ100 摺り金物SUS共 樋下り止め取付け												
	56	縦樋 支持金物交換	樋脱着共	φ100 SUS製専用アンカ打ち												
	57	縦樋受け樹鉄蓋 撤去新設		74.5フェックオフレート閉閉式 タルフリー変成珪矽塗り												
	58	設備配管ステンレスラッキング 撤去新設														
	59	換気扇エザーカバー取外し再取付け		※建具廻りシーリング 打替えのため												
	60	手すり、面格子、タラップ、ホックス類クリーニング		洗浄仕上げ												
	61	サッシ・ガラスクリーニング	エザーカバー含む	洗浄仕上げ												
	62	壁取付け物 取外し再取付け		清掃共												
	63	不要金物類 撤去														

備 考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	改修内容一覧表、補修数量集計	図面番号
	作成年月	令和8年3月	
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		A-08

■ 外壁改修塗装仕様

① 低汚染型水性珩素樹脂ｸﾞﾗｰ塗料 塗替え (外壁垂直面・外壁水平面)			
工程・材料	工法	所要量(※1)	備考
下地処理A	「高圧水洗機による水洗い工法」にて 汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存塗膜を除去	加圧力30～50MPa	
下地処理B	下地処理Aとデｯｷﾝｸﾞ剤、剥離剤等を併用して既存塗膜を完全に除去		
下地調整(状況に応じて)	下地処理によって、ピンホール・ｼﾞｬﾝｶ等が現れた場合は樹脂ﾓﾙﾄ等をすり込み平滑に仕上げる		
下塗り 水性珩素樹脂塗料用下塗り材	全面にﾛｰｰ塗り	0.12～0.18kg/m2	躯体の吸水防止
中塗り 水性珩素樹脂系ﾓﾙｼﾞｮﾝ塗料	全面にﾛｰｰ塗り	0.10～0.15kg/m2	
色斑調整 水性珩素樹脂系ﾓﾙｼﾞｮﾝ塗料	周囲の色に合わせてﾊﾞｯﾃｲﾝｸﾞし、躯体面のﾓﾗを消す	0.01～0.02kg/m2	
上塗り 上塗り用水性珩素樹脂系ﾓﾙｼﾞｮﾝ塗料	全面にﾛｰｰ塗り	0.08～0.12kg/m2	ｶｰｸﾘｰｰ仕上げ
下地処理Bは、下地処理Aで劣化した既存塗膜が除去できない場合の仕様とする			

② 低汚染型水性珩素樹脂ｸﾞﾗｰ塗料 塗替え (外壁垂直面・外壁水平面)			
工程・材料	工法	所要量(※1)	備考
下地処理	「高圧水洗機による水洗い工法」にて 汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存塗膜を除去	加圧力30～50MPa	
下地調整(状況に応じて)	下地処理によって、ピンホール・ｼﾞｬﾝｶ等が現れた場合は樹脂ﾓﾙﾄ等をすり込み平滑に仕上げる		
下塗り 水性珩素樹脂系ﾓﾙｼﾞｮﾝ塗料	全面にﾛｰｰ塗り	0.10～0.15kg/m2	
上塗り 上塗り用水性珩素樹脂系ﾓﾙｼﾞｮﾝ塗料	全面にﾛｰｰ塗り	0.08～0.12kg/m2	ｶｰｸﾘｰｰ仕上げ
参考製品：ﾓﾝﾌﾟﾝ BF-A105同等品以上			

③ 防水形複層塗材E 塗替え (JIS A 6909) (PH等の外壁垂直面・ALCﾊﾞｰﾙ面・押出し成形セメント板面)			
工程・材料	工法	所要量	備考
下地処理	「高圧水洗機による水洗い工法」にて 汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存塗膜を除去	加圧力30～50MPa	
下地調整塗材(C-1 ｷﾞｰｰﾒﾝﾄ系) (※1)	全面にﾛｰｰ塗り	0.8kg/m2以上	
下塗り 防水形複層塗材用下塗り材(JIS A 5663)	全面にﾛｰｰ塗り	0.1kg/m2以上	
増塗り	出隅・入隅・目地部・開口部回り等に、はけ又はﾛｰｰ塗りにより、端部に段差のないように塗り分ける	0.9kg/m2以上	
主材基層塗り	2回に色分けをし、全面にﾛｰｰ塗り	1.7kg/m2以上	
主材模様塗り(ﾊﾞｰﾗｯﾄ天端等の平場はﾌﾗｯﾄ)	全面にﾛｰｰ塗り	0.9kg/m2以上	
仕上塗料塗り 超低汚染型水性弾性珩素樹脂塗装	2回に色分けをし、全面にﾛｰｰ塗り	0.25kg/m2以上	
(※1)下地補修等で不陸が著しく生じる部分は下地調整塗材(C-2 ｷﾞｰｰﾒﾝﾄ系)を使用すること 参考製品：ﾓﾝﾌﾟﾝ GT-P103同等品以上			

④④ 高耐候性水性珩素樹脂塗装 塗替え (ｺﾝｸﾘｰﾄ・PCa面)			
工程・材料	工法	所要量	備考
下地処理	「高圧水洗機による水洗い工法」にて 汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存塗膜を除去	加圧力30～50MPa	
下地調整塗材(C-1 ｷﾞｰｰﾒﾝﾄ系) (※1)	全面にﾛｰｰ塗り	0.8kg/m2以上	
下塗り ｷﾞｰｰ樹脂系ﾌﾞﾗｲｰｰ	全面にﾛｰｰ塗り	0.1～0.17kg/m2	
中塗り 弱溶剤形ｱｸﾘﾙ・ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗料	全面にﾛｰｰ塗り	0.11～0.14kg/m2	
仕上塗料塗り 高耐候性水性珩素樹脂塗装	全面にﾛｰｰ塗り	0.08kg/m2以上	
(※1)下地補修等で不陸が著しく生じる部分は下地調整塗材(C-2 ｷﾞｰｰﾒﾝﾄ系)を使用すること 参考製品：ﾓﾝﾌﾟﾝ GT-B305同等品以上			

⑤ 高耐候性水性珩素樹脂塗装 塗替え (金属ﾊﾞｰﾙ面)			
工程・材料	工法	所要量	備考
下地処理	「高圧水洗機による水洗い工法」にて 汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存塗膜を除去	加圧力30～50MPa	
素地ごしらえ			RB種
下塗り ｷﾞｰｰ樹脂系ﾌﾞﾗｲｰｰ	全面にﾛｰｰ塗り	0.13～0.16kg/m2	
中塗り 弱溶剤形ｱｸﾘﾙ・ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗料	全面にﾛｰｰ塗り	0.11～0.14kg/m2	
仕上塗料塗り 高耐候性水性珩素樹脂塗装	全面にﾛｰｰ塗り	0.08kg/m2以上	
参考製品：ﾓﾝﾌﾟﾝ GT-C305同等品以上			

⑥ 外装薄塗材E 塗替え 透水性(庇・ﾊﾞｰﾙｺｰｰ等広い面積の上裏)			
工程・材料	工法	所要量	備考
下地処理	「高圧水洗機による水洗い工法」にて 汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存塗膜を除去	加圧力30～50MPa	
下地調整塗材(C-1 ｷﾞｰｰﾒﾝﾄ系) (※1)	全面にﾛｰｰ塗り	0.8kg/m2以上	
下塗り	全面にﾛｰｰ塗り	0.1kg/m2以上	
主材塗り	2回に色分けをし、全面にﾛｰｰ塗り	1.5kg/m2以上	
(※1)下地補修等で不陸が著しく生じる部分は下地調整塗材(C-2 ｷﾞｰｰﾒﾝﾄ系)を使用すること			

備考 1. 使用材料はいずれも「F☆☆☆☆」とすること。 2. 水洗い工法の加圧力は試験施工を行ったうえで決定すること。	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	外壁改修塗装仕様	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-09
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

■ 防水改修仕様

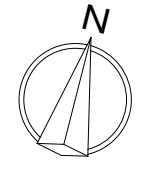
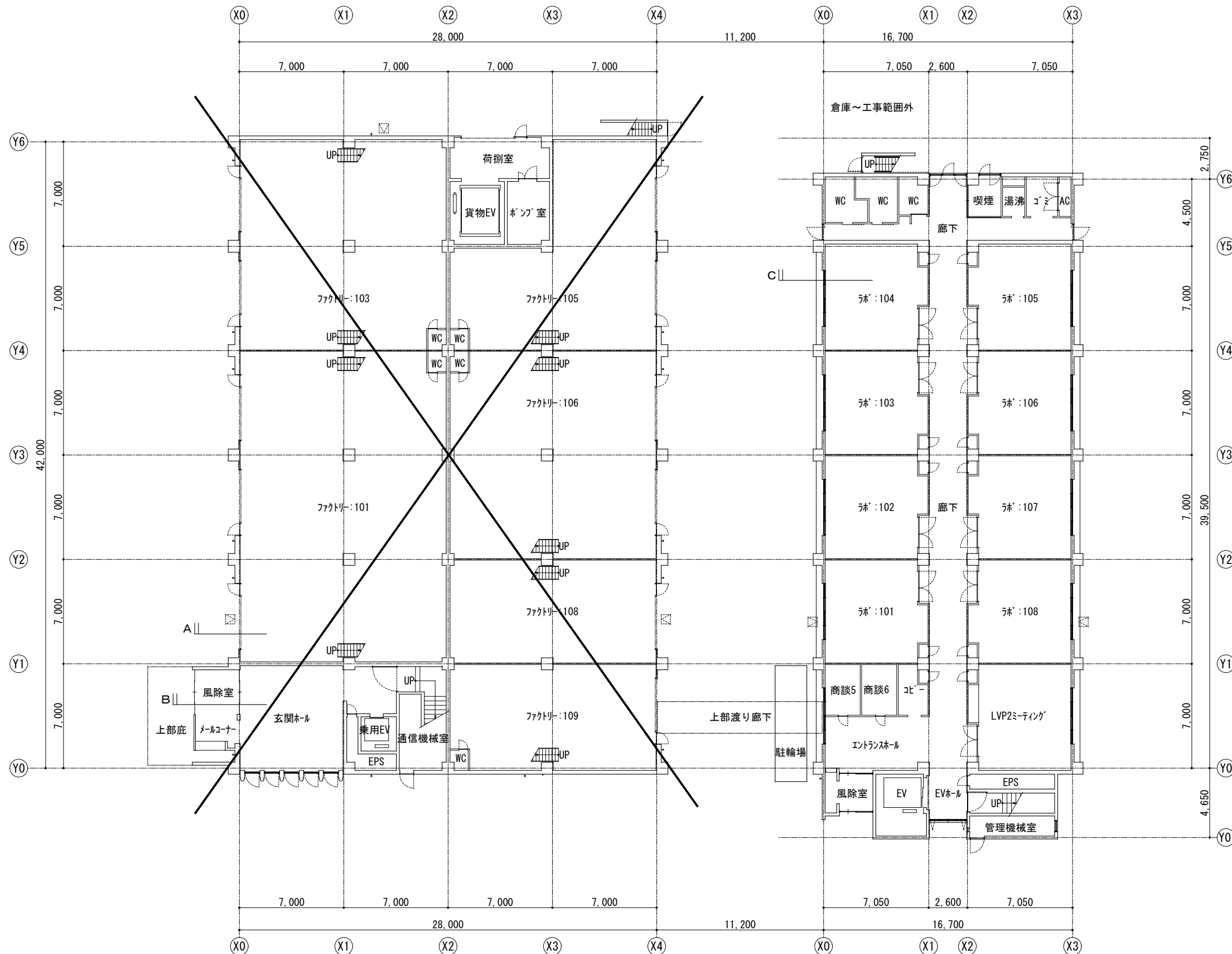
⑪・⑫ 高伸長型ウレタン塗膜防水(密着工法)					
工程	工程・材料	工 法	所要量	備 考	
1	既存撤去	スクレーパー・剥離剤・研磨等によって既存の塗膜防水を撤去する			
2	下地処理	高圧水洗工法にて、汚れ・付着物・下地に適さない劣化した下地面の異物等を除去	加圧力30～50MPa		
3	下地調整塗材(C-2 ホリマーセメント系)	全面にコテ塗り			
⑪ パラペット等狭小部位・点在部位：密着工法		⑫ 壁面：密着工法			
工程	材料・工法	所要量	工程	材料・工法	所要量
4	ウレタン系プライマー塗り	0.2 kg/m2以上	4	ウレタン系プライマー塗り	0.2 kg/m2以上
5	ウレタン防水材塗り、補強布張り	0.3 kg/m2以上	5	ウレタン防水材塗り、補強布張り	0.3 kg/m2以上
6	高伸長型ウレタン防水材塗り(立上り用)	1.7 kg/m2以上	6	高伸長型ウレタン防水材塗り(立上り用)	1.7 kg/m2以上
7	高伸長型ウレタン防水材塗り(立上り用)	1.0 kg/m2以上	7	高伸長型ウレタン防水材塗り(立上り用)	1.0 kg/m2以上
8	仕上塗料塗り(フッ素樹脂系・遮熱トップコート)	計0.2 kg/m2以上	8	仕上塗料塗り(フッ素樹脂系・遮熱トップコート)	計0.2 kg/m2以上
2回に分けて塗布					
参考製品 田島ルフィン® :OATM-3FC同等品以上					

⑬・⑭ 高伸長型ウレタン塗膜防水					
既存コンクリート面・モルタル面					
工程	工程・材料	工 法	所要量	備 考	
1	立上り部 既存アスファルト防水撤去	立上り部の既存アスファルト防水(砂付きルフィン®)を、ケレン等で撤去する併せて、平場端部のシーリングも撤去する			
2	(状況に応じて)下地補修	平場押えコンクリート面・立上り面等のひび割れ部・浮き部・欠損部等の補修を行う			
3	下地処理	高圧水洗工法にて、汚れ・付着物・下地に適さない劣化した下地面の異物等を除去			
4	平場端部・入隅部シーリング(PU-2)				
5	既存伸縮目地処理	既存伸縮目地を撤去し、バックアップ材+シーリング(PU-2)を充填する			
6	平場:下地調整塗材(C-2 ホリマーセメント系)	全面にコテ塗り	71～3mm		
	立上り:仮防水(水性アクリル系仮防水材)				
⑭ 平場：通気緩衝工法(接着固定)		⑬ 立上り・壁面：密着工法			
工程	材料・工法	所要量	工程	材料・工法	所要量
7	ウレタン系プライマー塗り	0.2 kg/m2以上	7	ウレタン系プライマー塗り	0.2 kg/m2以上
8	絶縁用粘着層付き通気緩衝シート張り		8	ウレタン防水材塗り、補強布張り	0.3 kg/m2以上
9	高伸長型ウレタン防水材塗り	2.0 kg/m2以上	9	高伸長型ウレタン防水材塗り(立上り用)	1.7 kg/m2以上
10	高伸長型ウレタン防水材塗り	1.5 kg/m2以上	10	高伸長型ウレタン防水材塗り(立上り用)	1.0 kg/m2以上
11	仕上塗料塗り(フッ素樹脂系・遮熱トップコート)	計0.2 kg/m2以上	11	仕上塗料塗り(フッ素樹脂系・遮熱トップコート)	計0.2 kg/m2以上
2回に分けて塗布					
参考製品：⑭ 田島ルフィン® OATM-3FC同等品以上 ⑬ 田島ルフィン® OATM-3FC同等品以上					

⑯ 常温アスファルト防水					
既存露出アスファルト防水面					
工程	工程・材料	工 法	所要量	備 考	
1	立上り部 既存アスファルト防水撤去	立上り部の既存アスファルト防水(砂付きルフィン®)を、ケレン等で撤去する			
2	(状況に応じて)下地補修	立ち上がり面のひび割れ部・浮き部・欠損部等の補修を行う また残置する平場防水層面にフレや損傷がある場合は処置をする			
3	下地処理	高圧水洗工法にて、汚れ・付着物・下地に適さない劣化した下地面の異物等を除去			
4	(状況に応じて)既存防水面の補修	破損箇所、継目等の剥離箇所、浮き部分等は切開しパーナーで熱し張り合わせる			
5	平場:下地調整(アスファルト系下地調整材)		1.0 kg/m2程度		
	立上り:仮防水(水性改質アスファルト系仮防水材)		71～3mm		
⑯ 平場：常温粘着工法 AS-J1		⑰ 立上り：常温粘着工法 AS-J1			
工程	材料・工法	所要量	工程	材料・工法	所要量
6	プライマー塗り	0.2 kg/m2以上	6	プライマー塗り	0.2 kg/m2以上
7	部分粘着層付改質アスファルトシート:非露出複層防水用R種1.0mm以上		7	粘着層付改質アスファルトシート:非露出複層防水用R種Ⅱ類1.5mm以上	
8	粘着層付改質アスファルトシート:露出複層防水用R種Ⅱ類2.0mm以上		8	粘着層付改質アスファルトシート:露出複層防水用R種Ⅱ類2.0mm以上	砂付き改質アスファルトシート
9	仕上塗料塗り(高耐久・高反射トップコート)	計0.8～1.2 kg/m2以上	9	仕上塗料塗り(高耐久・高反射トップコート)	計0.8～1.2 kg/m2以上
2回に分けて塗布					
参考製品：田島ルフィン® ガムケル:GSS-2S・TH同等品以上					

⑱ 常温アスファルト系塗膜防水				
既存樹脂製型枠基礎部				
工程	工程・材料	工 法	所要量	備 考
1	既存樹脂製型枠撤去	樹脂製型枠を工具で撤去する		
2	(状況に応じて)下地補修	撤去面のひび割れ部・欠損部等の補修を行う		
3	下地処理	高圧水洗工法にて、汚れ・付着物・下地に適さない劣化した下地面の異物等を除去		
4	下地調整塗材(C-2 ホリマーセメント系)	立上り・天端に塗布	71～3mm	
工程	工程・材料	工 法	所要量	備 考
5	プライマー塗り	立上り・天端に塗布	0.2 kg/m2以上	
6	平場防水	⑱ 平場:常温粘着工法 AS-J1		
7	立上り入隅部 増し張り	改良アスファルト常温反応型塗膜防水材+立上り用補強布	2.0 kg/m2以上	
8	防水材塗布	改良アスファルト常温反応型塗膜防水材	0.8 kg/m2以上	
9	防水材塗布	立上り用補強布		
10	防水材塗布	改良アスファルト常温反応型塗膜防水材	1.2 kg/m2以上	
11	防水材塗布	改良アスファルト常温反応型塗膜防水材	0.8 kg/m2以上	
12	骨材入り水性保護塗料塗り	塗膜防水材面のみ塗布	0.45 kg/m2以上	
13	仕上塗料塗り(高耐久・高反射トップコート)	平場と一体で塗布	0.4～0.6 kg/m2以上	
参考製品：田島ルフィン® アスカ-RC:PQ-160C・TH同等品以上				

備 考 1. 使用材料はいずれも「F☆☆☆☆」とすること。 2. 水洗い工法の加圧力は試験施工を行ったうえで決定すること。	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	防水改修仕様	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-10
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



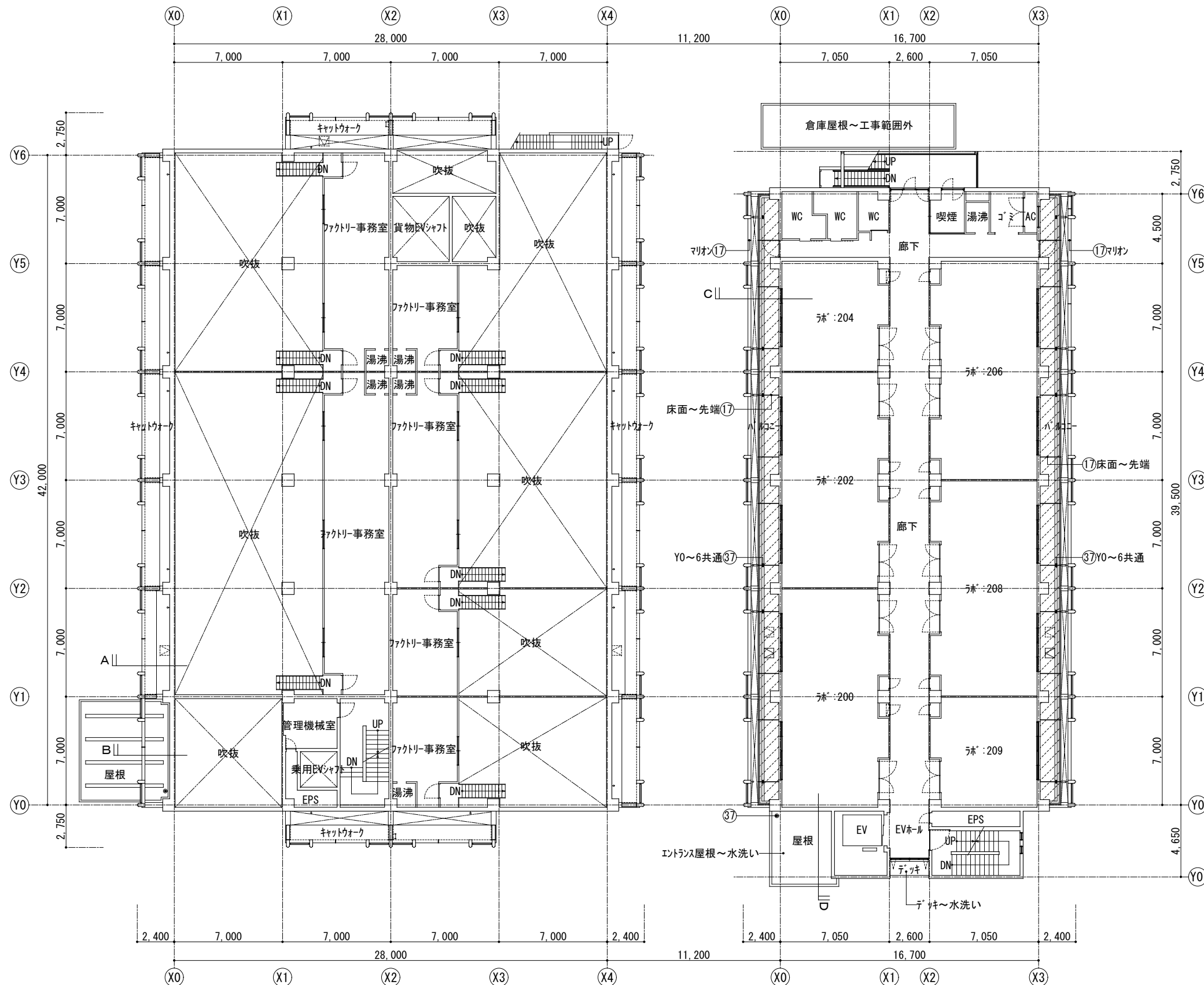
< 1号館1階 >

< 2号館1階 >

1号館1階・2号館1階 平面図 1/200

2号館凡例	
	パレット等の①カク塗膜防水の範囲
	パルコ-床面の「グレーチング」取外し再取付けの範囲

備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館1階・2号館1階 平面図	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-11
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



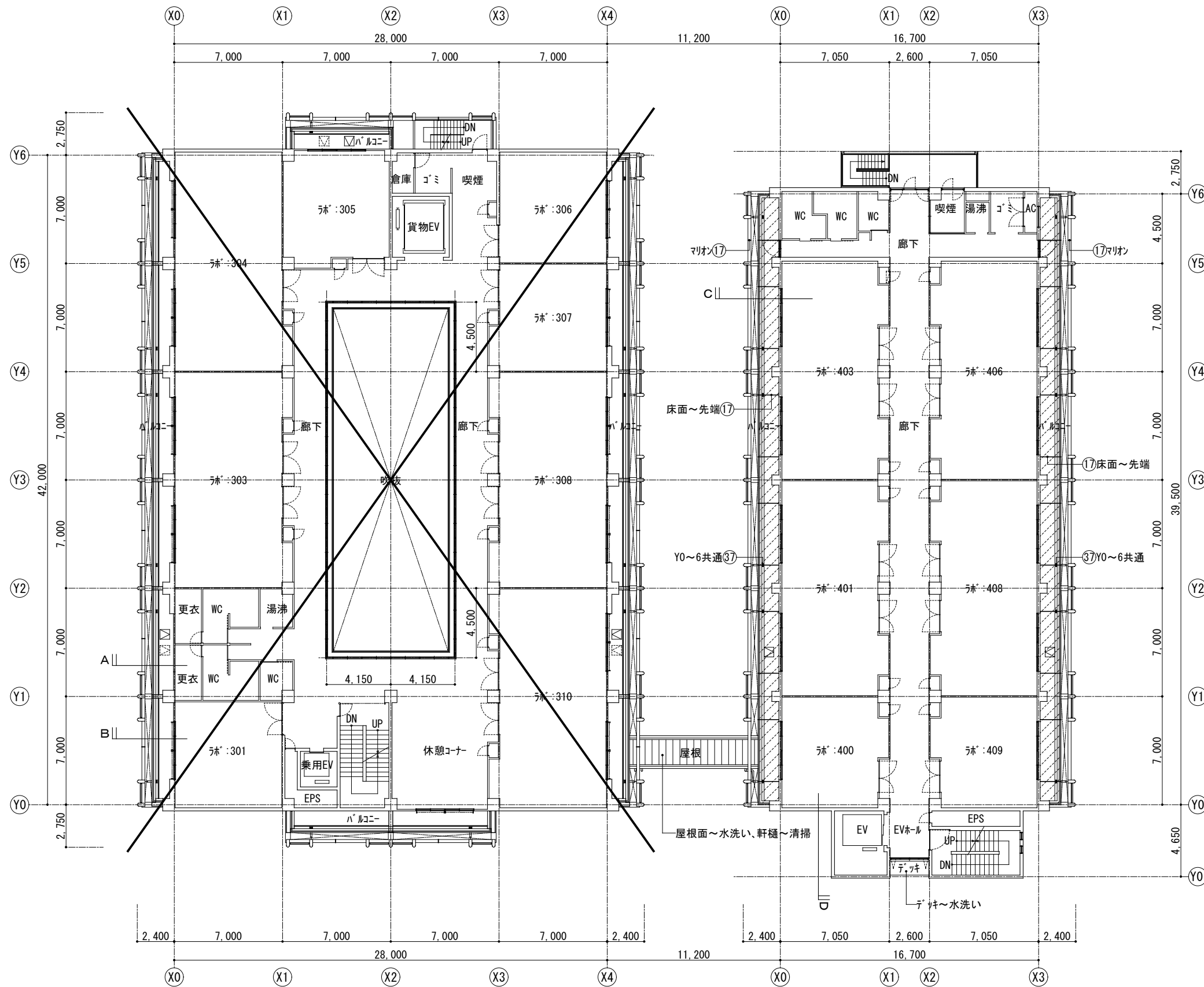
< 1号館中2階 >

< 2号館2階 >

1号館中2階・2号館2階 平面図 1/200

2号館 凡例	
	パレット等の①カガシ塗膜防水の範囲
	パルコ-床面の「グレーチング」取外し再取付けの範囲

備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館中2階・2号館2階 平面図	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-12
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



< 1号館3階 >

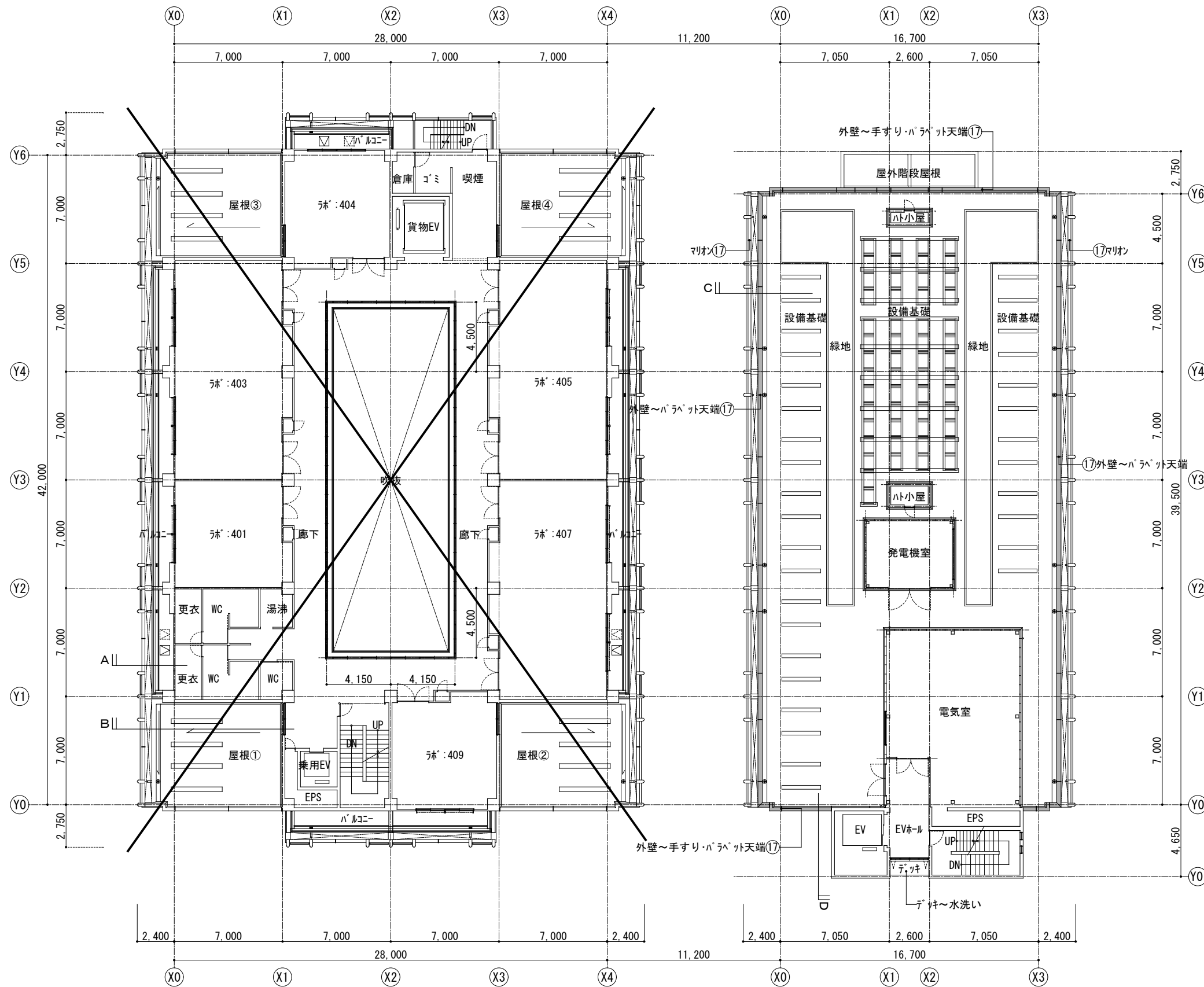
< 2号館4階 >

1号館3階・2号館4階 平面図 1/200

2号館凡例	
	バルコニー等の①カク塗膜防水の範囲
	バルコニー床面の「グレーチング」取外し再取付けの範囲

備考

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
図面名称	1号館3階・2号館4階 平面図	図面番号
作成年月	令和8年3月	A-14
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



< 1号館4階 >

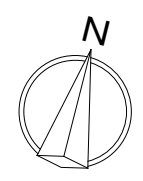
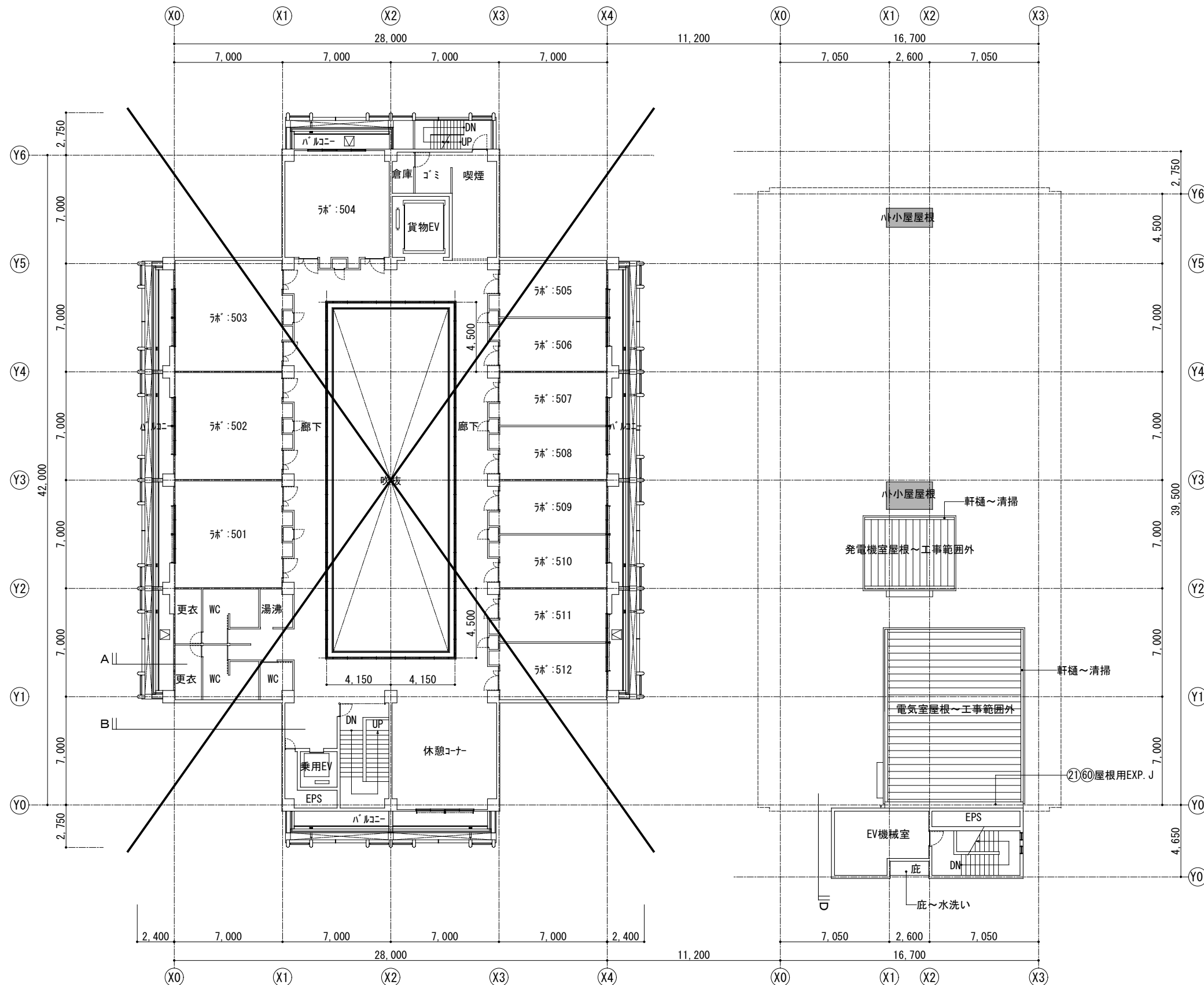
< 2号館屋階 >

1号館4階・2号館屋階 平面図 1/200

2号館凡例	
	バルコニー等の①バルコニー塗膜防水の範囲
	バルコニー床面の「グレーチング」取外し再取付けの範囲

備考

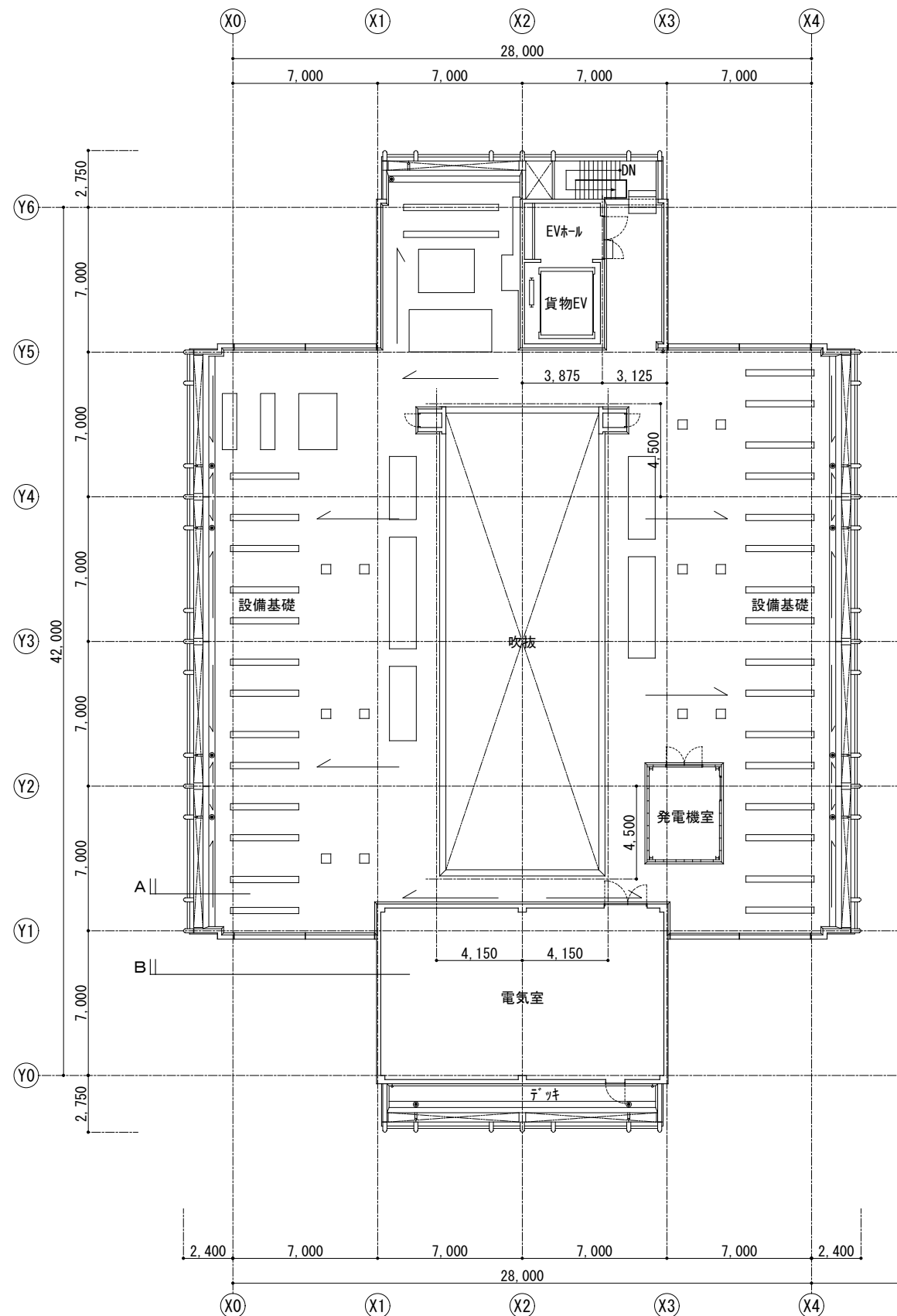
工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
図面名称	1号館4階・2号館屋階 平面図	図面番号
作成年月	令和8年3月	A-15
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



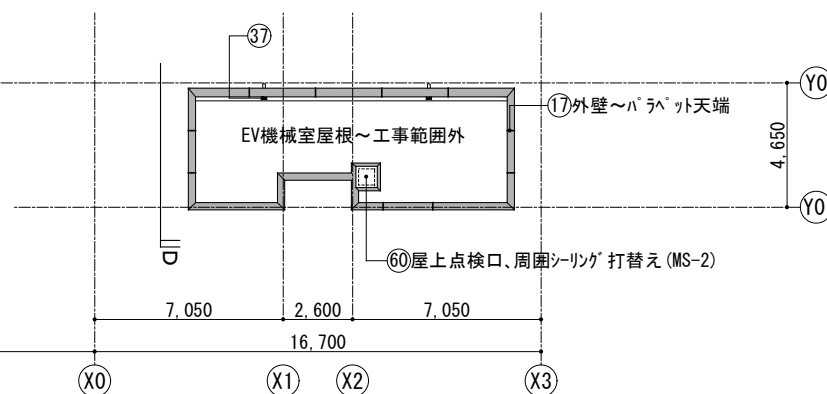
1号館5階・2号館PH階 平面図 1/200

2号館凡例	
	バルコニー等の①カク塗膜防水の範囲
	バルコニー床面の「グレーチング」取外し再取付けの範囲

備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館5階・2号館PH階 平面図	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-16
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



< 1号館屋階 >



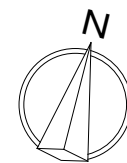
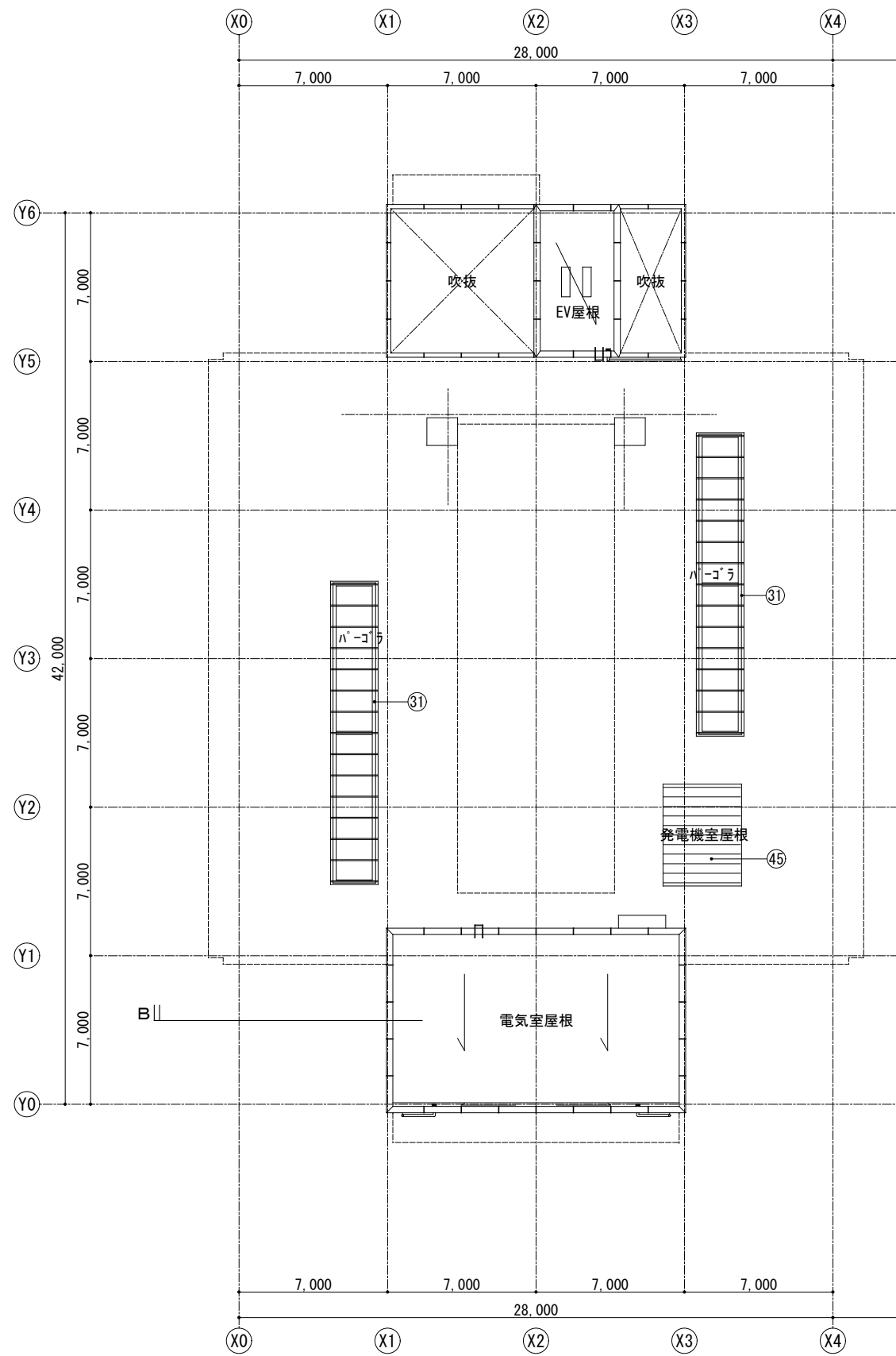
< 2号館PH屋階 >

1号館PH階・2号館PH屋階 平面図 1/200



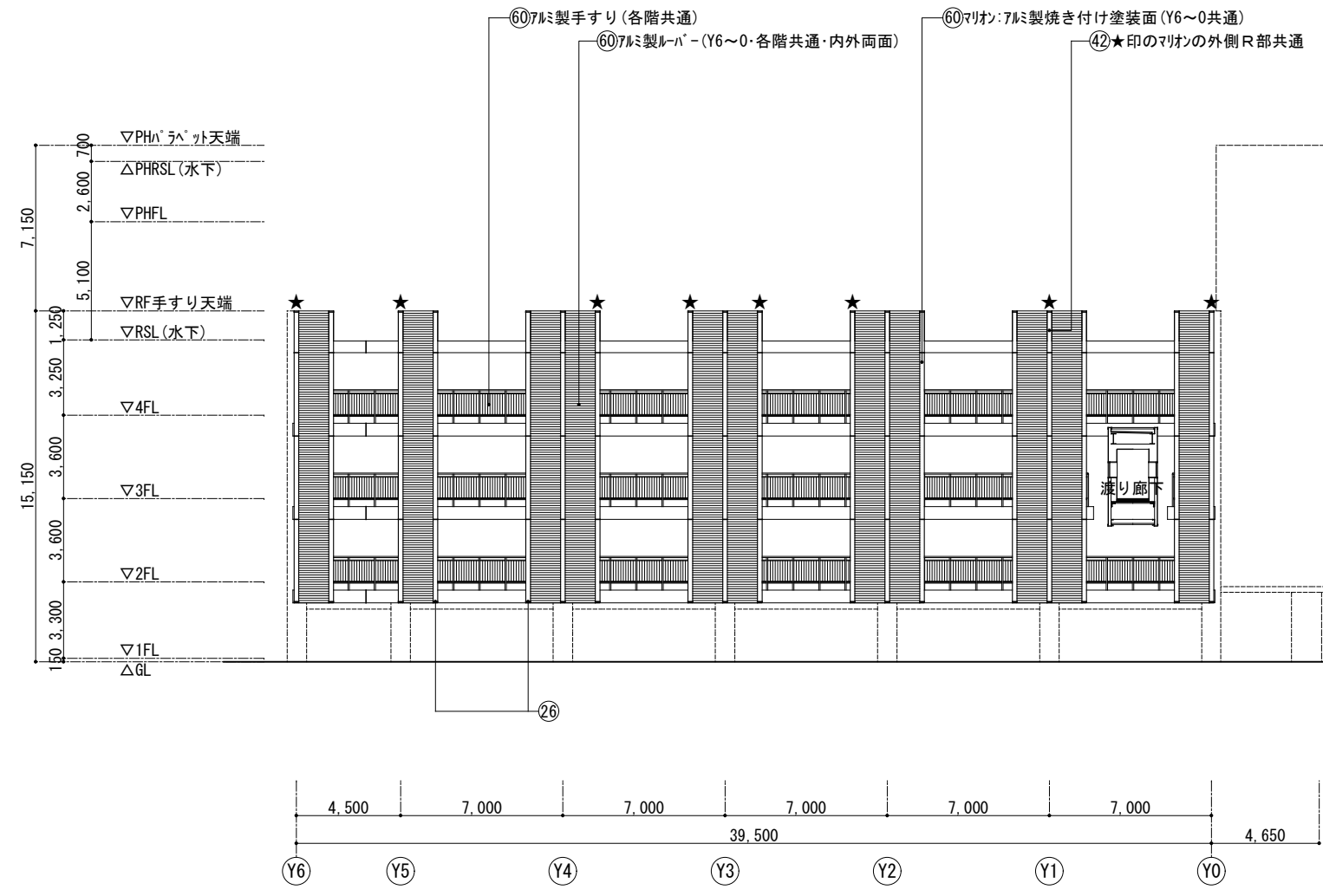
2号館 凡例	
	パレット等の①カラム塗膜防水の範囲
	パレット-床面のグレーチング 取外し再取付けの範囲

備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館屋階・2号館PH屋階 平面図	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-17
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

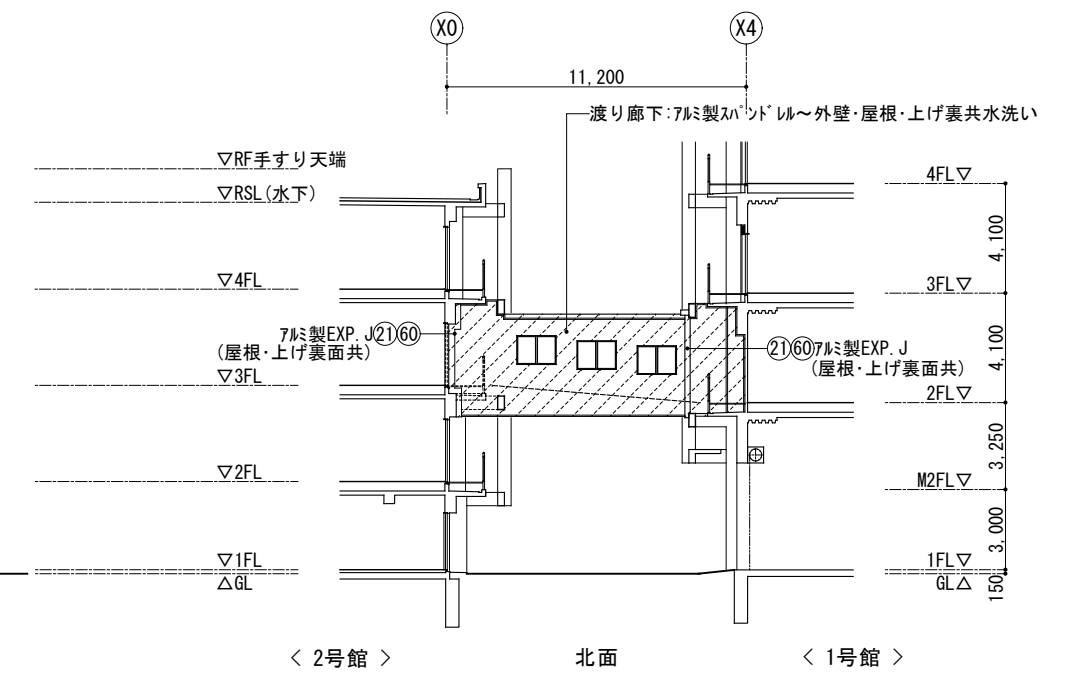


1号館PH屋階 平面図 1/200

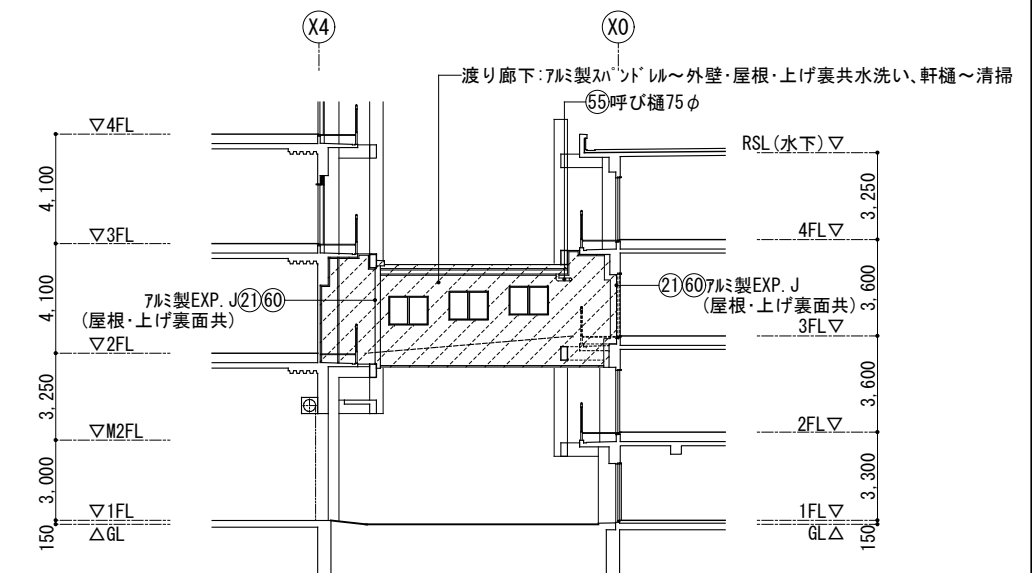
備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館PH屋階 平面図	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-18
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



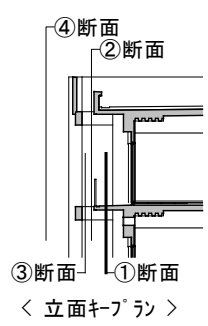
改修立面図 2号館西側：④断面 1/200



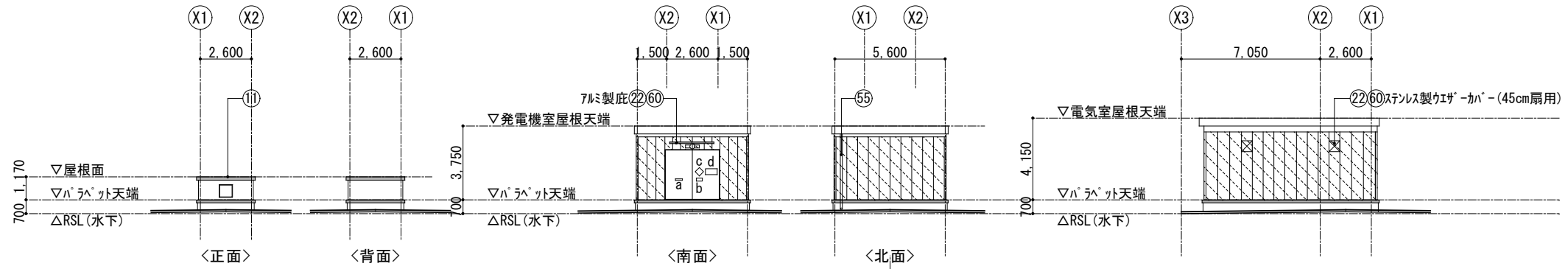
< 2号館 > 北面 < 1号館 >



< 1号館 > 南面 < 2号館 >



共通事項 (特記なき限り下記による)		凡例	
1号館：壁・柱・幅木・梁型	①	マリオン・バルコニー含む、一部②	パレット等の⑪の外塗膜防水の範囲を示す
2号館：壁・柱・幅木・梁型	②	マリオン・バルコニー含む	外壁等の⑫の外塗膜防水の範囲を示す
梁型・手すり・マリオン・バルコニー手すり脚元等天端	④③		外壁等の③の防水型複層塗材Eの範囲を示す
バルコニー等金属製手すり	⑥⑦		渡り廊下の7ルミ製パレットの範囲を示す
縦樋 (ステン製支持金物共)	⑤⑤	呼び樋共	
既存7ルミ製建具	⑭⑮⑯⑰		
既存7ルミ製建具	⑱⑲⑳		

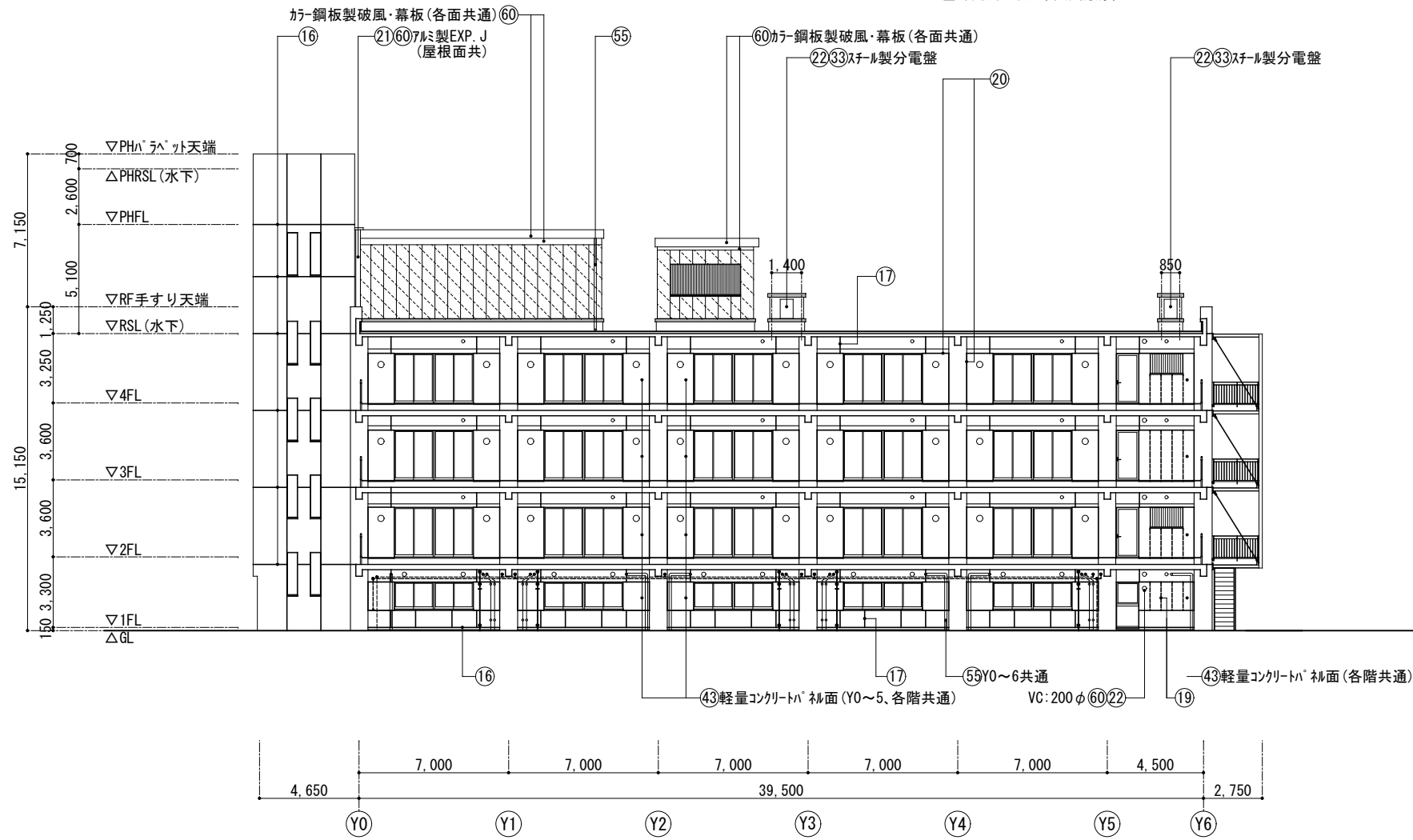


改修立面図 2号館：ハト小屋 1/200

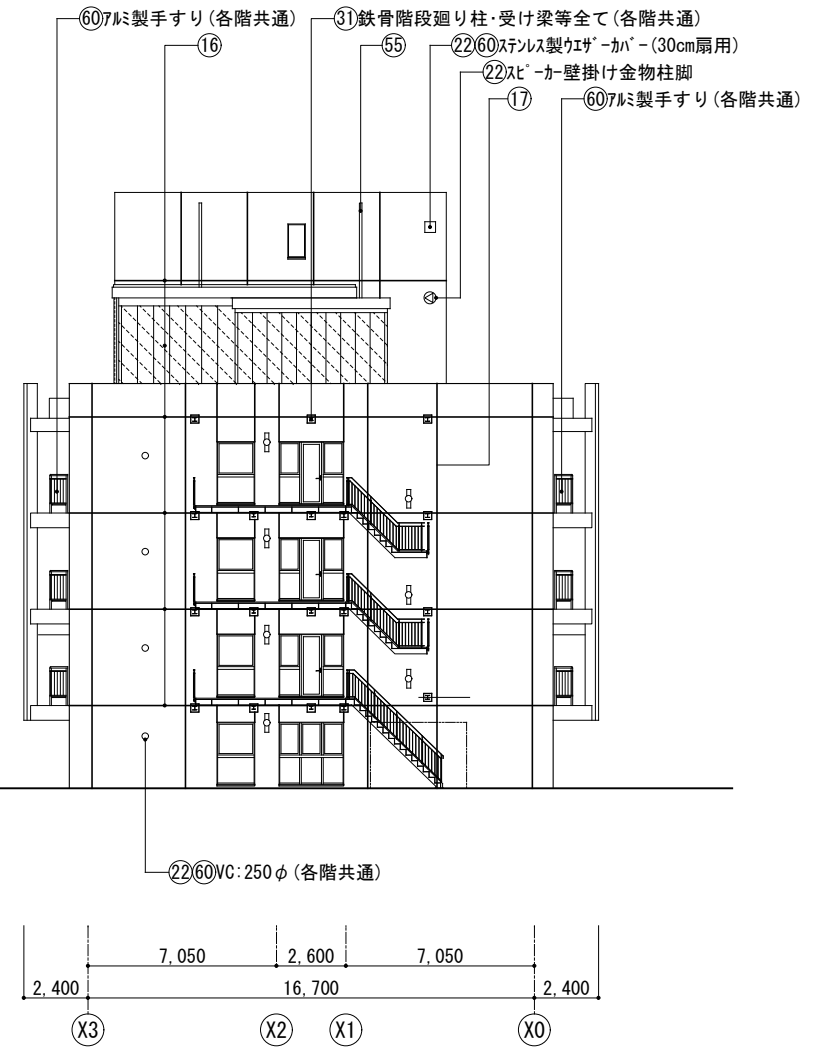
改修立面図 2号館：発電機室 1/200

改修立面図 2号館：電気室北側 1/200

- a: 屋外用カッティングシール(切り文字)/発電機室/320×70
- b: 屋外用サインステッカー/発電設備/300×150
- c: 屋外用サインステッカー/危険/300×300
- d: 屋外用サインステッカー/火気厳禁/600×300

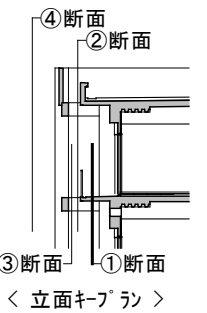


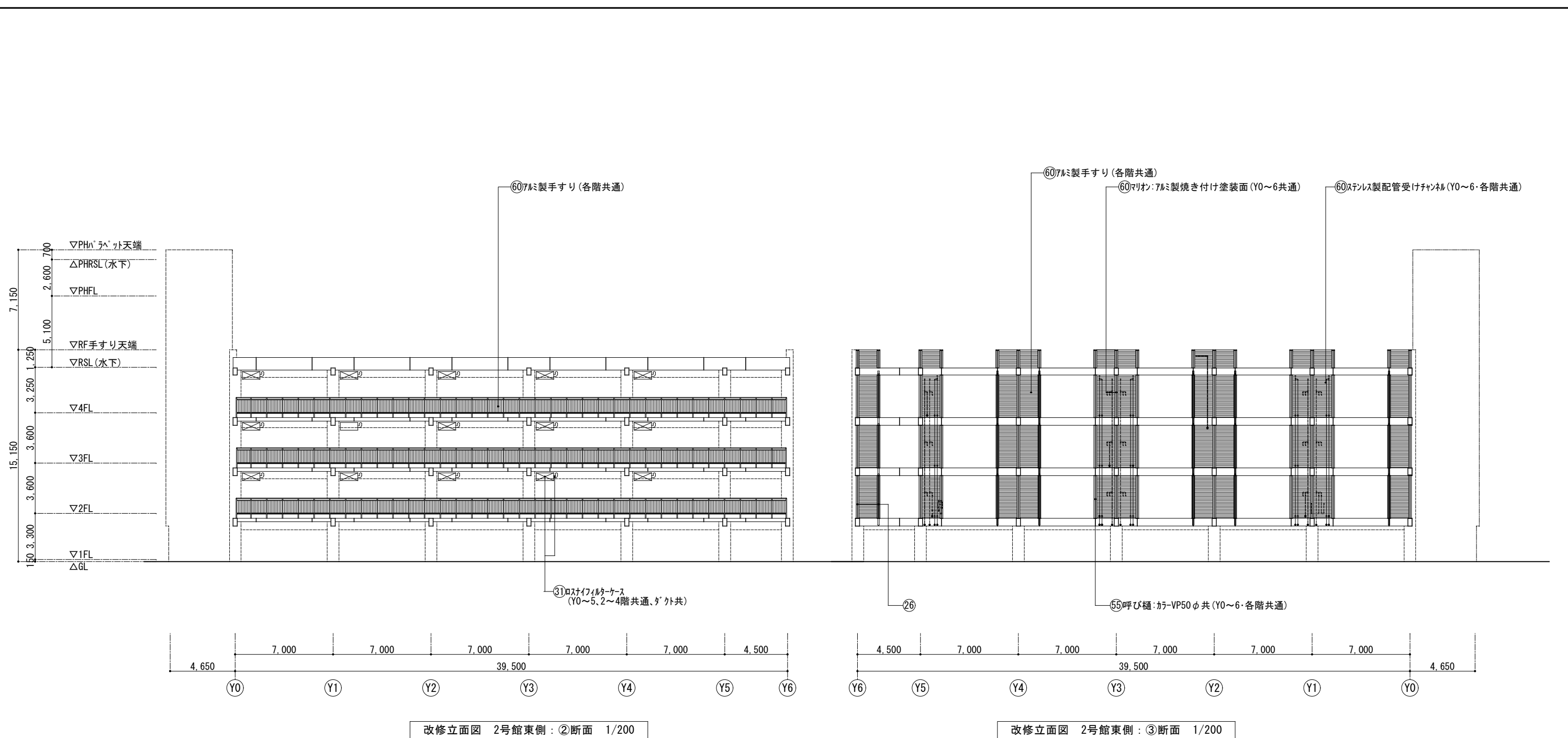
改修立面図 2号館東側：①断面 1/200



改修立面図 2号館北側：①断面 1/200

共通事項(特記なき限り下記による)		凡例	
1号館：壁・柱・幅木・梁型	①	マリオン・バルコニー含む、一部②	ハト小屋等の⑪外装塗膜防水の範囲を示す
2号館：壁・柱・幅木・梁型	②	マリオン・バルコニー含む	外壁等の⑫外装塗膜防水の範囲を示す
梁型・手すり・マリオン・バルコニー手すり脚元等天端	④③		外壁等の③防水型複層塗材Eの範囲を示す
バルコニー等金属製手すり	⑥⑦		渡り廊下の7M製ハンドレールの範囲を示す
縦樋(ステンレス製支持金物共)	⑤⑤	呼び樋共	
既存7M製建具	⑭⑮⑯⑰		
既存スチール製建具	⑭⑮⑯⑰		

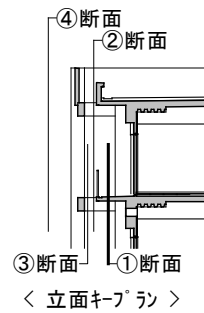




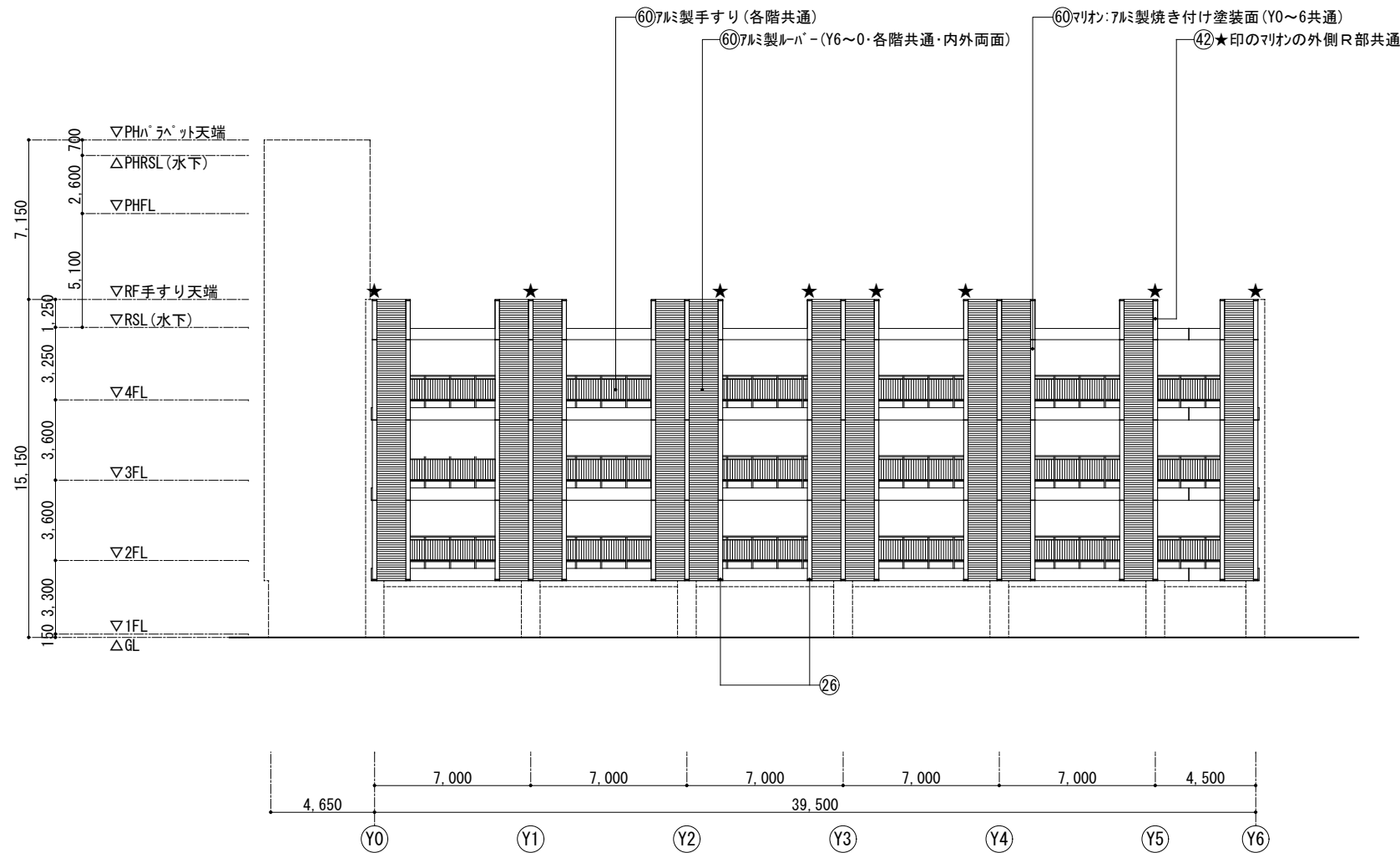
改修立面図 2号館東側：②断面 1/200

改修立面図 2号館東側：③断面 1/200

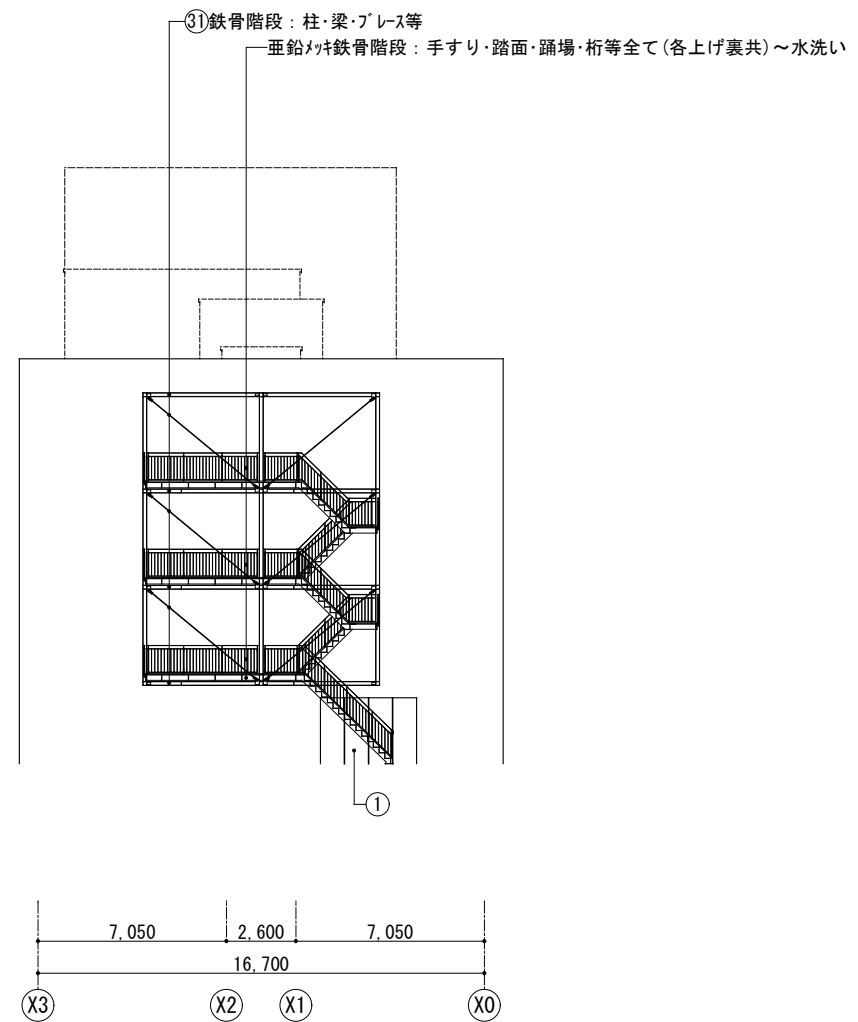
共通事項(特記なき限り下記による)		凡例	
1号館：壁・柱・幅木・梁型	①	マリオン・バルコニー含む、一部②	パラペット等の⑪外装塗膜防水の範囲を示す
2号館：壁・柱・幅木・梁型	②	マリオン・バルコニー含む	外壁等の⑫外装塗膜防水の範囲を示す
梁型・手すり・マリオン・バルコニー手すり脚元等天端	④③		外壁等の⑬防水型複層塗材Eの範囲を示す
バルコニー等金属製手すり	⑥⑦		渡り廊下の7mm製ハンドレールの範囲を示す
縦樋(ステンレス製支持金物共)	⑤⑤	呼び樋共	
既存7mm製建具	⑭⑮⑯⑰		
既存ステンレス製建具	⑭⑮⑰⑱		



備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事
	図面名称	外壁改修立面図 2号館東側：②・③断面 図面番号
	作成年月	令和8年3月
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団 A-23	

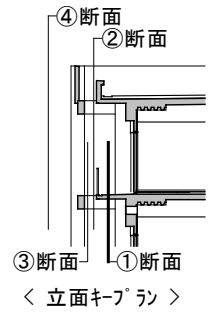


改修立面図 2号館東側：④断面 1/200

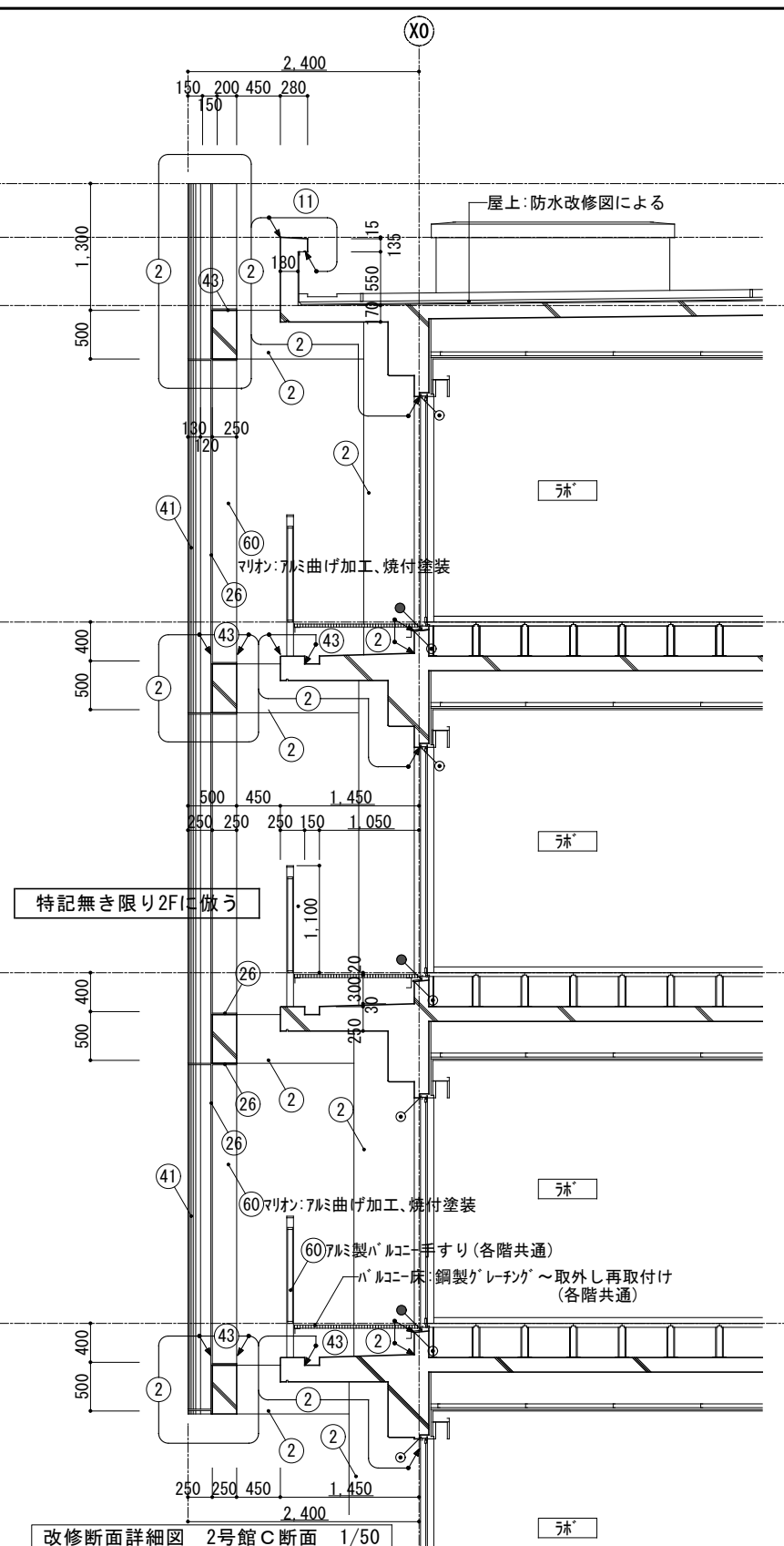
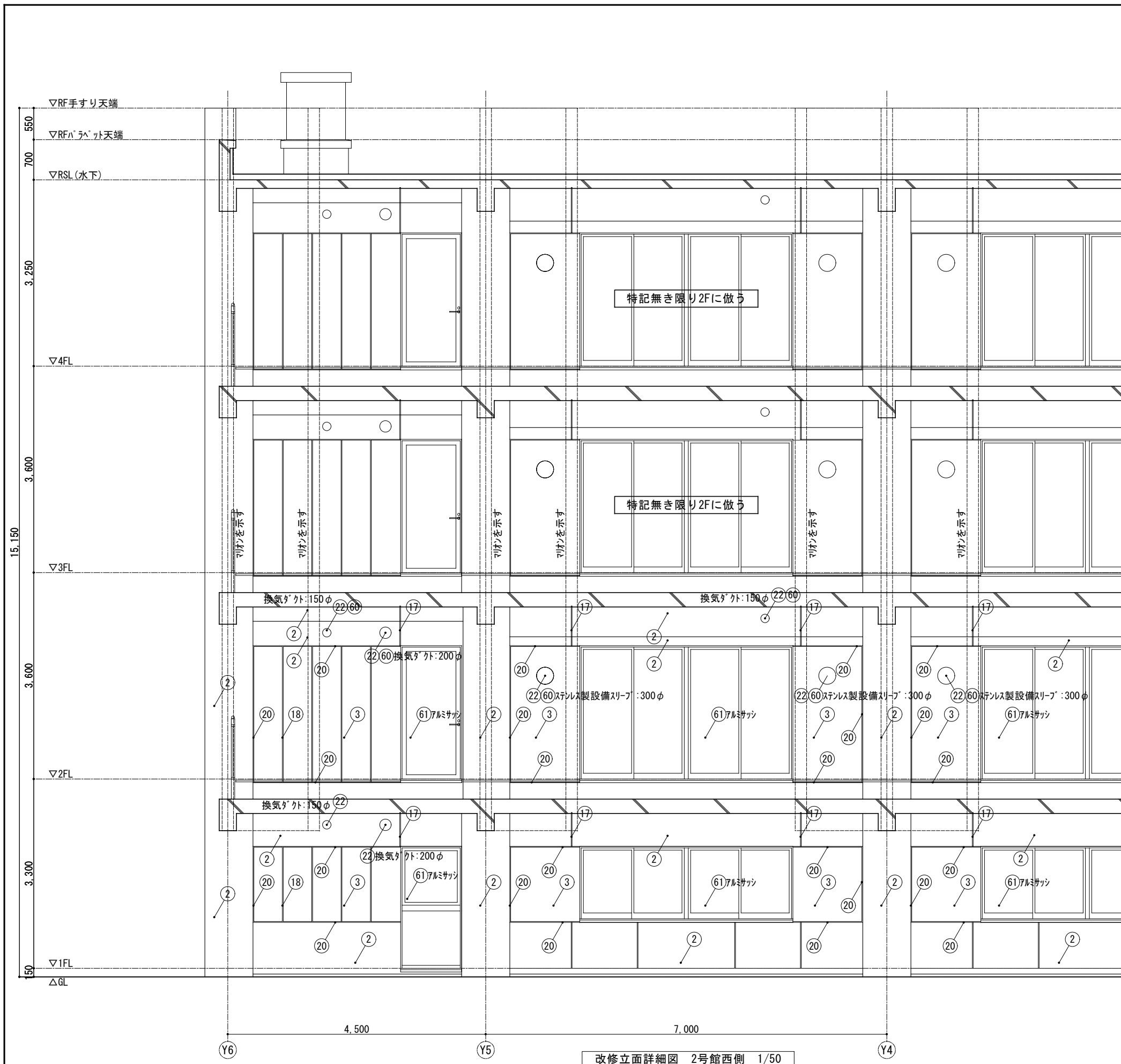


改修立面図 2号館北側：④断面 1/200

共通事項(特記なき限り下記による)		凡例	
1号館：壁・柱・幅木・梁型	①	マリオン・バルコニー含む、一部②	① 外壁等の①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
2号館：壁・柱・幅木・梁型	②	マリオン・バルコニー含む	② 外壁等の①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
梁型・手すり・マリオン・バルコニー・手すり脚元等天端	④③		③ 外壁等の③防水型複層塗材Eの範囲を示す
バルコニー等金属製手すり	⑥0		④ 渡り廊下の7mm製スチール製の範囲を示す
縦樋(ステンレス製支持金物共)	⑤⑤	呼び樋共	
既存7mm製建具	⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺		
既存ステンレス製建具	⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺		



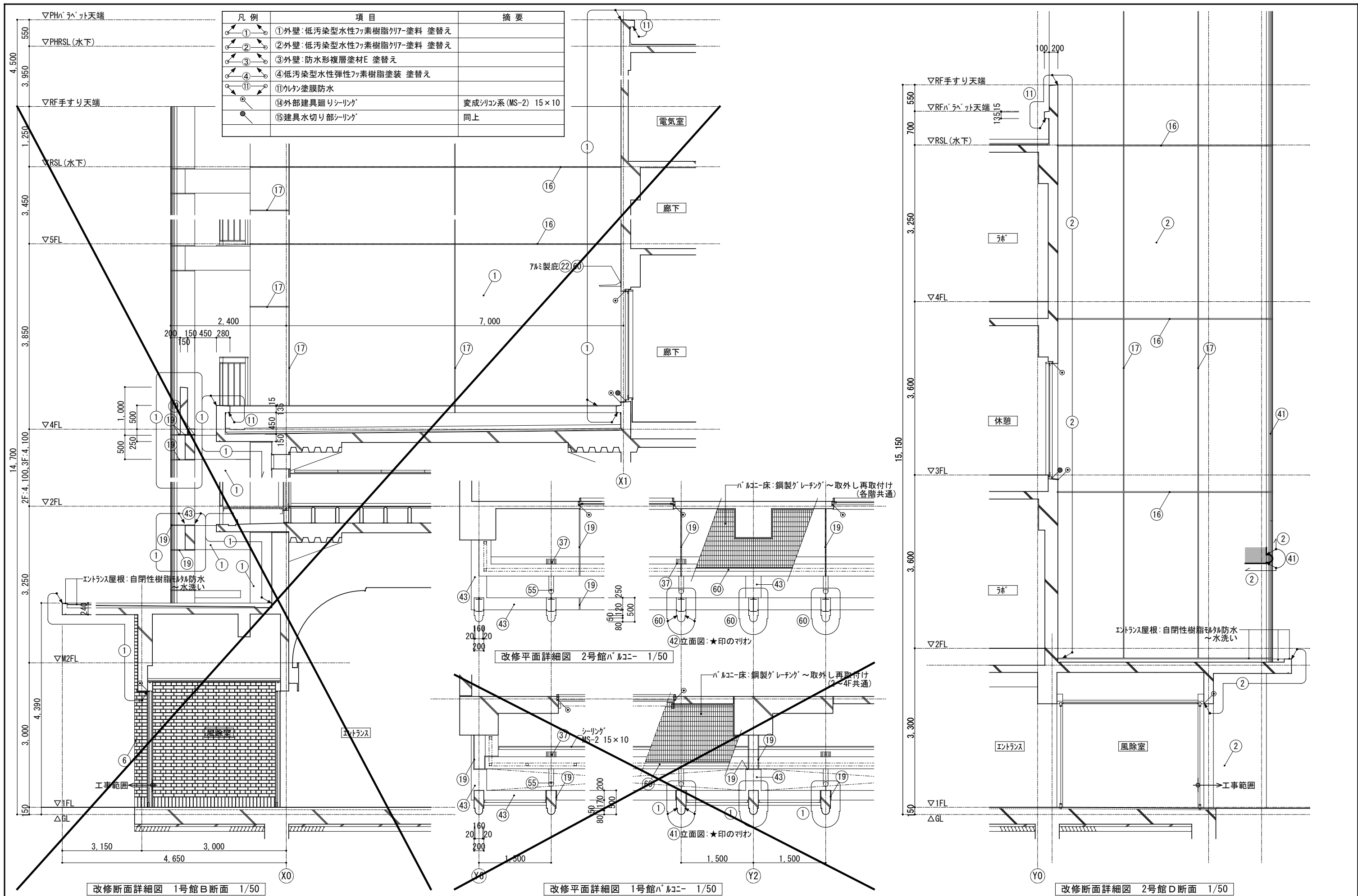
備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事
	図面名称	外壁改修立面図 2号館東側・北側：④断面 図面番号
	作成年月	令和8年3月
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団 A-24	



凡例	項目	摘要
①	①外壁:低汚染型水性フッ素樹脂系7A-塗料 塗替え	
②	②外壁:低汚染型水性フッ素樹脂系7A-塗料 塗替え	
③	③外壁:防水形複層塗材E 塗替え	
④	④低汚染型水性弾性フッ素樹脂塗装 塗替え	
⑪	⑪ウレタン塗膜防水	
⑭	⑭外部建具廻りシーリング	変成シリコン系 (MS-2) 15×10
⑮	⑮建具水切り部シーリング	同上

備考
 1. ハルニーの床面は水洗いを行うこと
 2. 2号棟の⑪は既存ウレタン防水の撤去を行うこと

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
図面名称	外壁改修 断面詳細図その1	図面番号
作成年月	令和8年3月	
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		A-25



凡例	項目	摘要
①	①外壁:低汚染型水性珩素樹脂グリ7-塗料 塗替え	
②	②外壁:低汚染型水性珩素樹脂グリ7-塗料 塗替え	
③	③外壁:防水形複層塗材E 塗替え	
④	④低汚染型水性弾性珩素樹脂塗装 塗替え	
⑪	⑪バルコ塗膜防水	
⑬	⑬外部建具廻りシーリング	変成シリコン系(MS-2) 15×10
⑮	⑮建具水切り部シーリング	同上

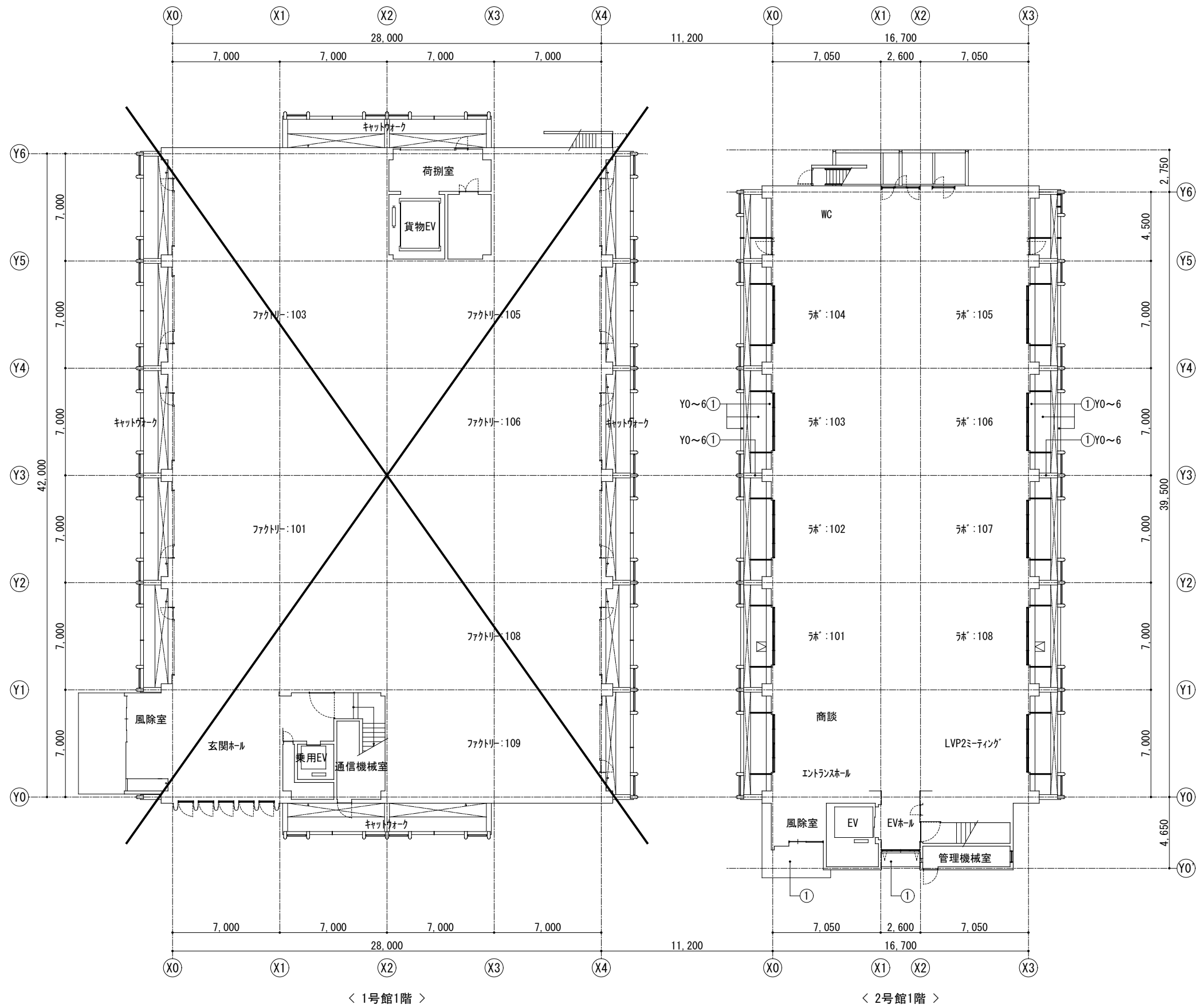
改修断面詳細図 1号館B断面 1/50

改修平面詳細図 2号館バルコニー 1/50

改修平面詳細図 1号館バルコニー 1/50

改修断面詳細図 2号館D断面 1/50

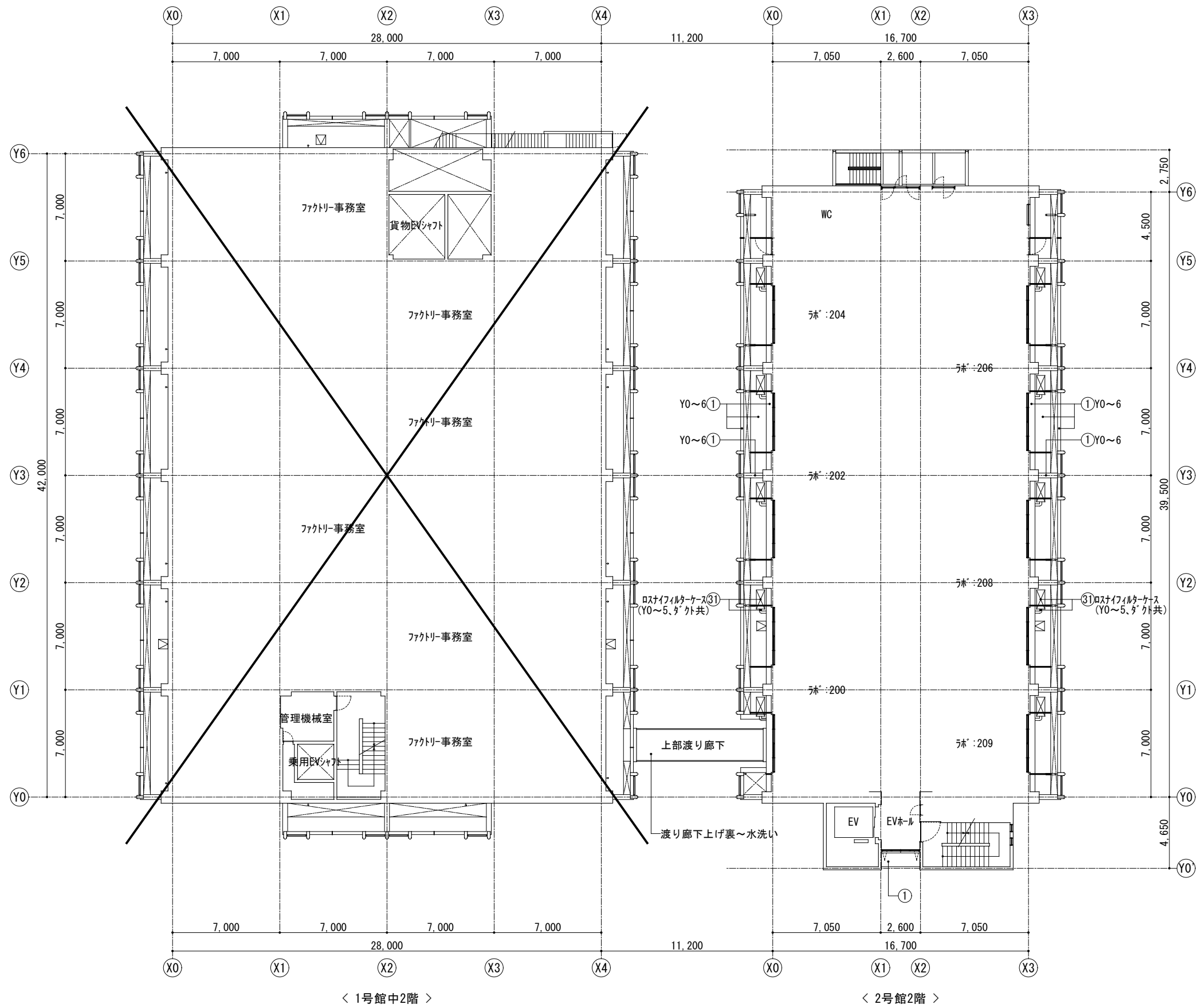
備考	1.バルコニーの床面は水洗いを行うこと 2.2号棟の⑪は既存バルコ防水の撤去を行うこと		
工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁改修 断面詳細図その2	図面番号	A-26
作成年月	令和8年3月	公益財団法人 横浜企業経営支援財団	



1号館1階・2号館1階 天井伏図 1/200

備考

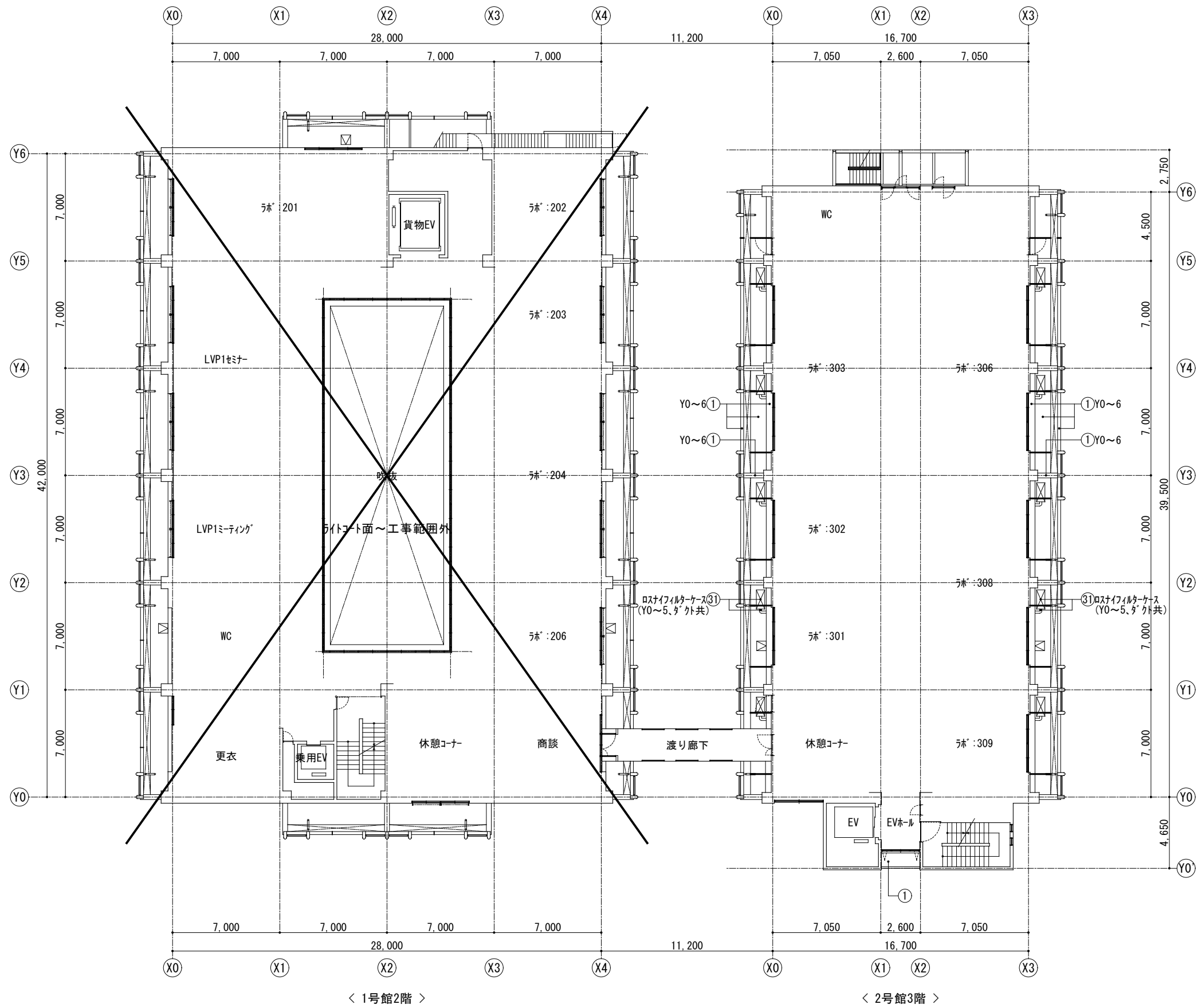
工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁改修 1号館1階・2号館1階 天井伏図	図面番号	A-27
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



1号館中1階・2号館2階 天井伏図 1/200

備考

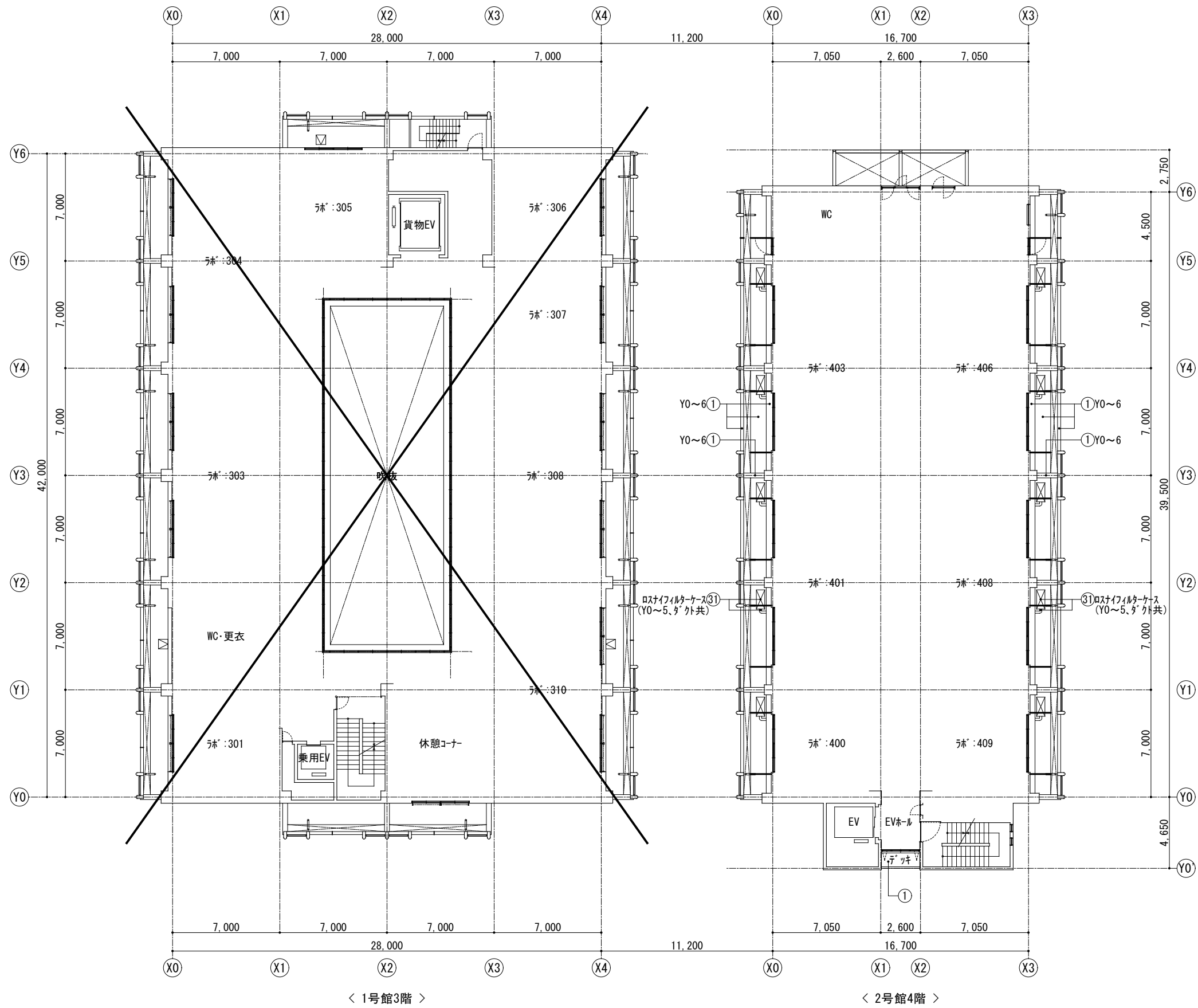
工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁改修 1号館中2階・2号館2階 天井伏図	図面番号	A-28
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



1号館2階・2号館3階 天井伏図 1/200

備考

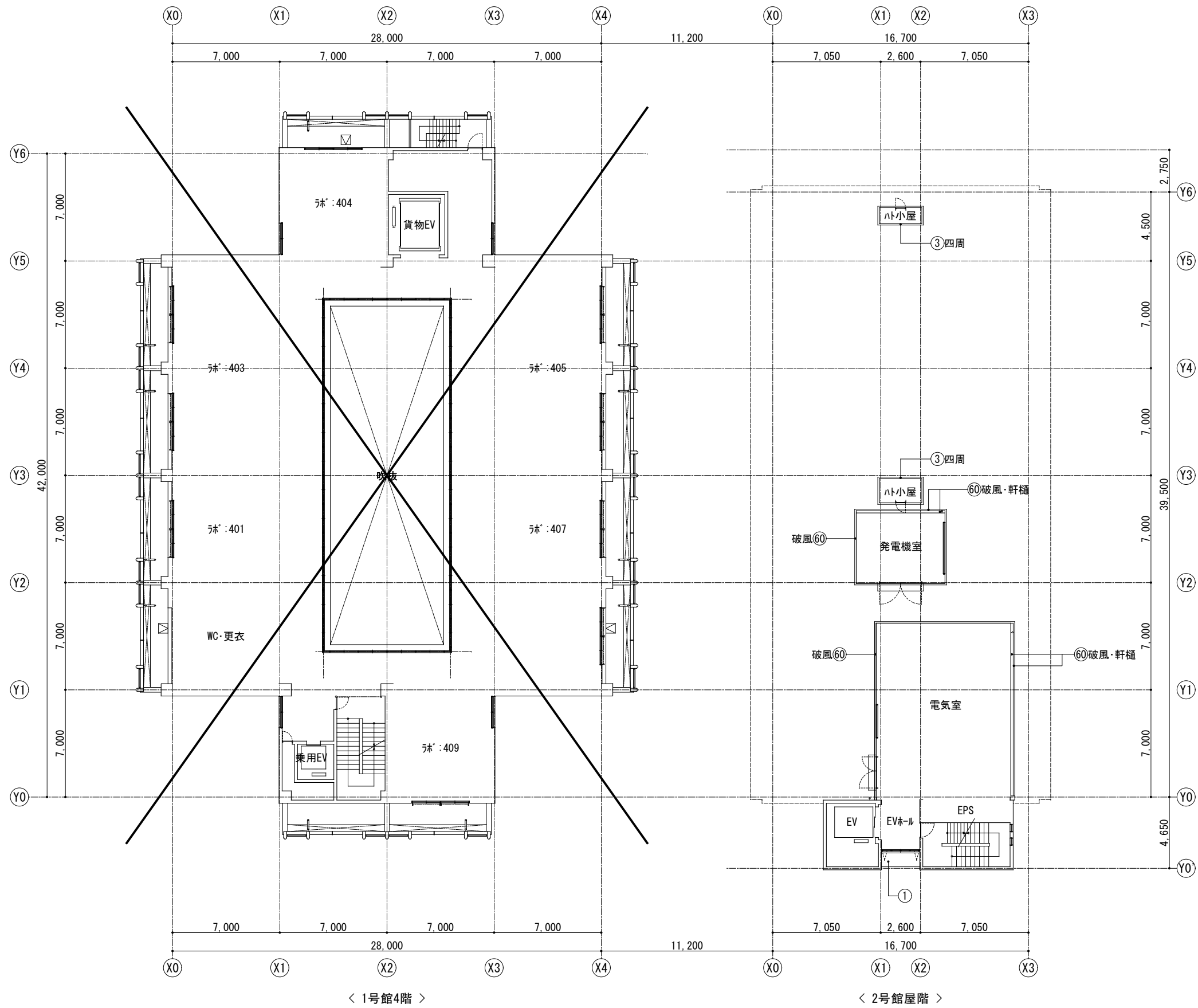
工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁改修 1号館2階・2号館3階 天井伏図	図面番号	A-29
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



1号館3階・2号館4階 天井伏図 1/200

備考

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁改修 1号館3階・2号館4階 天井伏図	図面番号	A-30
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

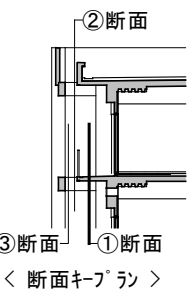


1号館4階・2号館屋階 天井伏図 1/200

備考

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁改修 1号館4階・2号館屋階 天井伏図	図面番号	A-31
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

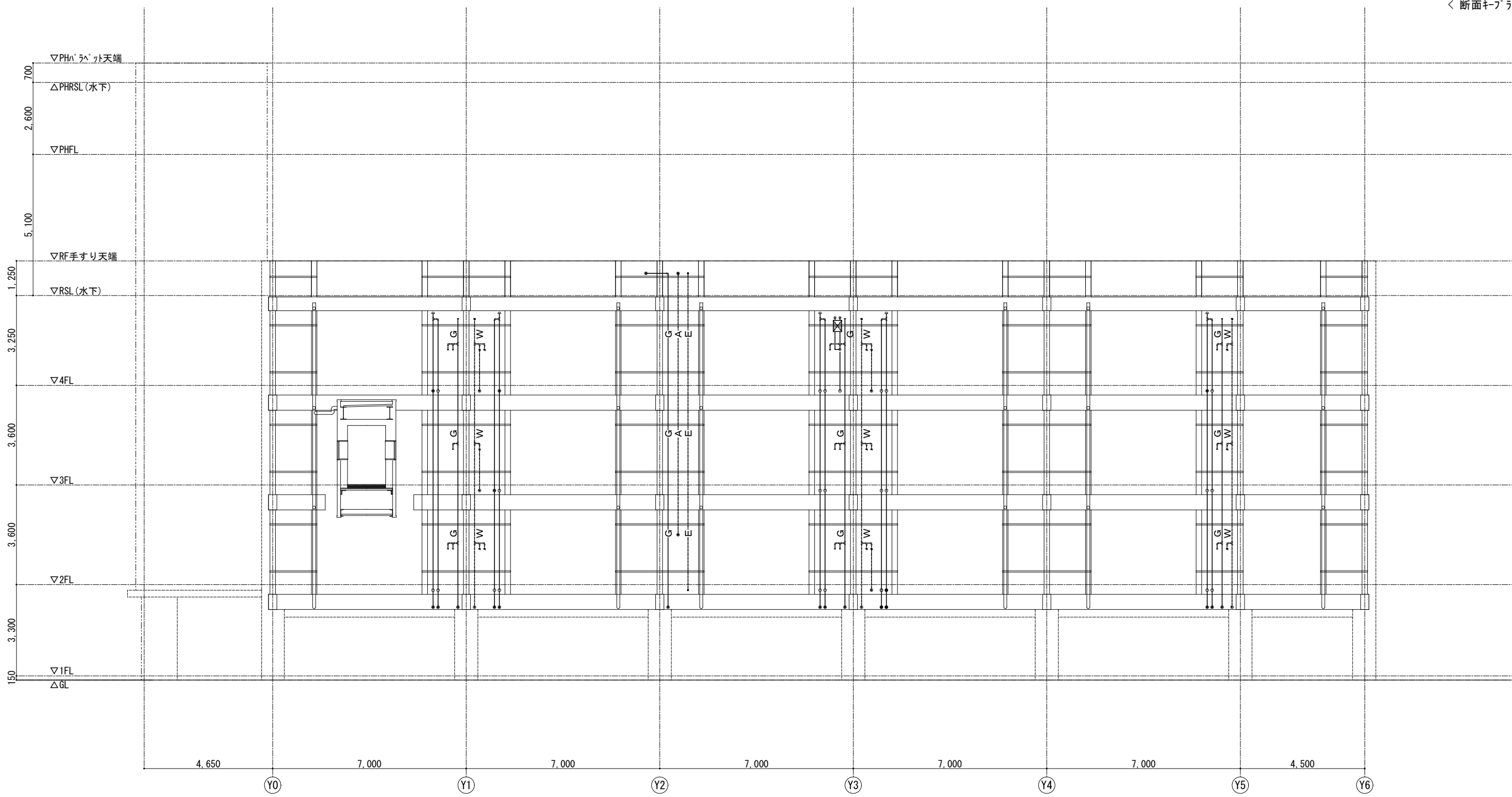
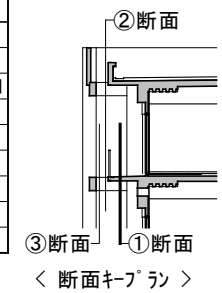
凡例	名称	材質	改修内容	凡例	名称	材質	改修内容
—	排水管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□	壁付き照明器具		水洗い
—G—	ガス管	樹脂被覆鋼管	DP塗装	□	床置き照明器具		水洗い
—W—	給水・給湯管(ラッキン)	ステンレス	水洗い	□	防犯カメラ		水洗い、足場へ移設し復旧
—F—	消火管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□	空調室外機		水洗い
—A—	換気パイプ(外)	ステンレス	水洗い	□	給湯器		水洗い
—D—	ドレン管	樹脂管	DP塗装	□	縦樋	カーVP100φ	撤去・新設(呼び樋共)
—R—	空調冷媒管	ステンレス	水洗い				
—E—□	電気配管、ケーブルボックス	亜鉛メッキ、樹脂	DP塗装				



配管類改修立面図 2号館西側：①断面 1/200

備考 1. DP塗装は7素樹脂系とする	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事
	図面名称	配管類改修立面図 2号館西側：①断面
	作成年月	令和8年3月
	図面番号	A-32
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

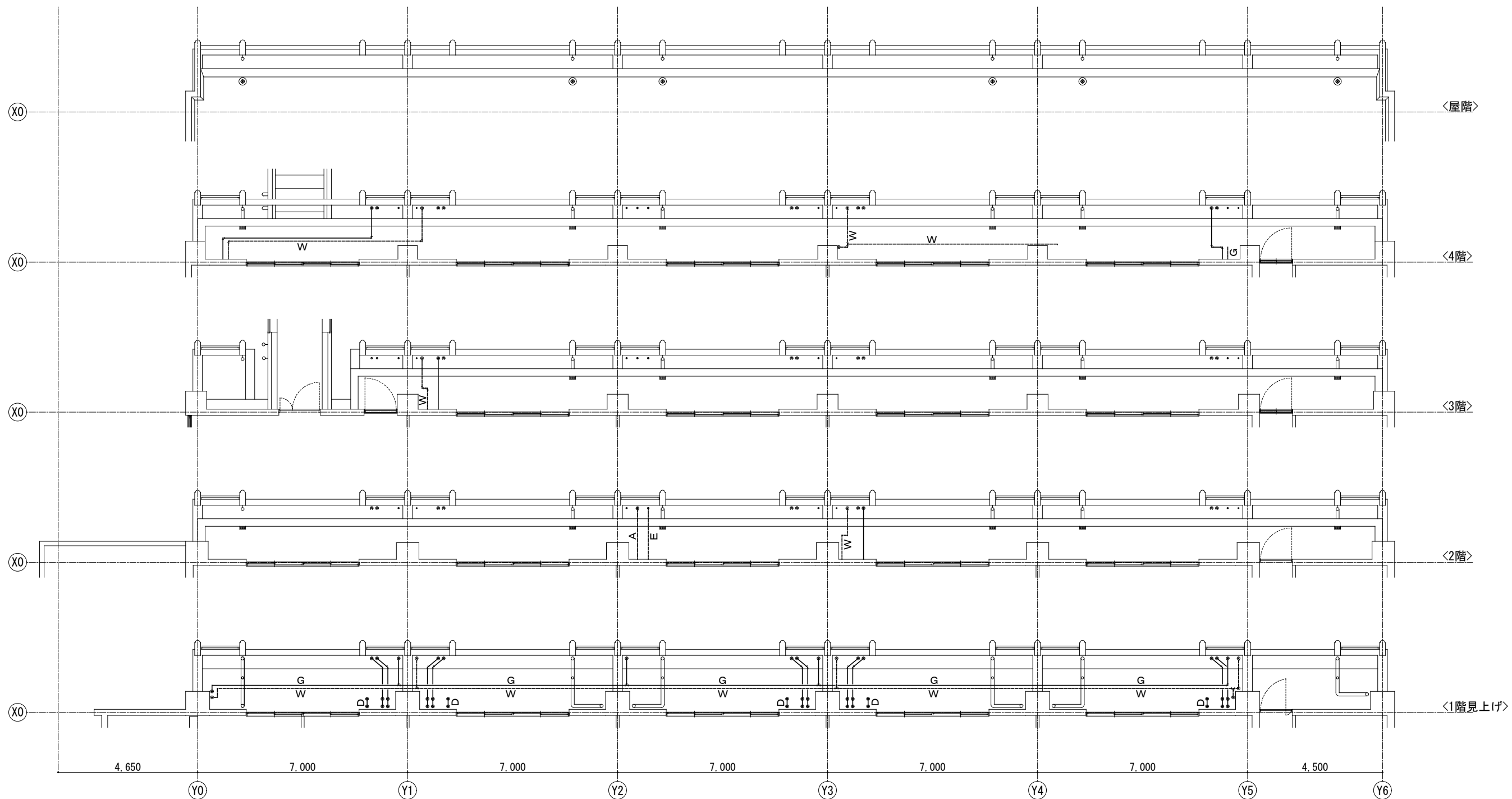
凡例	名称	材質	改修内容	凡例	名称	材質	改修内容
—	排水管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□	壁付き照明器具		水洗い
—G—	ガス管	樹脂被覆鋼管	DP塗装	□	床置き照明器具		水洗い
—W—	給水・給湯管ラッキョウ	ステンレス	水洗い	□	防犯カメラ		水洗い、足場へ移設し復旧
—F—	消火管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□	空調室外機		水洗い
—A—	換気パイプダクト	ステンレス	水洗い	□	給湯器		水洗い
—D—	ドレン管	樹脂管	DP塗装	□	縦樋	カーVP100φ	撤去・新設(呼び樋共)
—R—	空調冷媒管	ステンレス	水洗い				
—E—□	電気配管、フレキシブル	亜鉛メッキ、樹脂	DP塗装				



配管改修立面図 2号館西側：③断面 1/100

備考 1. DP塗装は7素樹脂系とする	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事
	図面名称	配管改修立面図 2号館西側：③断面
	作成年月	令和8年3月
	図面番号	A-33
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

凡例	名称	材質	改修内容	凡例	名称	材質	改修内容
—	排水管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□	壁付き照明器具		水洗い
—G—	ガス管	樹脂被覆鋼管	DP塗装	○	床置き照明器具		水洗い
—W—	給水・給湯管ラッキング	ステンレス	水洗い	□	防犯カメラ		水洗い、足場へ移設し復旧
—F—	消火管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□	空調室外機		水洗い
—A—	換気ダクト	ステンレス	水洗い	□	給湯器		水洗い
—D—	ドレン管	樹脂管	DP塗装	□	縦樋	ガラ-VP100φ	撤去・新設(呼び樋共)
—R—	空調冷媒管	ステンレス	水洗い				
—E—□	電気配管、ブルボックス	亜鉛メッキ、樹脂	DP塗装				

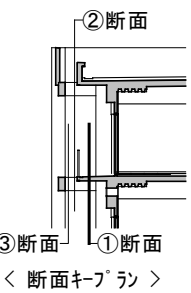


配管類改修平面図 2号館西側：X0通り 1/100

備考
 1. DP塗装は珪素樹脂系とする
 2. 2号館のバルコニー床面の配管はテナント所有物のため、水洗いのうえ、特記なき限り「見え掛かり部分（手すり脚元の<43>の範囲まで）」を凡例に倣って塗装等を行うこと

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
図面名称	配管類改修平面図 2号館西側：X0通り	図面番号
作成年月	令和8年3月	
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		A-34

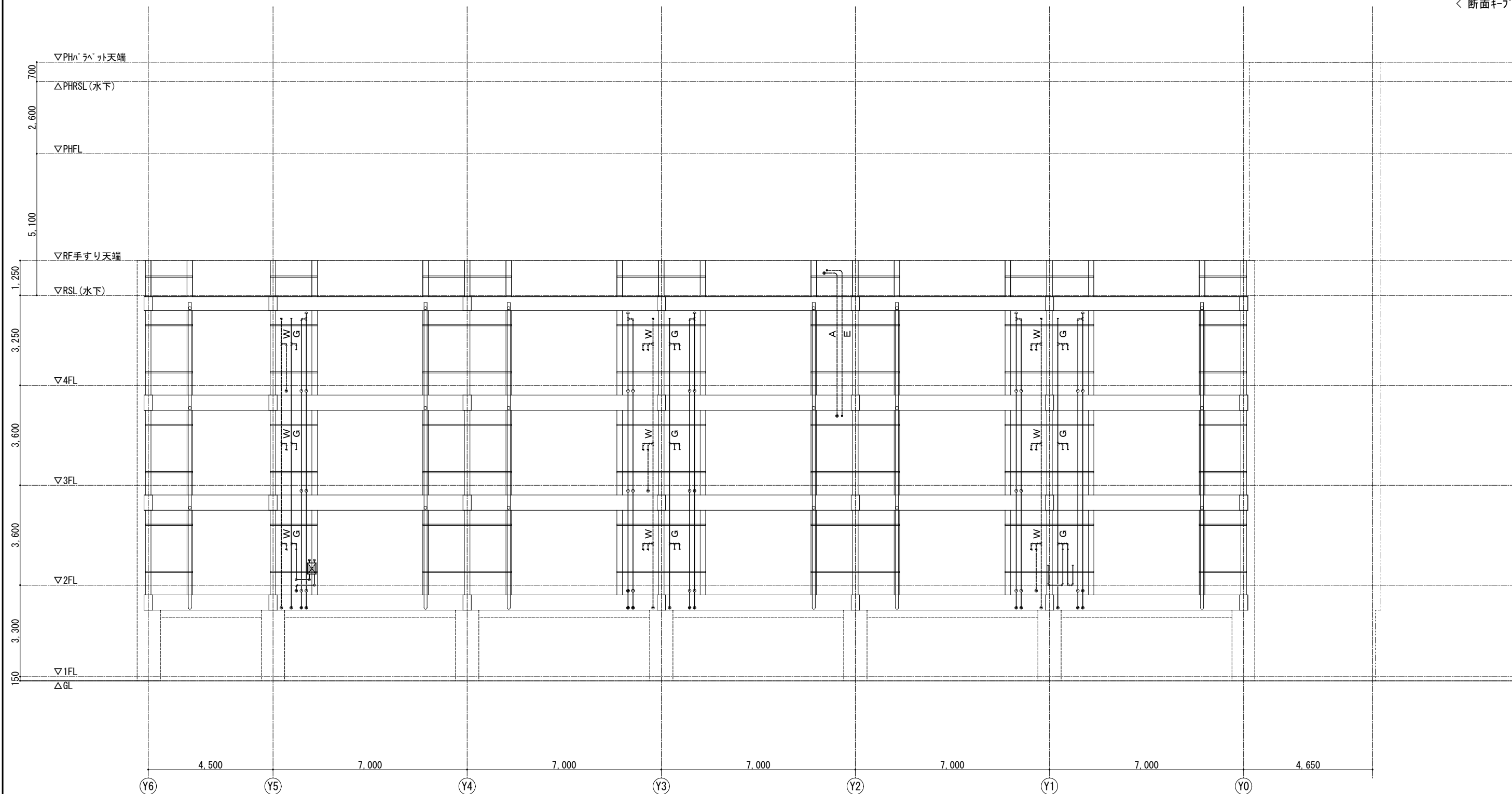
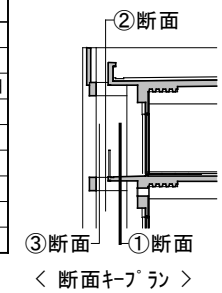
凡例	名称	材質	改修内容	凡例	名称	材質	改修内容
—	排水管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□	壁付き照明器具		水洗い
—G—	ガス管	樹脂被覆鋼管	DP塗装	□	床置き照明器具		水洗い
—W—	給水・給湯管(ラッキン)	ステンレス	水洗い	□	防犯カメラ		水洗い、足場へ移設し復旧
—F—	消火管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□	空調室外機		水洗い
—A—	換気パイプ(外)	ステンレス	水洗い	□	給湯器		水洗い
—D—	ドレン管	樹脂管	DP塗装	□	縦樋	カーVP100φ	撤去・新設(呼び樋共)
—R—	空調冷媒管	ステンレス	水洗い				
—E—□	電気配管、フレキシブル	亜鉛メッキ、樹脂	DP塗装				



配管類改修立面図 2号館東側：①断面 1/100

備考 1. DP塗装は7素樹脂系とする	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	配管類改修立面図 2号館東側：①断面	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-35
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

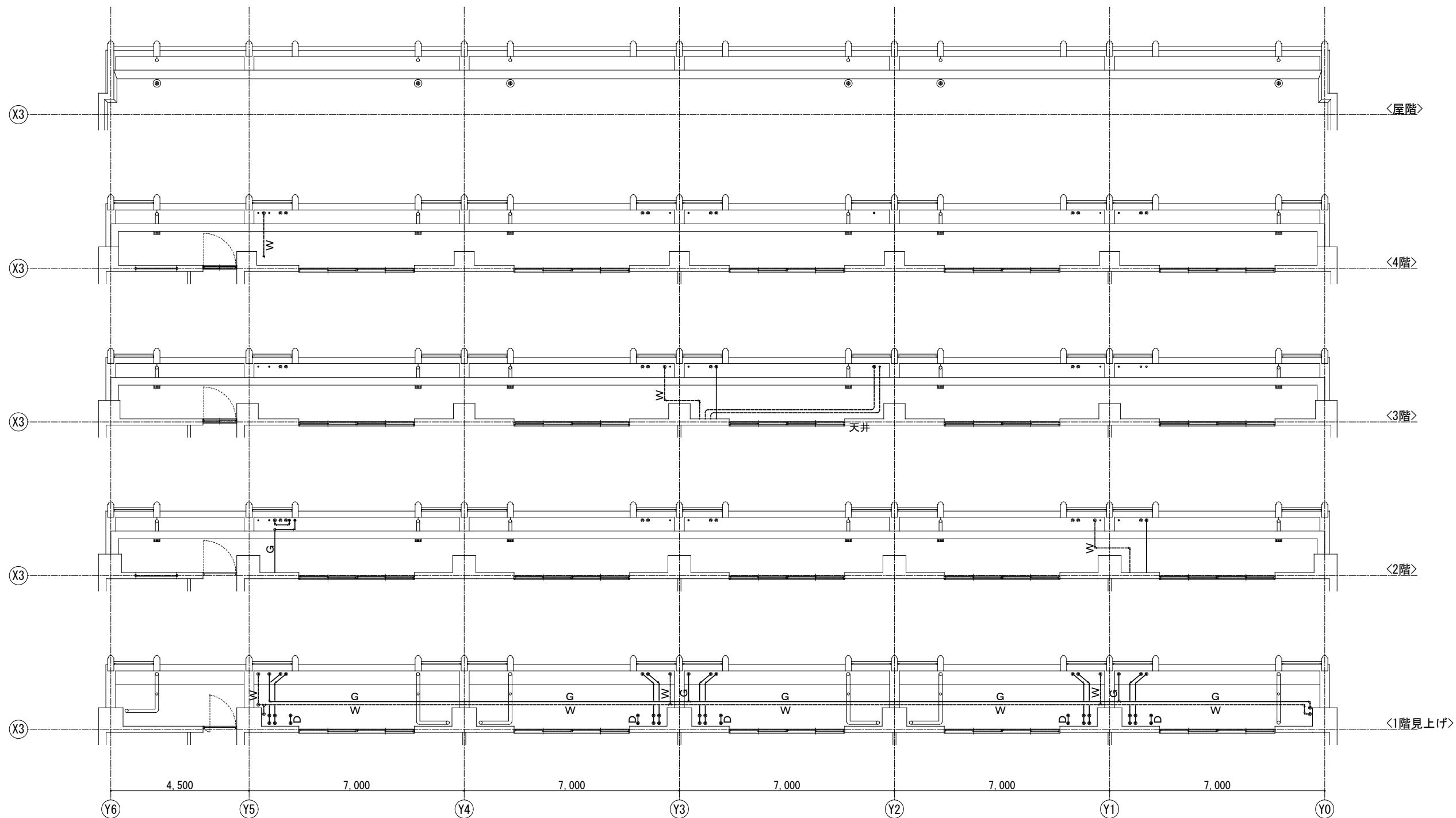
凡例	名称	材質	改修内容	凡例	名称	材質	改修内容
—	排水管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□	壁付き照明器具		水洗い
—G—	ガス管	樹脂被覆鋼管	DP塗装	□	床置き照明器具		水洗い
—W—	給水・給湯管ラッキン	ステンレス	水洗い	□	防犯カメラ		水洗い、足場へ移設し復旧
—F—	消火管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□	空調室外機		水洗い
—A—	換気パイプダクト	ステンレス	水洗い	□	給湯器		水洗い
—D—	ドレン管	樹脂管	DP塗装	□	縦樋	カーVP100φ	撤去・新設(呼び樋共)
—R—	空調冷媒管	ステンレス	水洗い				
—E—□	電気配管、フルボックス	亜鉛メッキ、樹脂	DP塗装				



配管類改修立面図 2号館東側：③断面 1/100

備考 1. DP塗装は7素樹脂系とする	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事
	図面名称	配管類改修立面図 2号館東側：③断面
	作成年月	令和8年3月
	図面番号	A-36
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

凡例	名称	材質	改修内容	凡例	名称	材質	改修内容
—	排水管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□○	壁付き照明器具		水洗い
—G—	ガス管	樹脂被覆鋼管	DP塗装	□○	床置き照明器具		水洗い
—W—	給水・給湯管ラッキング	ステンレス	水洗い	□	防犯カメラ		水洗い、足場へ移設し復旧
—F—	消火管	鋼管	既存SOPをDPに塗替え	□	空調室外機		水洗い
—A—	換気パイプダクト	ステンレス	水洗い	□	給湯器		水洗い
—D—	ドレン管	樹脂管	DP塗装	□	縦樋	ガラ-VP100φ	撤去・新設(呼び樋共)
—R—	空調冷媒管	ステンレス	水洗い				
—E—□	電気配管、ブルボックス	亜鉛メッキ、樹脂	DP塗装				

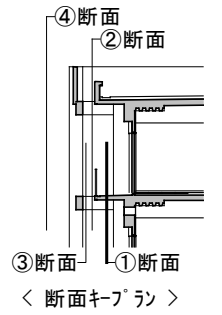


配管類改修平面図 2号館東側：X3通り 1/100

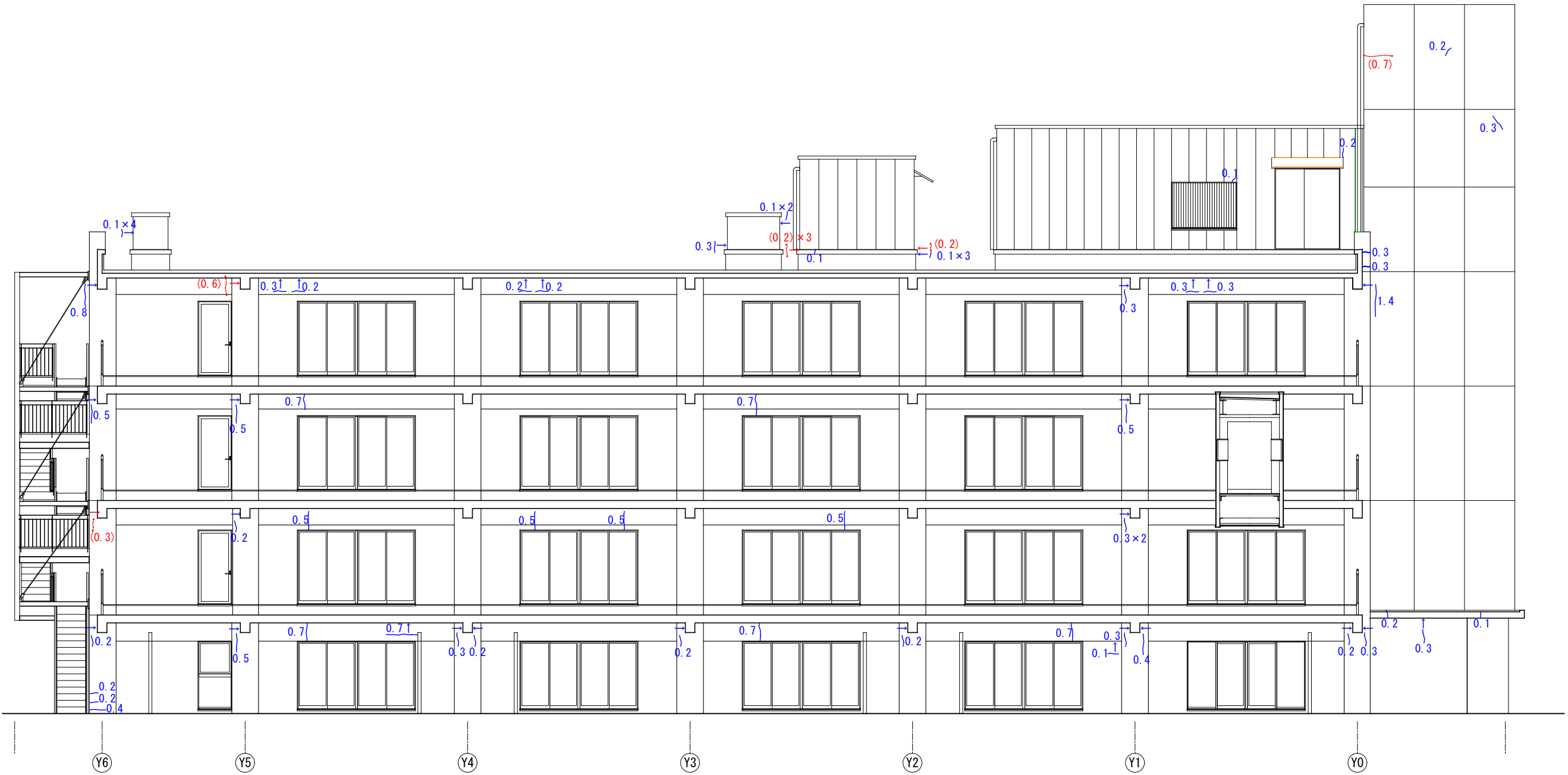
備考

1. DP塗装はフッ素樹脂系とする
2. 2号館のバルコニー床面の配管はテナント所有物のため、水洗いのうえ、特記なき限り「見え掛かり部分（手すり脚元の<43>の範囲まで）」を凡例に倣って塗装等を行うこと

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	配管類改修平面図 2号館東側：X6通り	図面番号	A-37
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



- ▽PHパナペット天端
- ▽PHRSL(水下)
- ▽PHFL
- ▽RF手すり天端
- ▽RSL(水下)
- ▽4FL
- ▽3FL
- ▽2FL
- ▽1FL
- △GL

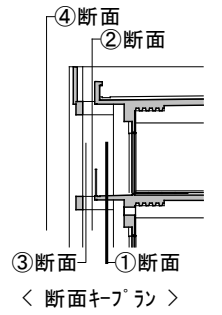


補修立面図 2号館西側：①断面 1/100

記号	種別(サイズ)	数量(～Y6)	数量(Y6～Y5)	数量(Y5～Y4)	数量(Y4～Y3)	数量(Y3～Y2)	数量(Y2～Y1)	数量(Y1～X0)	数量(X0～)	小計	単位
〰	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	2.3	1.6	3.4	1.8	2.7	2.8	1.5	3.4	19.5	m
〰	クラック(1.0mm以上)	0.3	0.6	—	—	0.6	0.2	—	0.7	2.4	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	浮き	—	—	—	—	—	—	—	—	—	m2
S	セパレーター飛出し	—	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
○	シーリング発錆部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
表記無	Pコ脱型跡 浮き・剥落	—	—	—	6	5	—	3	18	32	箇所

備考

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁補修立面図 2号館西側：①断面	図面番号	A-38
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



▽PHパネ天端
▽PHRSL(水下)

▽PHFL

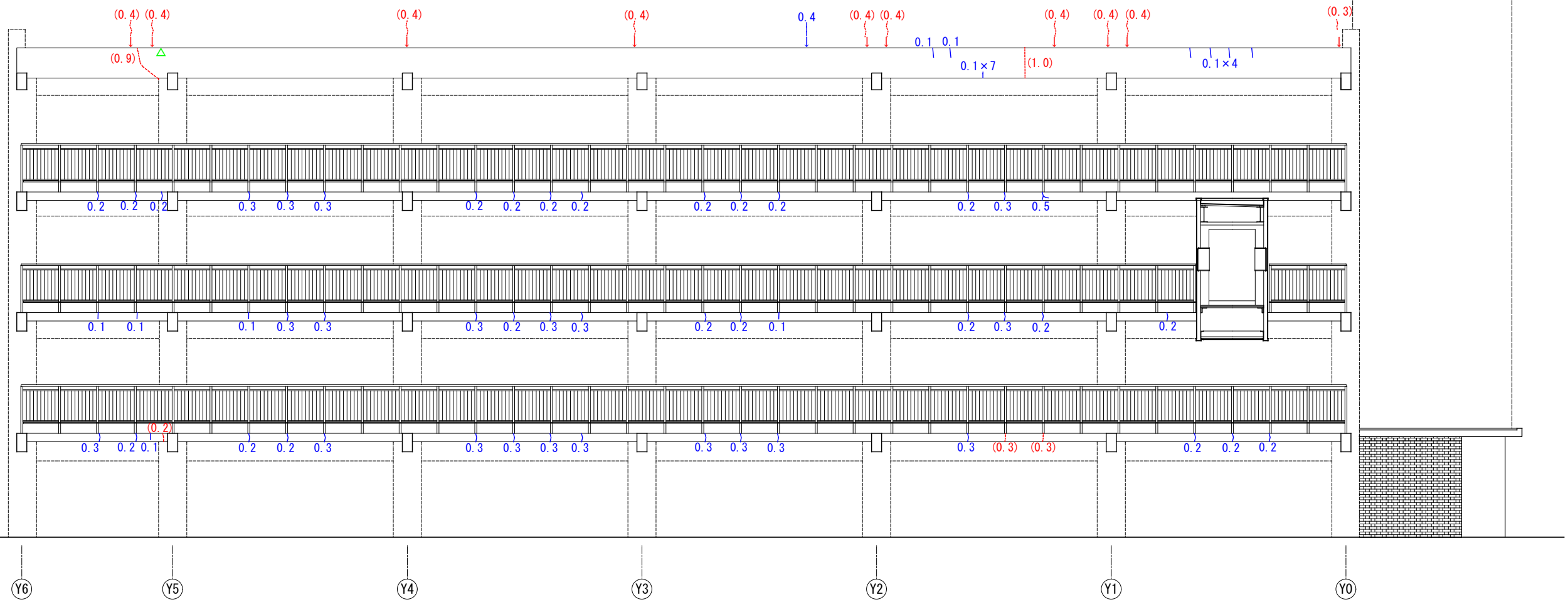
▽RF手すり天端
▽RSL(水下)

▽4FL

▽3FL

▽2FL

▽1FL
△GL

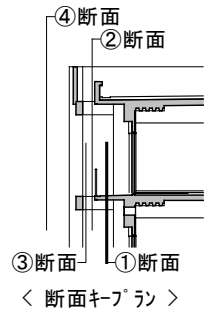


補修立面図 2号館西側：②断面 1/100

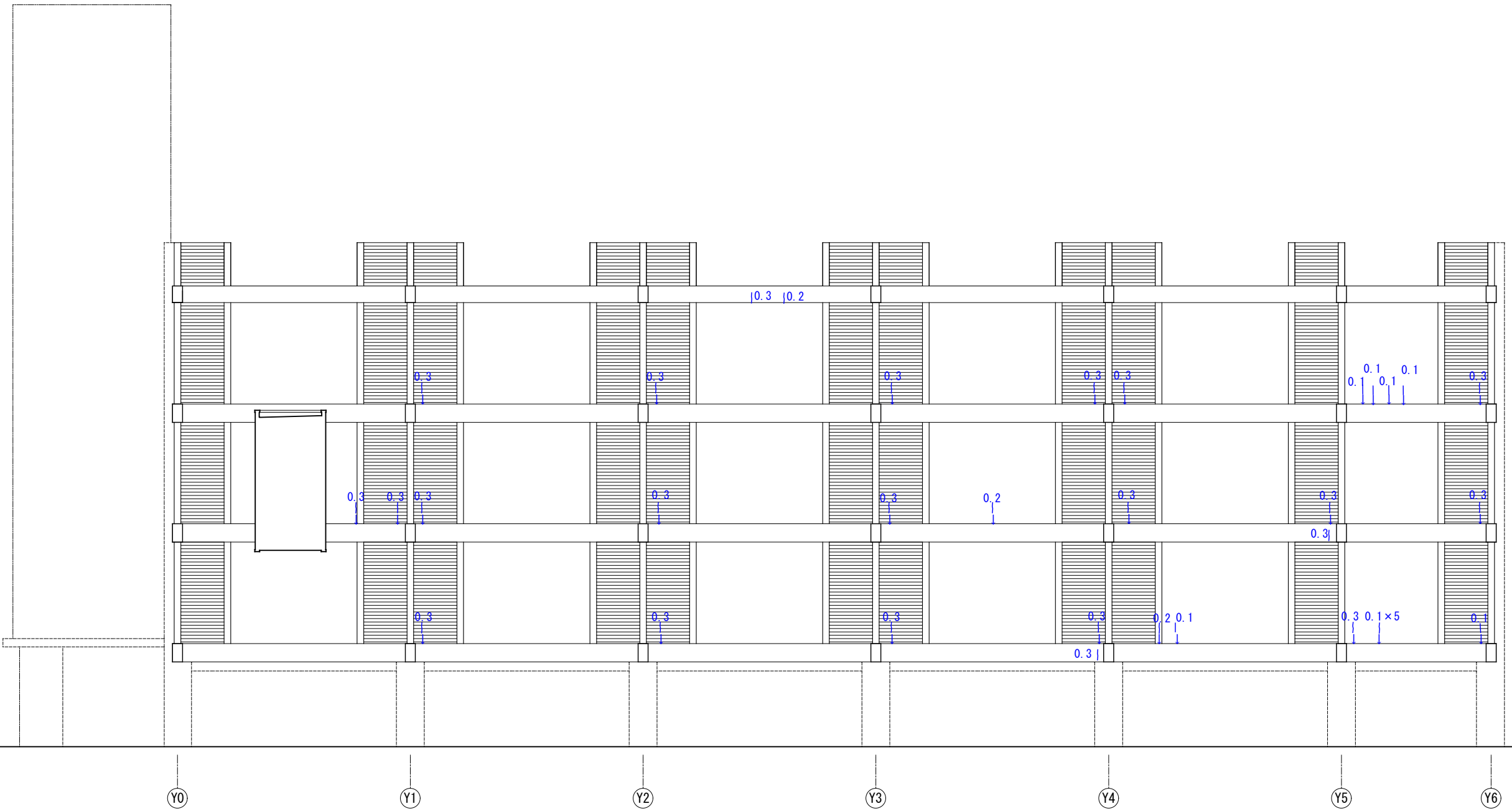
記号	種別(サイズ)	数量(Y6~Y5)	数量(Y5~Y4)	数量(Y4~Y3)	数量(Y3~Y2)	数量(Y2~Y1)	数量(Y1~Y0)	小計	単位
~	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	1.4	2.3	3.1	2.4	2.9	1.2	13.3	m
-	クラック(1.0mm以上)	1.9	0.4	0.4	0.4	2.8	0.7	6.6	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	-	-	-	-	-	-	-	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	1	-	-	-	-	-	1	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	-	-	-	-	-	-	-	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	-	-	-	-	-	-	-	箇所
■	浮き	-	-	-	-	-	-	-	m2
S	セパレーター飛出し	-	-	-	-	-	-	-	箇所
○	シーリング発錆部	-	-	-	-	-	-	-	箇所
表記無	Pコ脱型跡 浮き・剥落	-	-	-	-	-	-	-	箇所

備考

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁補修立面図 2号館西側：②断面	図面番号	A-39
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



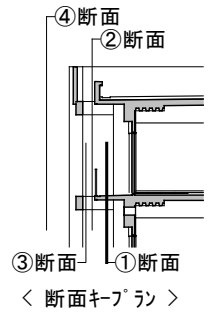
▽PHハット天端
 ▽PHRSL(水下)
 ▽PHFL
 ▽RF手すり天端
 ▽RSL(水下)
 ▽4FL
 ▽3FL
 ▽2FL
 ▽1FL
 △GL



補修立面図 2号館西側：③断面 1/100

記号	種別(サイズ)	数量(Y0~Y1)	数量(Y1~Y2)	数量(Y2~Y3)	数量(Y3~Y4)	数量(Y4~Y5)	数量(Y6~Y3)	小計	単位
—	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	0.6	0.9	1.4	2.0	1.5	1.9	8.3	m
—	クラック(1.0mm以上)	—	—	—	—	—	—	—	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	浮き	—	—	—	—	—	—	—	m2
S	セパレーター飛出し	—	—	—	—	—	—	—	箇所
○	シーリング発錆部	—	—	—	—	—	—	—	箇所
表記無	Pコ脱型跡 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所

備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	外壁補修立面図 2号館西側：③断面	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-40
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



- ▽PHハッチ天端
- ▽PHRSL(水下)
- ▽PHFL
- ▽RF手すり天端
- ▽RSL(水下)
- ▽4FL
- ▽3FL
- ▽2FL
- ▽1FL
- △GL

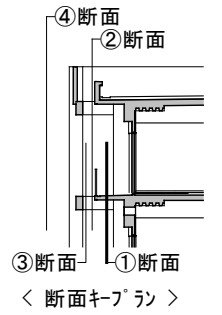


補修立面図 2号館西側：④断面 1/100

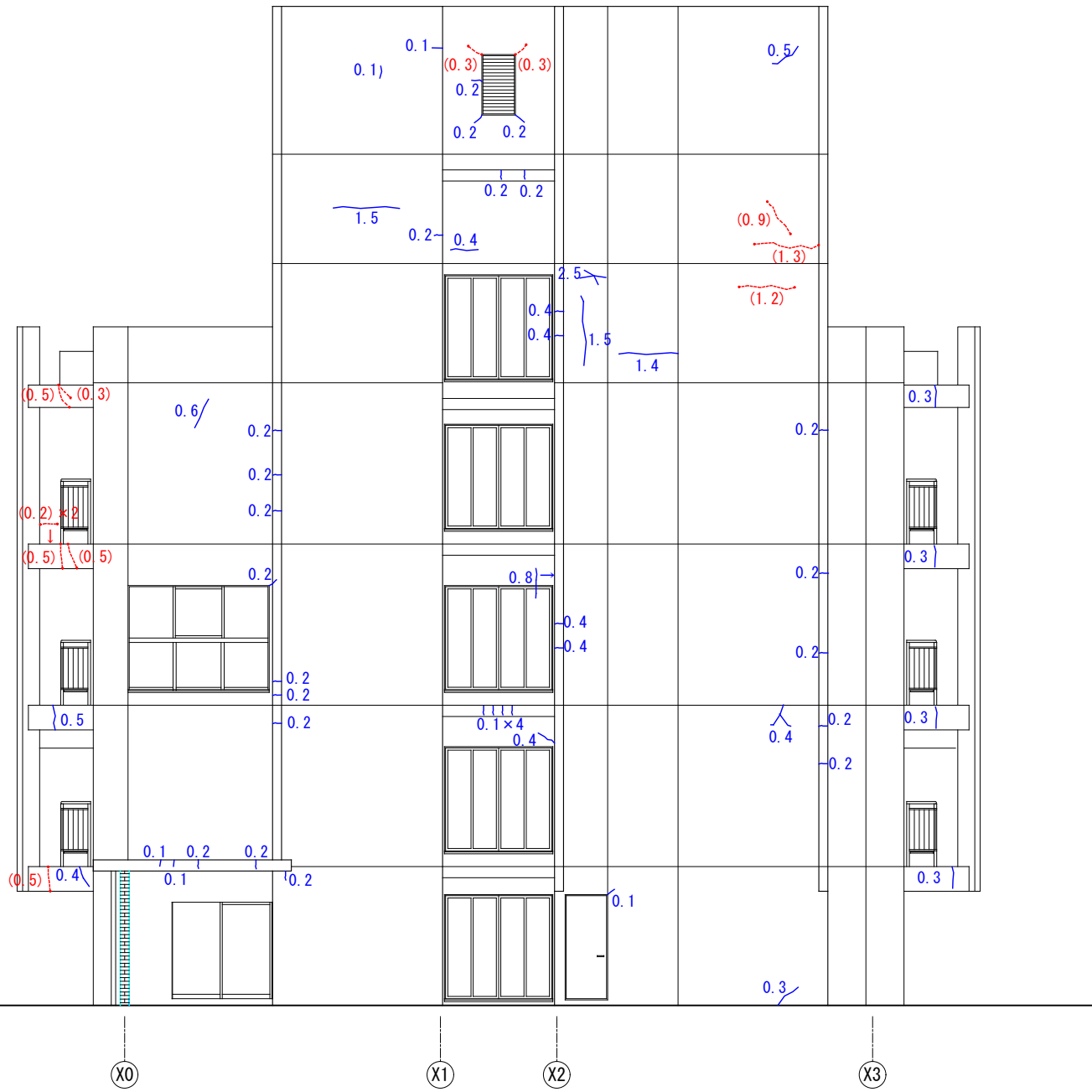
記号	種別(サイズ)	数量(Y6~Y5)	数量(Y5~Y4)	数量(Y4~Y3)	数量(Y3~Y2)	数量(Y2~Y1)	数量(Y1~Y0)	小計	単位
—	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	0.9	0.6	0.6	0.8	0.7	0.5	4.1	m
—	クラック(1.0mm以上)	—	—	0.3	—	—	—	0.3	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	浮き	—	—	—	—	—	—	—	m2
S	セパレーター飛出し	—	—	—	—	—	—	—	箇所
○	シーリング発錆部	—	—	—	—	—	—	—	箇所
表記無	Pコ脱型跡 浮き・剥落	9	12	7	5	—	—	33	箇所

備考

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁補修立面図 2号館西側：④断面	図面番号	A-41
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



▽PHハット天端
▽PHRSL(水下)
▽PHFL
▽RF手すり天端
▽RSL(水下)
▽4FL
▽3FL
▽2FL
▽1FL
△GL

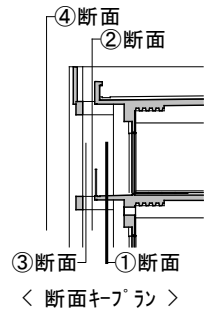


補修立面図 2号棟南側：①断面 1/100

記号	種別(サイズ)	数量(～X0)	数量(X0～X1)	数量(X1～X2)	数量(X2～X3)	数量(X3～)	小計	単位
〰	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	0.9	4.7	3.0	9.3	1.2	19.1	m
〰	クラック(1.0mm以上)	2.7	—	0.6	3.4	—	6.7	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	箇所
■	浮き	—	—	—	—	—	—	m2
S	セパレーター飛出し	—	—	—	—	—	—	箇所
◎	シーリング発錆部	—	—	—	—	—	—	箇所
表記無	コン脱型跡 浮き・剥落	—	21	1	9	—	31	箇所

備考

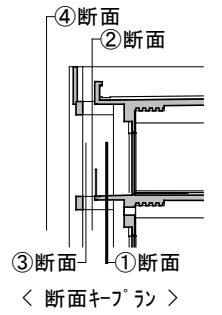
工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁補修立面図 2号館南側：①断面	図面番号	A-42
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



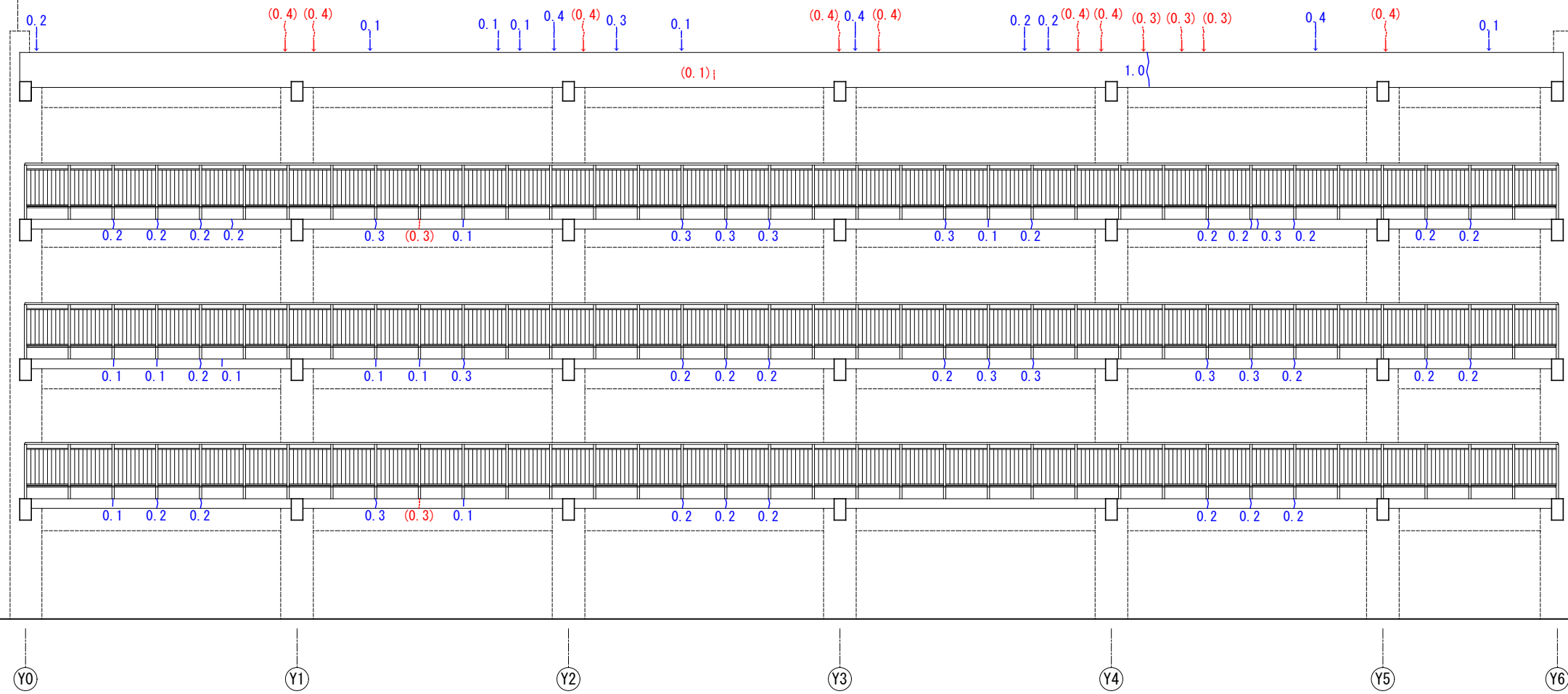
補修立面図 2号館東側：①断面 1/100

記号	種別(サイズ)	数量(～Y0)	数量(Y0～Y1)	数量(Y1～Y2)	数量(Y2～Y3)	数量(Y3～Y4)	数量(Y4～Y5)	数量(Y5～Y6)	小計	単位
—	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	14.6	7.1	4.5	4.3	1.1	3.3	3.8	38.7	m
—	クラック(1.0mm以上)	5.3	—	—	—	—	—	—	5.3	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	浮き	—	—	—	—	—	—	—	—	m2
S	セパレーター飛出し	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
◎	シーリング発錆部	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
表記無	コン脱型跡 浮き・剥落	7	7	4	1	—	2	1	22	箇所

備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	外壁補修立面図 2号館東側：①断面	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-43
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



▽PHハット天端
 ▽PHRSL(水下)
 ▽PHFL
 ▽RF手すり天端
 ▽RSL(水下)
 ▽4FL
 ▽3FL
 ▽2FL
 ▽1FL
 △GL

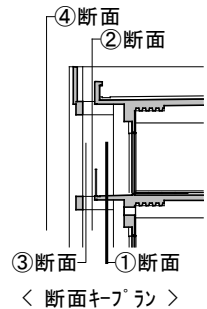


補修立面図 2号館東側 : ②断面 1/100

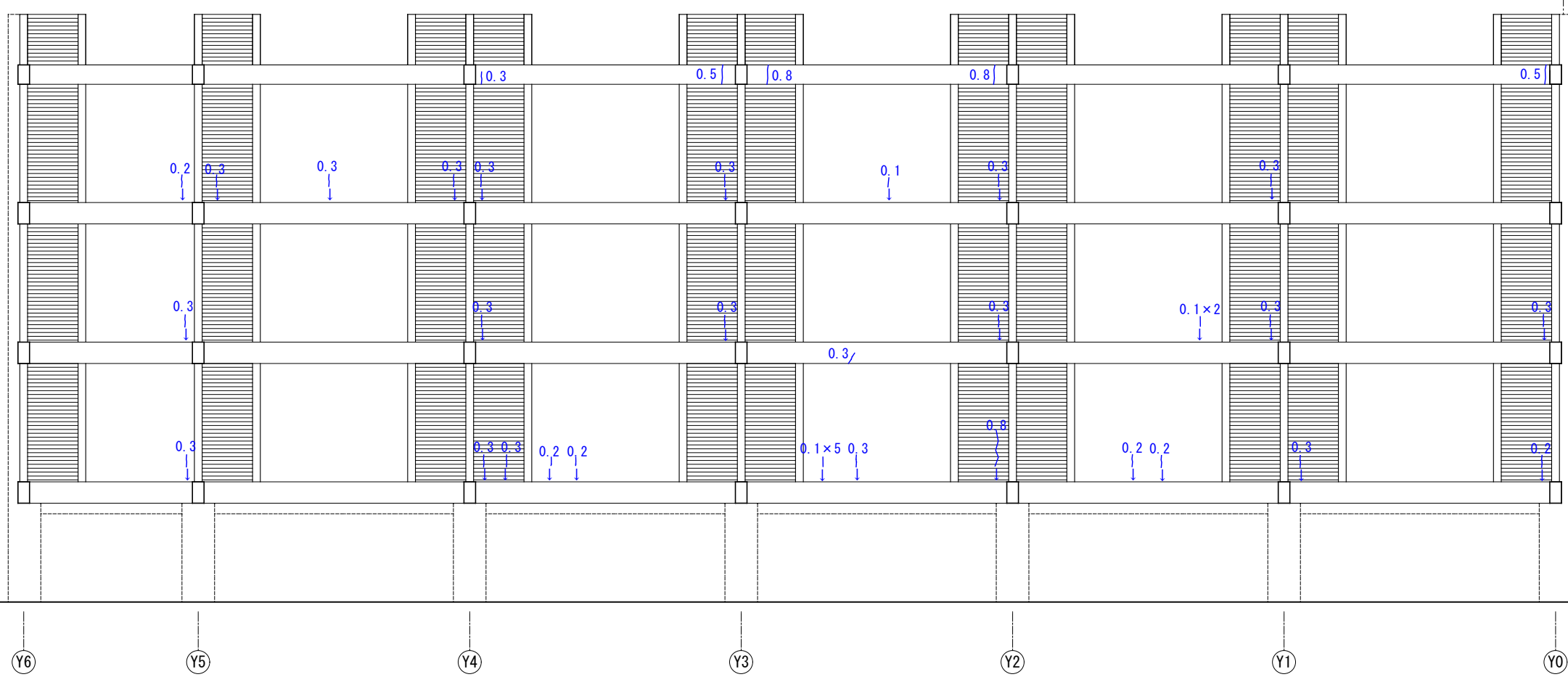
記号	種別(サイズ)	数量(Y0~Y1)	数量(Y1~Y2)	数量(Y2~Y3)	数量(Y3~Y4)	数量(Y4~Y5)	数量(Y5~Y6)	小計	単位
〰	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	2.0	2.0	2.5	2.2	3.7	0.9	13.3	m
〰	クラック(1.0mm以上)	0.4	1.0	0.9	1.2	0.9	0.4	4.8	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	浮き	—	—	—	—	—	—	—	m2
S	セパレーター飛出し	—	—	—	—	—	—	—	箇所
◎	シーリング発錆部	—	—	—	—	—	—	—	箇所
表記無	コン脱型跡 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所

備考

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁補修立面図 2号館東側 : ②断面	図面番号	A-44
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

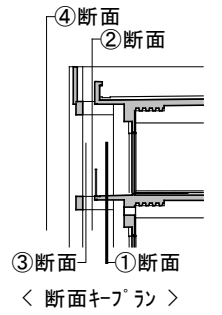


▽PHカマケ天端
 ▽PHRSL(水下)
 ▽PHFL
 ▽RF手すり天端
 ▽RSL(水下)
 ▽4FL
 ▽3FL
 ▽2FL
 ▽1FL
 △GL

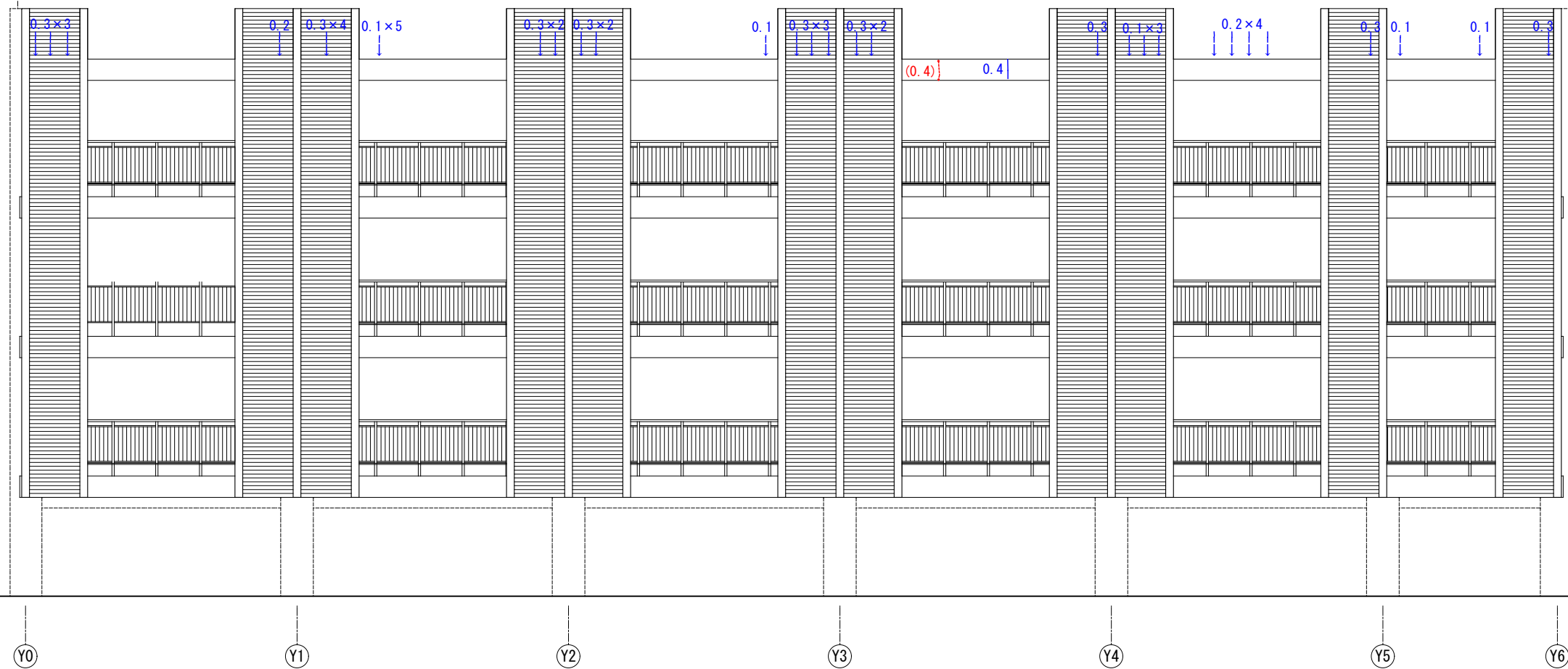


補修立面図 2号館東側：③断面 1/100

記号	種別(サイズ)	数量(Y6~Y5)	数量(Y5~Y4)	数量(Y4~Y3)	数量(Y3~Y2)	数量(Y2~Y1)	数量(Y1~Y0)	小計	単位
〰	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	0.8	0.9	3.0	4.2	1.2	1.3	11.4	m
〰	クラック(1.0mm以上)	-	-	-	-	-	-	-	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	-	-	-	-	-	-	-	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	-	-	-	-	-	-	-	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	-	-	-	-	-	-	-	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	-	-	-	-	-	-	-	箇所
■	浮き	-	-	-	-	-	-	-	m2
S	セパレーター飛出し	-	-	-	-	-	-	-	箇所
◎	シーリング発錆部	-	-	-	-	-	-	-	箇所
表記無	PC剥離型跡 浮き・剥落	-	-	-	-	-	-	-	箇所



▽PHM 天端
 ▽PHRSL (水下)
 ▽PHFL
 ▽RF 手すり天端
 ▽RSL (水下)
 ▽4FL
 ▽3FL
 ▽2FL
 ▽1FL
 △GL

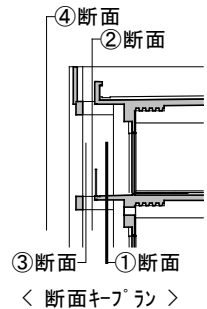


補修立面図 2号館東側 : ④断面 1/100

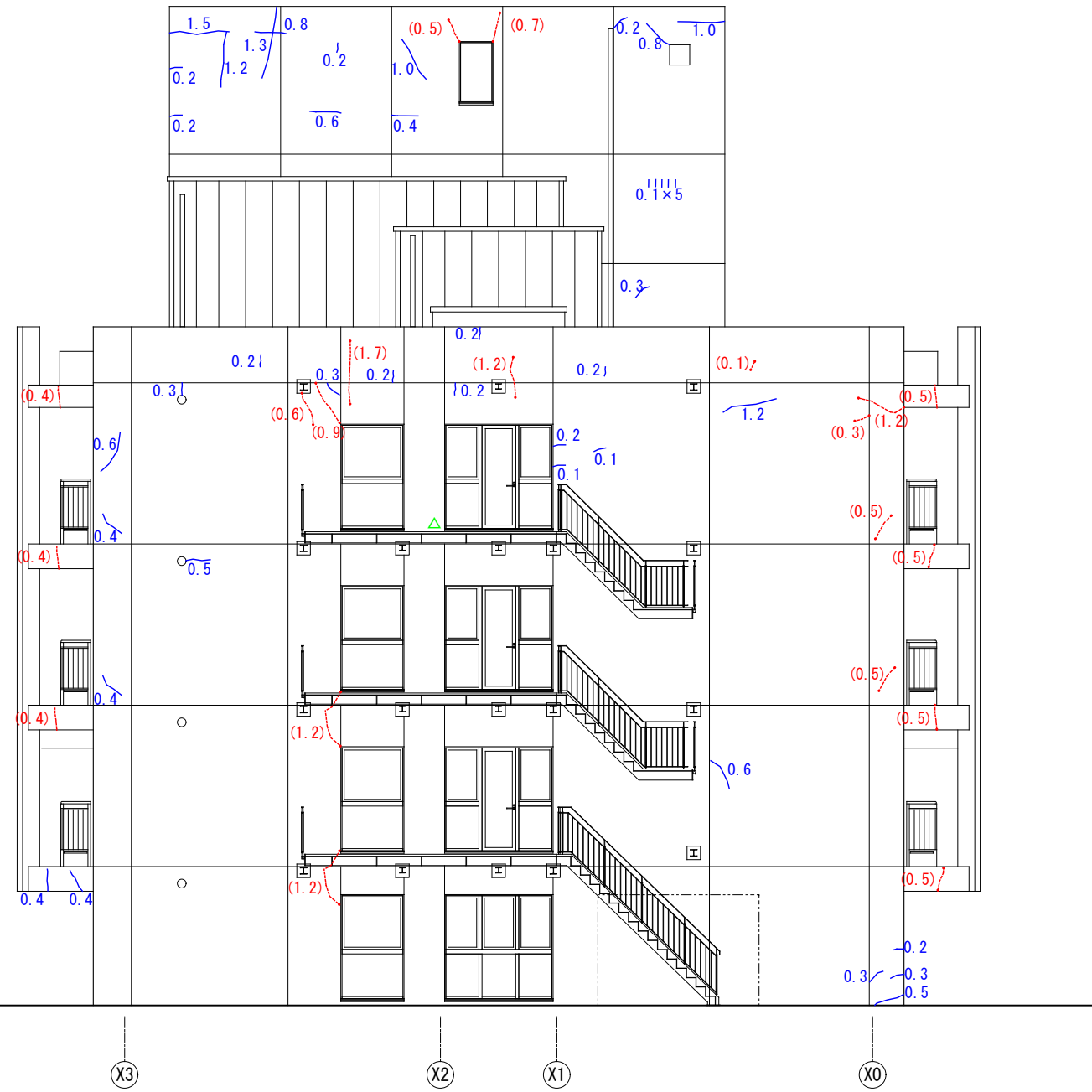
記号	種別 (サイズ)	数量 (Y0~Y1)	数量 (Y1~Y2)	数量 (Y2~Y3)	数量 (Y3~Y4)	数量 (Y4~Y5)	数量 (Y5~Y6)	小計	単位
—	クラック (0.2mm以上1.0mm未満)	1.1	2.3	1.6	1.3	1.4	0.5	8.2	m
—	クラック (1.0mm以上)	—	—	—	0.4	—	—	0.4	m
×	爆裂 (100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	箇所
△	欠損 (100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	箇所
●	コッター跡 (丸) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡 (四角) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	浮き	—	—	—	—	—	—	—	m2
S	セパレーター飛出し	—	—	—	—	—	—	—	箇所
◎	シーリング発錆部	—	—	—	—	—	—	—	箇所
表記無	コン脱型跡 浮き・剥落	2	3	4	4	6	5	24	箇所

備考

工事名	横浜新技術創造館 (リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁補修立面図 2号館東側 : ④断面	図面番号	A-46
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



▽PH^h 天端
 ▽PHRSL (水下)
 ▽PHFL
 ▽RF 手すり天端
 ▽RSL (水下)
 ▽4FL
 ▽3FL
 ▽2FL
 ▽1FL
 △GL



補修立面図 2号棟北側：①断面 1/100

記号	種別(サイズ)	数量(～X3)	数量(X3～X2)	数量(X2～X1)	数量(X1～X0)	数量(X0～)	小計	単位
—	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	2.2	8.9	0.4	5.2	1.3	18.0	m
—	クラック(1.0mm以上)	1.2	5.6	2.4	0.4	4.2	13.8	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	—	—	1	—	—	1	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	箇所
■	浮き	—	—	—	—	—	—	m ²
S	セパレーター飛出し	—	—	—	—	—	—	箇所
○	シーリング発錆部	—	—	—	—	—	—	箇所
表記無	コン脱型跡 浮き・剥落	—	12	1	10	—	23	箇所

備考

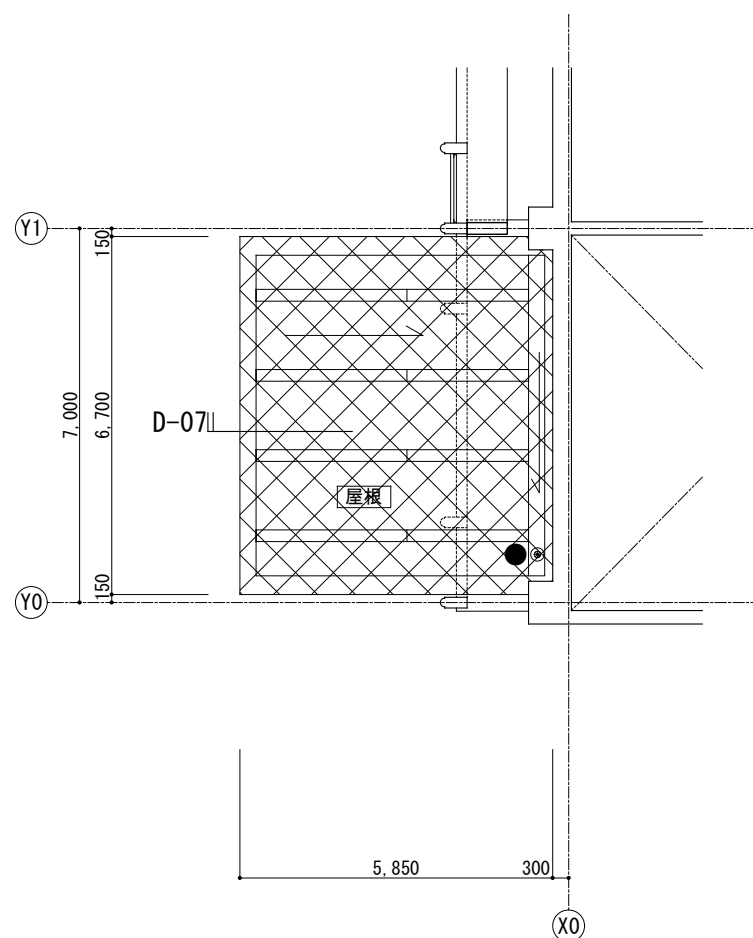
工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	外壁補修立面図 2号館北側：①断面	図面番号	A-47
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

Uカット材充填工法 打放し(A工法) <p>※挙動あり：ひび割れ幅>1.0mm</p>		打放し(B工法) <p>※挙動あり：0.2mm≦ひび割れ幅≦1.0mm ※挙動なし：ひび割れ幅>1.0mm</p>		モルタル塗り(A工法) <p>※挙動あり：ひび割れ幅>1.0mm</p>		モルタル塗り(B工法) <p>※挙動あり：0.2mm≦ひび割れ幅≦1.0mm ※挙動なし：ひび割れ幅>1.0mm</p>		充填工法(軽量球・矽樹脂モルタル) 打放し <p>モルタル塗り</p>		充填工法(軽量球・矽樹脂モルタル) ※危険性「大」の場合 打放し <p>モルタル塗り</p>															
補修範囲の確認 <ul style="list-style-type: none"> ひび割れの状況を確認し、補修範囲を決定する。 		Uカット <ul style="list-style-type: none"> ひび割れに沿って、幅10mm、深さ10~15mm程度のU字型の溝を設ける。 		孔内の清掃 <ul style="list-style-type: none"> Uカット溝内部の切粉等をワイヤブラシ、刷毛等で除去し清掃する。 		プライマー塗布 <ul style="list-style-type: none"> プライマーを溝内部に塗染しがないように均一に塗布する。 		モルタルの計量および混練 <ul style="list-style-type: none"> 主剤と硬化剤を規定量正確に計量し、気泡を巻き込まないように充分混練する。計量は可使時間内に使い切る量とする。 		モルタルの充填 <ul style="list-style-type: none"> 溝内にモルタルをコキウガンで、空隙や打残し等のないよう加圧しながら充てんし、表面を平滑に仕上げる。 ※A工法の場合はシーリング材をコンクリート表面から3~5mm程度低めに充てんする。 		補修範囲の確認 <ul style="list-style-type: none"> 欠損部の状況を確認し、補修範囲を決定する。 		モルタルの充填 <ul style="list-style-type: none"> プライマーの粘着性のあるうちに、球・矽樹脂モルタルを充分押え込みながら、充てんする。 		下地処理 <ul style="list-style-type: none"> 欠損部の脆弱部分などをはつり取った後、埃等を除去して清浄で強固な下地を出す。 鉄筋が露出している場合は、錆を除去する。 		表面仕上げ <ul style="list-style-type: none"> 表面を金ゴテ等で充分押えて、平滑に仕上げる。 		養生 <ul style="list-style-type: none"> 軽量球・矽樹脂モルタルが硬化するまでは(24時間以上)損傷、汚染のないようにしまた雨水等からも養生する。 		清掃 <ul style="list-style-type: none"> 補修部以外の汚れを除去し、清掃する。 		自主検査 <ul style="list-style-type: none"> 軽量球・矽樹脂モルタルの仕上がり状態、硬化状態および後片付けを確認する。 	

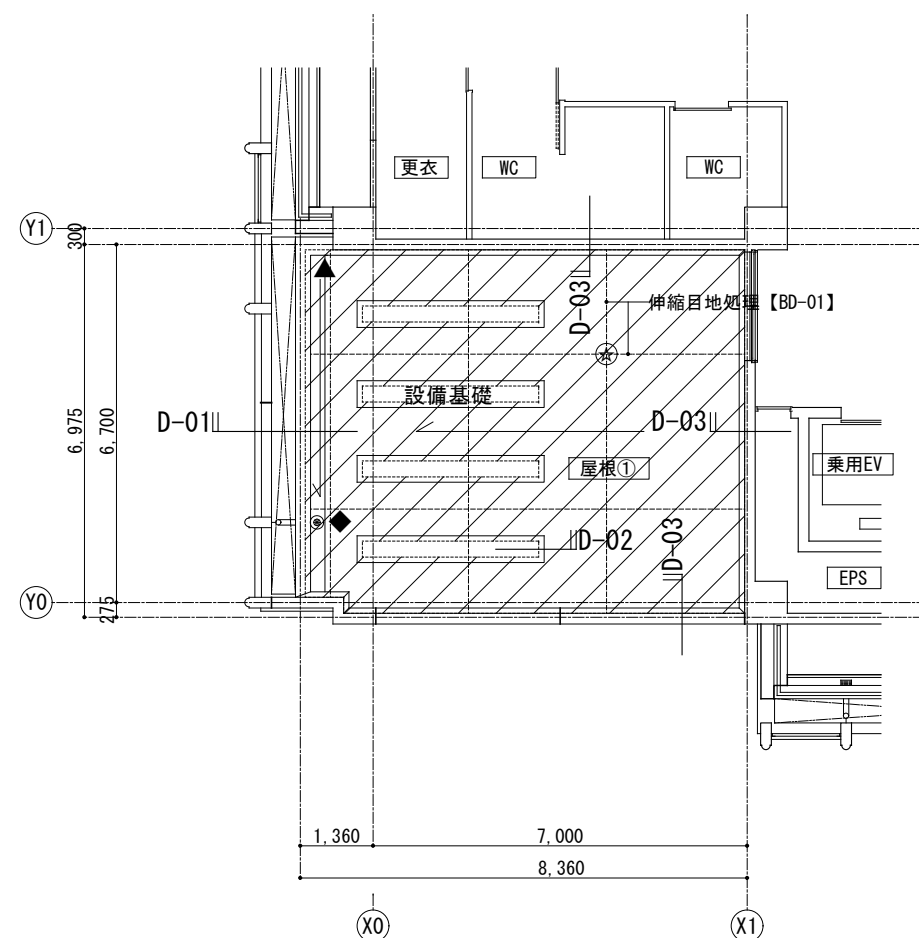
充填工法(ポリアセト樹脂モルタル) ※危険性「小」の場合 打放し <p>鉄筋</p>		モルタル塗り <p>プライマー ポリアセト樹脂モルタル</p>		樹脂注入工法 打放し <p>ひび割れ パテ状球・矽樹脂 注入パイプ(φ6~12mm)</p> <p>手動式樹脂注入工法 ※挙動なし：ひび割れ幅>1.0mm</p>		打放し <p>ひび割れ シーリング材 注入器具 座金</p> <p>自動式低圧球・矽樹脂注入工法 ※挙動あり/なし：0.2≦ひび割れ幅≦1.0</p>		モルタル塗り <p>注入パイプ(φ6~12mm) パテ状球・矽樹脂</p> <p>手動式樹脂注入工法 ※挙動なし：ひび割れ幅>1.0mm</p>		モルタル塗り <p>注入器具 座金</p> <p>自動式低圧球・矽樹脂注入工法 ※挙動あり/なし：0.2≦ひび割れ幅≦1.0</p>											
補修範囲の確認 <ul style="list-style-type: none"> 欠損部の状況を確認し、補修範囲を決定する。 		表面仕上げ <ul style="list-style-type: none"> 表面を金ゴテで充分押さえ、平滑に仕上げる。 		養生 <ul style="list-style-type: none"> 各層とも急激な乾燥を避けて、ポリアセト樹脂モルタルが硬化するまで損傷、汚染のないようにすると共に降雨等からも養生する。(7日以上) 		清掃 <ul style="list-style-type: none"> ポリアセト樹脂モルタルの硬化後、補修以外の汚れ等を除去し、清掃する。 		自主検査 <ul style="list-style-type: none"> ポリアセト樹脂モルタルの仕上がり状態、硬化状態および後片付けを確認する。 		ひび割れ部の清掃 <ul style="list-style-type: none"> ひび割れ部を中心に幅50mm程度の表面をワイヤブラシ等で清掃する。 ひび割れ部が濡れている場合は、乾燥するまで作業は中止する。 		モルタルの計量・混練 <ul style="list-style-type: none"> 主剤と硬化剤を規定量正確に計量し、均一になるまで充分混練する。 		モルタルの注入 <ul style="list-style-type: none"> 専用器具にモルタルを充填し、注入を行う。 注入状態を確認し、必要に応じてモルタルを補充する。 注入作業完了後も専用器具を設置したまま硬化養生する。 		モルタルの硬化・養生 <ul style="list-style-type: none"> 12時間以上の放置養生 		専用器具・仮止めシーリング材の除去 <ul style="list-style-type: none"> 皮スキ、ディスクサンダー、ホットアイロンなどを用いて、専用器具及び仮止めシーリング材を除去し、下地面を平滑に仕上げる。 		自主検査 <ul style="list-style-type: none"> モルタルの使用量及び、専用器具内の残量から注入量を確認する。 	

アコベニング部分球・矽樹脂注入工法 ※〔石綿含有仕上げ塗材等の場合：集じん装置付きディスクライダークレ工法〕 モルタル塗り <p>アコベニ パテ状球・矽樹脂 球・矽樹脂</p> <p>※1ヶ所の浮き面積が0.25m2未満の場合</p>		アコベニング全面球・矽樹脂注入工法 ※〔石綿含有仕上げ塗材等の場合：集じん装置付きディスクライダークレ工法〕 モルタル塗り <p>パテ状球・矽樹脂 球・矽樹脂 アコベニ パテ状球・矽樹脂</p> <p>※1ヶ所の浮き面積が0.25m2以上の場合</p>		アコベニングの本数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>項目</th> <th>アコベニの本数</th> <th>注入孔の本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">一般部分</td> <td>アコベニの本数</td> <td>13本/m²</td> <td>12本/m²</td> </tr> <tr> <td>指定部分</td> <td>20本/m²</td> <td>20本/m²</td> </tr> <tr> <td>狭幅部</td> <td>5本/m</td> <td>5本/m</td> </tr> </tbody> </table>		種類	項目	アコベニの本数	注入孔の本数	一般部分	アコベニの本数	13本/m ²	12本/m ²	指定部分	20本/m ²	20本/m ²	狭幅部	5本/m	5本/m	アコベニの本数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>項目</th> <th>アコベニの本数</th> <th>注入孔の本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">一般部分</td> <td>アコベニの本数</td> <td>13本/m²</td> <td>12本/m²</td> </tr> <tr> <td>指定部分</td> <td>20本/m²</td> <td>20本/m²</td> </tr> <tr> <td>狭幅部</td> <td>5本/m</td> <td>5本/m</td> </tr> </tbody> </table>		種類	項目	アコベニの本数	注入孔の本数	一般部分	アコベニの本数	13本/m ²	12本/m ²	指定部分	20本/m ²	20本/m ²	狭幅部	5本/m	5本/m	コン脱型部・コッター跡充填工法(ポリアセト樹脂モルタル) 打放し <p>プライマー モリアセト樹脂モルタル セパレータ等</p>		アコベニの本数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>項目</th> <th>アコベニの本数</th> <th>注入孔の本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">一般部分</td> <td>アコベニの本数</td> <td>13本/m²</td> <td>12本/m²</td> </tr> <tr> <td>指定部分</td> <td>20本/m²</td> <td>20本/m²</td> </tr> <tr> <td>狭幅部</td> <td>5本/m</td> <td>5本/m</td> </tr> </tbody> </table>		種類	項目	アコベニの本数	注入孔の本数	一般部分	アコベニの本数	13本/m ²	12本/m ²	指定部分	20本/m ²	20本/m ²	狭幅部	5本/m	5本/m	アコベニの本数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>項目</th> <th>アコベニの本数</th> <th>注入孔の本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">一般部分</td> <td>アコベニの本数</td> <td>13本/m²</td> <td>12本/m²</td> </tr> <tr> <td>指定部分</td> <td>20本/m²</td> <td>20本/m²</td> </tr> <tr> <td>狭幅部</td> <td>5本/m</td> <td>5本/m</td> </tr> </tbody> </table>		種類	項目	アコベニの本数	注入孔の本数	一般部分	アコベニの本数	13本/m ²	12本/m ²	指定部分	20本/m ²	20本/m ²	狭幅部	5本/m	5本/m
種類	項目	アコベニの本数	注入孔の本数																																																																		
一般部分	アコベニの本数	13本/m ²	12本/m ²																																																																		
	指定部分	20本/m ²	20本/m ²																																																																		
	狭幅部	5本/m	5本/m																																																																		
種類	項目	アコベニの本数	注入孔の本数																																																																		
一般部分	アコベニの本数	13本/m ²	12本/m ²																																																																		
	指定部分	20本/m ²	20本/m ²																																																																		
	狭幅部	5本/m	5本/m																																																																		
種類	項目	アコベニの本数	注入孔の本数																																																																		
一般部分	アコベニの本数	13本/m ²	12本/m ²																																																																		
	指定部分	20本/m ²	20本/m ²																																																																		
	狭幅部	5本/m	5本/m																																																																		
種類	項目	アコベニの本数	注入孔の本数																																																																		
一般部分	アコベニの本数	13本/m ²	12本/m ²																																																																		
	指定部分	20本/m ²	20本/m ²																																																																		
	狭幅部	5本/m	5本/m																																																																		
補修範囲の確認 <ul style="list-style-type: none"> テストマー等で打診し、浮きの状態と範囲を調べてマキнгする。 		アコベニングの本数と配置の決定 <ul style="list-style-type: none"> アコベニングのせん孔位置を右上表にてマキングする。 注入孔位置に15~30mm深さにせん孔する。 		せん孔 <ul style="list-style-type: none"> ※石綿含有仕上げ塗材等のせん孔には〔集じん装置付き電動ドリル〕を使用する。 アコベニング用のせん孔深さは、躯体コンクリートに30mm以上とする。 せん孔径は使用するアコベニの直径より2mm程度大きい直径とする。 孔内の切粉等をブラシや圧縮空気等で除去する。 		孔内の清掃 <ul style="list-style-type: none"> アコベニング用のせん孔深さは、躯体コンクリートに30mm以上とする。 せん孔径は使用するアコベニの直径より2mm程度大きい直径とする。 孔内の切粉等をブラシや圧縮空気等で除去する。 		アコベニング全面球・矽樹脂注入工法 <ul style="list-style-type: none"> アコベニ：ステンレス製全ネジφ4mm アコベニの頭は仕上げ面から5mm程度引っ込むようにする。孔内よりはみ出した球・矽樹脂は除去し、目立たぬ色のパテ状球・矽樹脂で穴をふさぐ。 アコベニ固定用球・矽樹脂注入後、夏期15時間、冬季24時間以上は衝撃や振動を与えないようにし、また降雨等からも養生する。 		アコベニング部分球・矽樹脂注入工法 <ul style="list-style-type: none"> アコベニ：ステンレス製全ネジφ4mm アコベニの頭は仕上げ面から5mm程度引っ込むようにする。孔内よりはみ出した球・矽樹脂は除去し、目立たぬ色のパテ状球・矽樹脂で穴をふさぐ。 アコベニ固定用球・矽樹脂注入後、夏期15時間、冬季24時間以上は衝撃や振動を与えないようにし、また降雨等からも養生する。 		残存浮き部への注入孔の位置決め <ul style="list-style-type: none"> テストマー等で打診して残存浮き範囲を再確認し、注入孔位置をマキングする。 		注入孔のせん孔 <ul style="list-style-type: none"> アコベニ固定用球・矽樹脂硬化後、躯体コンクリートに5mm以上の深さまでせん孔する。 孔内の切粉等をブラシや圧縮空気等で除去する。 注入時に球・矽樹脂が流出する恐れのあるひび割れや開口部等は確実にシーリング材で養生する。 		孔内の清掃 <ul style="list-style-type: none"> アコベニング用のせん孔深さは、躯体コンクリートに30mm以上とする。 せん孔径は使用するアコベニの直径より2mm程度大きい直径とする。 孔内の切粉等をブラシや圧縮空気等で除去する。 		ひび割れ等のシーリング <ul style="list-style-type: none"> アコベニング全面球・矽樹脂注入工法 		残存浮きへの注入 <ul style="list-style-type: none"> グリッドを用いて球・矽樹脂を適切な注入圧を保ちながらゆっくり注入を行う。 注入順序は下部から上部へ、片端部から他端部へ打診しながら残存浮き部全面に注入する。注入後注入孔をパテ等でふさぐ。 球・矽樹脂注入後、夏期15時間、冬季24時間以上は衝撃や振動を与えないようにし、また降雨等からも養生する。 アコベニングおよび注入孔に、パテ状球・矽樹脂等を充てんし仕上げを行う。 注入部以外に付着した汚れを除去し、清掃する。 		養生 <ul style="list-style-type: none"> アコベニング全面球・矽樹脂注入工法 		養生 <ul style="list-style-type: none"> アコベニング部分球・矽樹脂注入工法 		仕上げ <ul style="list-style-type: none"> アコベニング全面球・矽樹脂注入工法 		養生 <ul style="list-style-type: none"> アコベニング部分球・矽樹脂注入工法 		清掃 <ul style="list-style-type: none"> アコベニング全面球・矽樹脂注入工法 		清掃 <ul style="list-style-type: none"> アコベニング部分球・矽樹脂注入工法 		自主検査 <ul style="list-style-type: none"> アコベニング全面球・矽樹脂注入工法 		自主検査 <ul style="list-style-type: none"> アコベニング部分球・矽樹脂注入工法 																																	

備考 1. 石綿含有仕上げ塗材の塗膜が劣化していることにより、塗膜除去が必要な場合は、剥離剤併用手工具の工法により、適切に塗膜除去処理を行うこと。		工事名 横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
図面名称 外壁の改修工法 詳細図		図面番号 A-48	
作成年月 令和8年3月		公益財団法人 横浜企業経営支援財団	



1号館中2階 防水改修平面図 1/100



1号館4階 防水改修平面図 1/100

注記:4階屋根②~④は本図に倣うこと

凡例	防水仕様	下地
	⑬⑰ 高伸長型ウレタン塗膜防水	防水押えコンクリート
	⑳ 常温アスファルト防水	露出アスファルト防水
	⑫ 高伸長型ウレタン塗膜防水	コンクリート金ゴテ
	既存消火栓:給水側配管を取り外して防水施工後復旧する	
	既存移動式粉末消火設備:ジャッキアップして防水施工する	

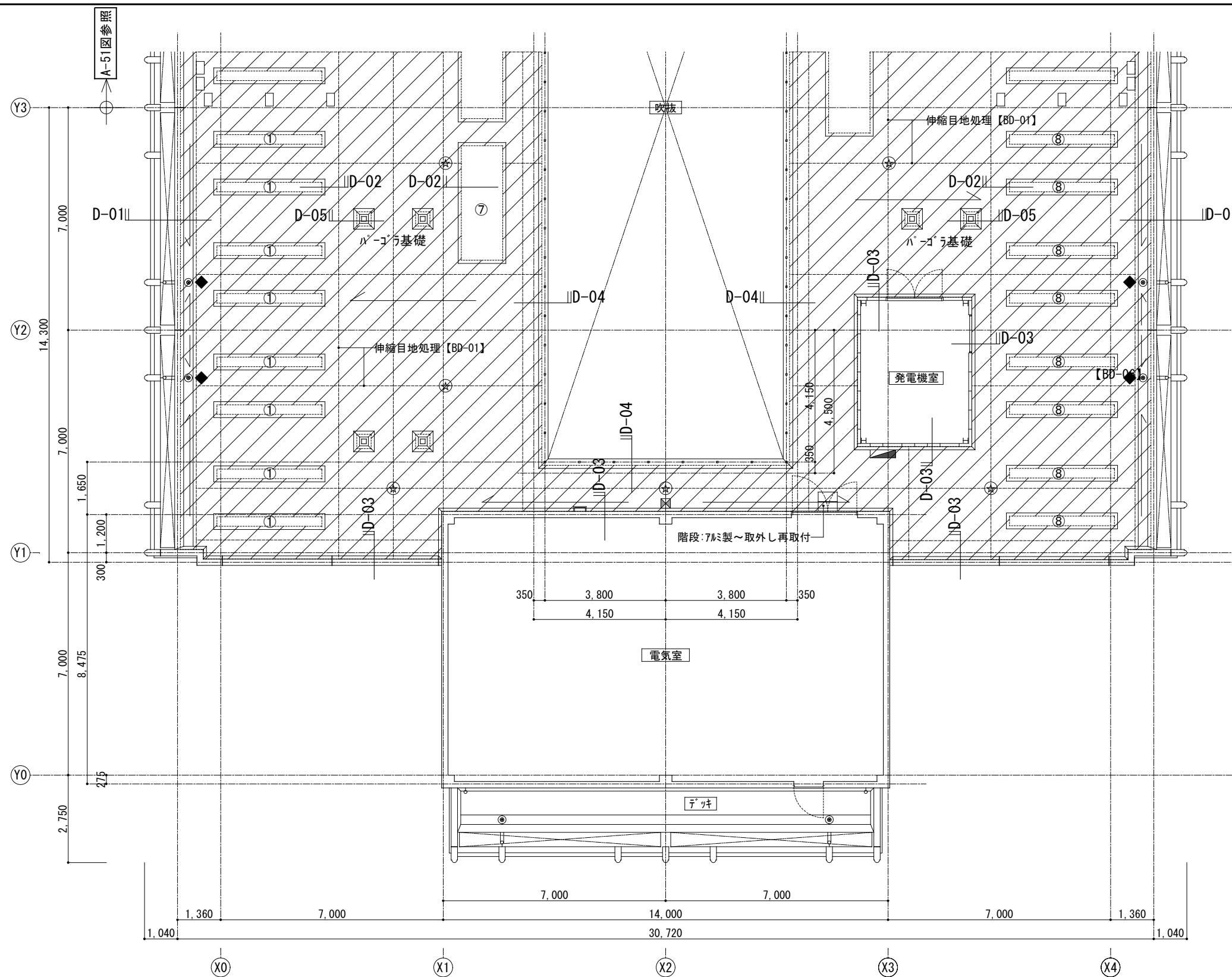
凡例	名称	内容	ディテール
	床 ステンレス製脱気筒	既存撤去のうえ新設	【BD-02】
	床 ステンレス製脱気筒	新設	
	改修用ルーフトン:横型75φ	既存アスファルト防水用ルーフトン(100φ)を撤去のうえ横型改修用ルーフトン新設(75φ)新設	
	改修用ルーフトン:縦型75φ	既存アスファルト防水用ルーフトン(100φ)を撤去のうえ縦型改修用ルーフトン新設(75φ)新設	
	オーバーフロー管新設	ステンレス製	【BD-04】
	既存オーバーフロー管	内外部清掃のうえ、屋上面側のシーリング(PU-2)を撤去・新設する	

凡例	名称	W × L × H	数量	ディテール
/				

備考

- 水勾配は既存に倣うこと。また脱気筒の位置は既存に倣うこと
- 既存露出アスファルト防水面の脱気筒・トン改修廻り改修は、既存アスファルト防水の撤去を行い、t3仮防水(速硬化ゴムアスファルト系プライマセメントモルタル)にて補修すること

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	防水改修 1号館中2階・4階 平面図	図面番号	A-49
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



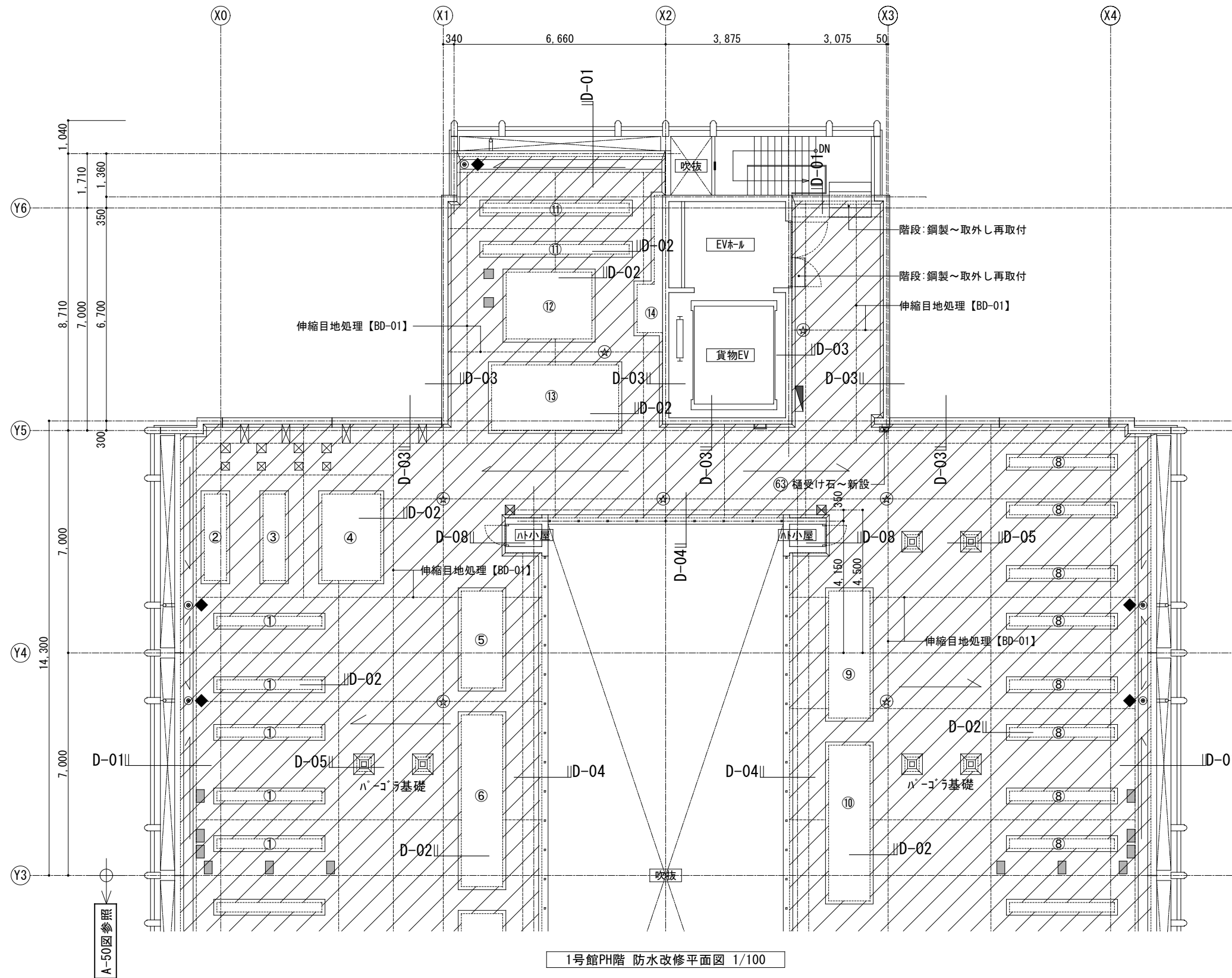
1号館PH階 防水改修平面図 1/100

凡例	防水仕様	下地
	⑬⑳ 高伸長型ウレタン塗膜防水	防水押えコンクリート
	㉔ 常温アスファルト防水	露出アスファルト防水
	⑫ 高伸長型ウレタン塗膜防水	コンクリート金ゴテ
	既存消火栓:給水側配管を取り外して防水施工後復旧する	
	既存移動式粉末消火設備:ジャッキアップして防水施工する	

凡例	名称	内容	タイトル
★	床 ステンレス製脱気筒	既存撤去のうえ新設	【BD-02】
⊙	床 ステンレス製脱気筒	新設	
◆	改修用ルーフトン:横型75φ	既存アスファルト防水用ルーフトン(100φ)を撤去のうえ横型改修用ルーフトン新設(75φ)新設	
●	改修用ルーフトン:縦型75φ	既存アスファルト防水用ルーフトン(100φ)を撤去のうえ縦型改修用ルーフトン新設(75φ)新設	
★	オーバーフロー管新設	ステンレス製	【BD-04】
▲	既存オーバーフロー管	内外部清掃のうえ、屋上面側のシーリング(PU-2)を撤去・新設する	

凡例	名称	W × L × H	数量	タイトル
/				

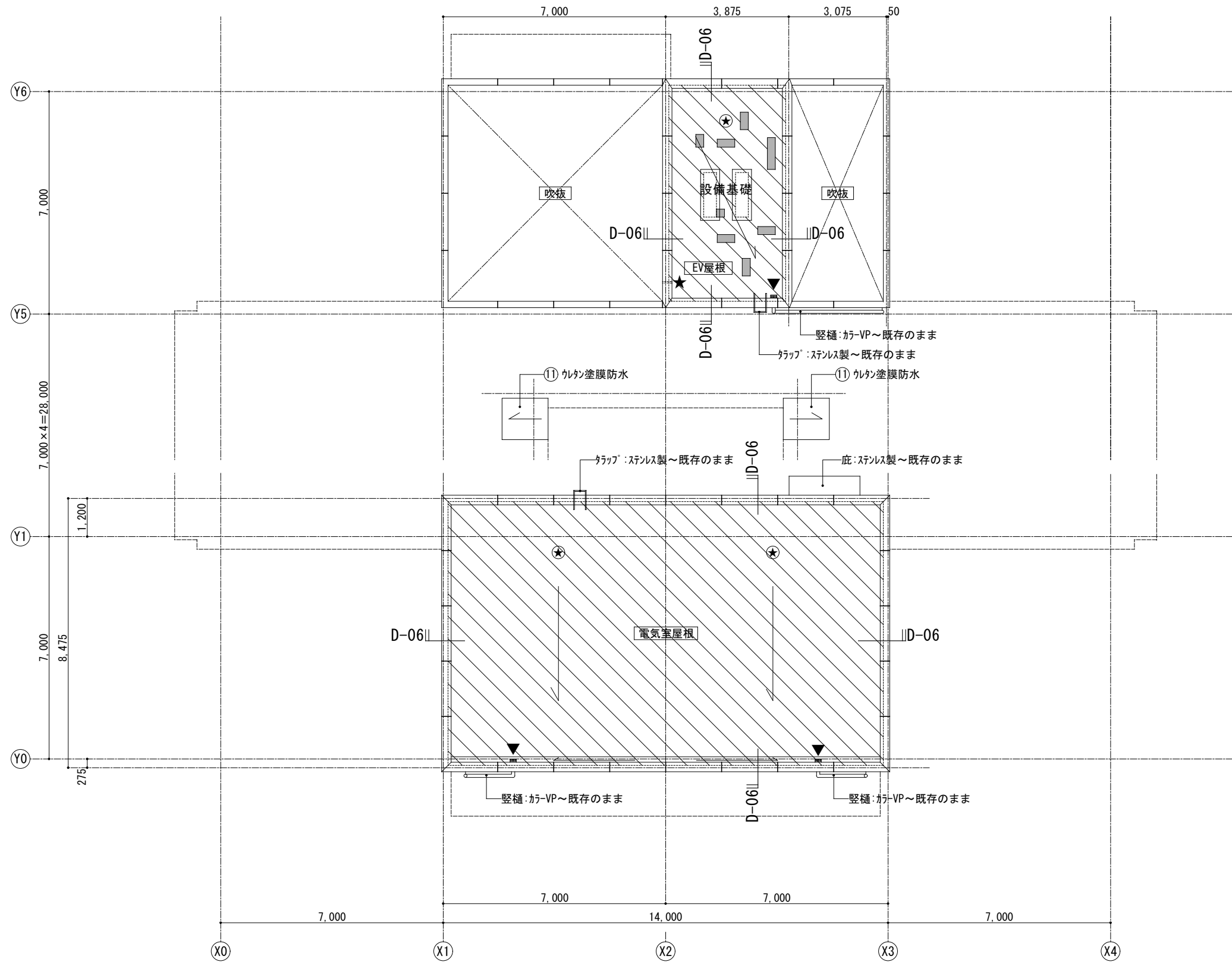
備考 1. 水勾配は既存に倣うこと。また脱気筒の位置は既存に倣うこと 2. 既存露出アスファルト防水面の脱気筒・トン改修廻り改修は、既存アスファルト防水の撤去を行い、t3防水(速硬化ゴム75mm厚シオン系ホリマセメントモルタル)にて補修すること	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
	図面名称	防水改修 1号館屋階 平面図その1	数量	図面番号
	作成年月	令和8年3月		
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



1号館PH階 防水改修平面図 1/100

凡例	防水仕様	下地	凡例	名称	内容	ディテール	凡例	名称	W × L × H	数量	ディテール
	(13)(27) 高伸長型ウレタン塗膜防水	防水押えコンクリート	★	床 ステンレス製脱気筒	既存撤去のうえ新設	【BD-02】		配管類基礎:樹脂製型枠	400 × 250 × 150	12	【BD-05】
	(28) 常温アスファルト防水	露出アスファルト防水	☆	床 ステンレス製脱気筒	新設			配管類基礎:コンクリート製	200 × 200 × 150	2	
	(12) 高伸長型ウレタン塗膜防水	コンクリート金ゴテ	◆	改修用ルーフ・レン:横型75φ	既存アスファルト防水用ルーフ・レン(100φ)を撤去のうえ横型改修用ルーフ・レン新設(75φ)新設				260 × 580 × 150	4	【BD-07】
	既存消火栓:給水側配管を取り外して防水施工後復旧する		●	改修用ルーフ・レン:縦型75φ	既存アスファルト防水用ルーフ・レン(100φ)を撤去のうえ縦型改修用ルーフ・レン新設(75φ)新設				300 × 300 × 150	4	
	既存移動式粉末消火設備:ジャッキアップして防水施工する		★	オーバ-フロ-管新設	ステンレス製	【BD-04】			250 × 250 × 150	4	
			▲	既存オーバ-フロ-管	内外部清掃のうえ、屋上側側のシーリング(PU-2)を撤去・新設する						

備考 1. 水勾配は既存に倣うこと。また脱気筒の位置は既存に倣うこと 2. 既存露出アスファルト防水面の脱気筒・ドレン改修廻り改修は、既存アスファルト防水の撤去を行い、t3防水(速硬化ゴム75mm厚樹脂系プライマ-メント膜)にて補修すること	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	防水改修 1号館屋階 平面図その2	図面番号
	作成年月	令和8年3月	
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



1号館PH屋根 防水改修平面図 1/100

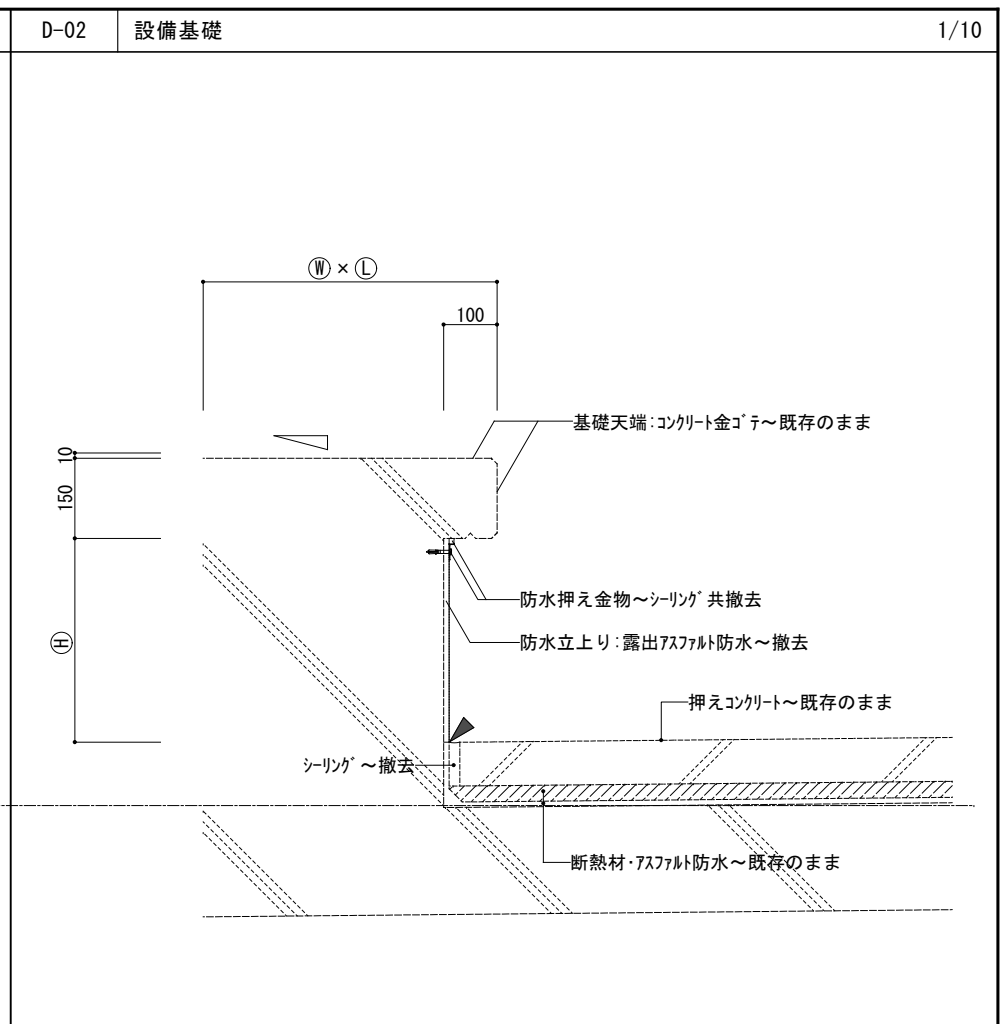
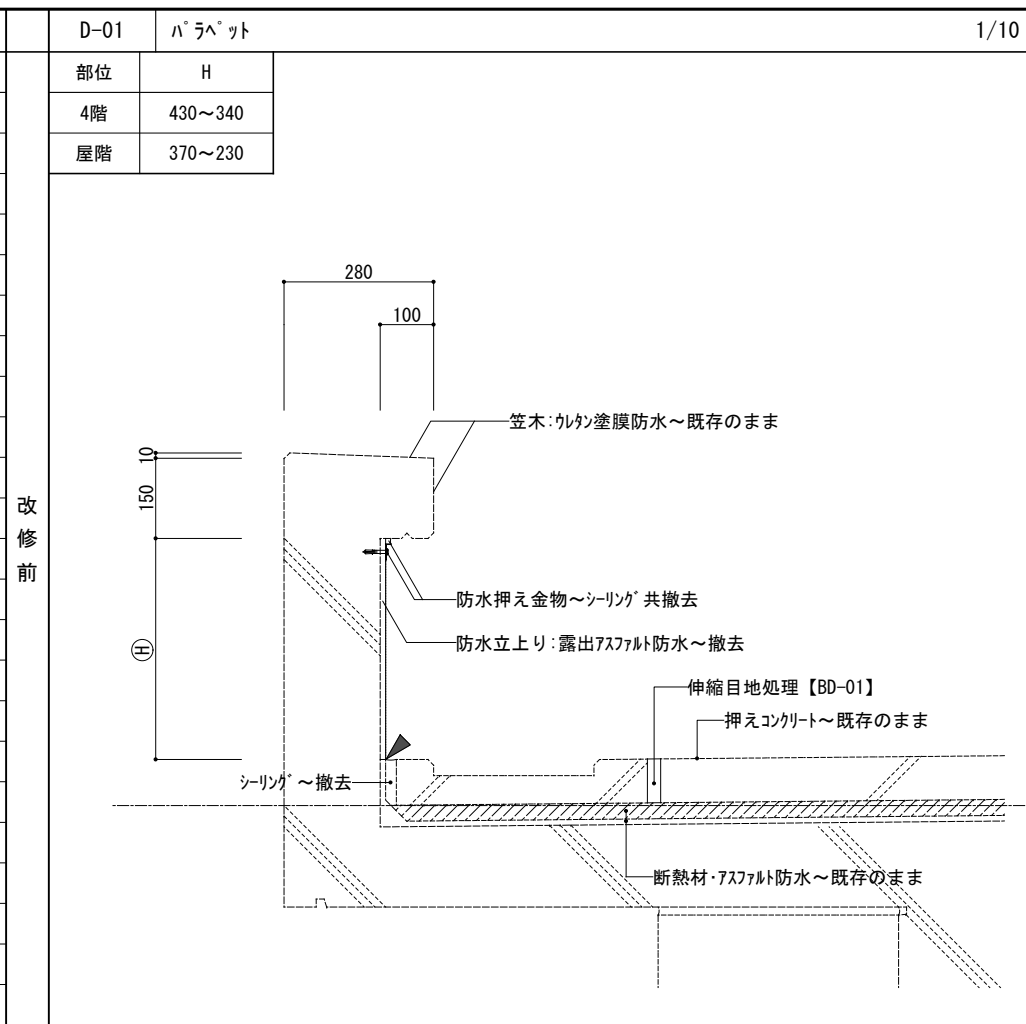
凡例	防水仕様	下地
	⑬⑰ 高伸長型ケレン塗膜防水	防水押えコンクリート
	⑳ 常温アスファルト防水	露出アスファルト防水
	⑫ 高伸長型ケレン塗膜防水	コンクリート金ゴテ
	既存消火栓:給水側配管を取り外して防水施工後復旧する	
	既存移動式粉末消火設備:ジャッキアップして防水施工する	

凡例	名称	内容	タイトル
★	床 ステンレス製脱気筒	既存撤去のうえ新設	【BD-02】
☆	床 ステンレス製脱気筒	新設	
◆	改修用ルーフ'レン:横型75φ	既存アスファルト防水用ルーフ'レン(100φ)を撤去のうえ横型改修用ルーフ'レン新設(75φ)新設	
●	改修用ルーフ'レン:縦型75φ	既存アスファルト防水用ルーフ'レン(100φ)を撤去のうえ縦型改修用ルーフ'レン新設(75φ)新設	
★	オーバ-フロ-管新設	ステンレス製	【BD-04】
▲	既存オーバ-フロ-管	内外部清掃のうえ、屋上側側のシリング(PU-2)を撤去・新設する	

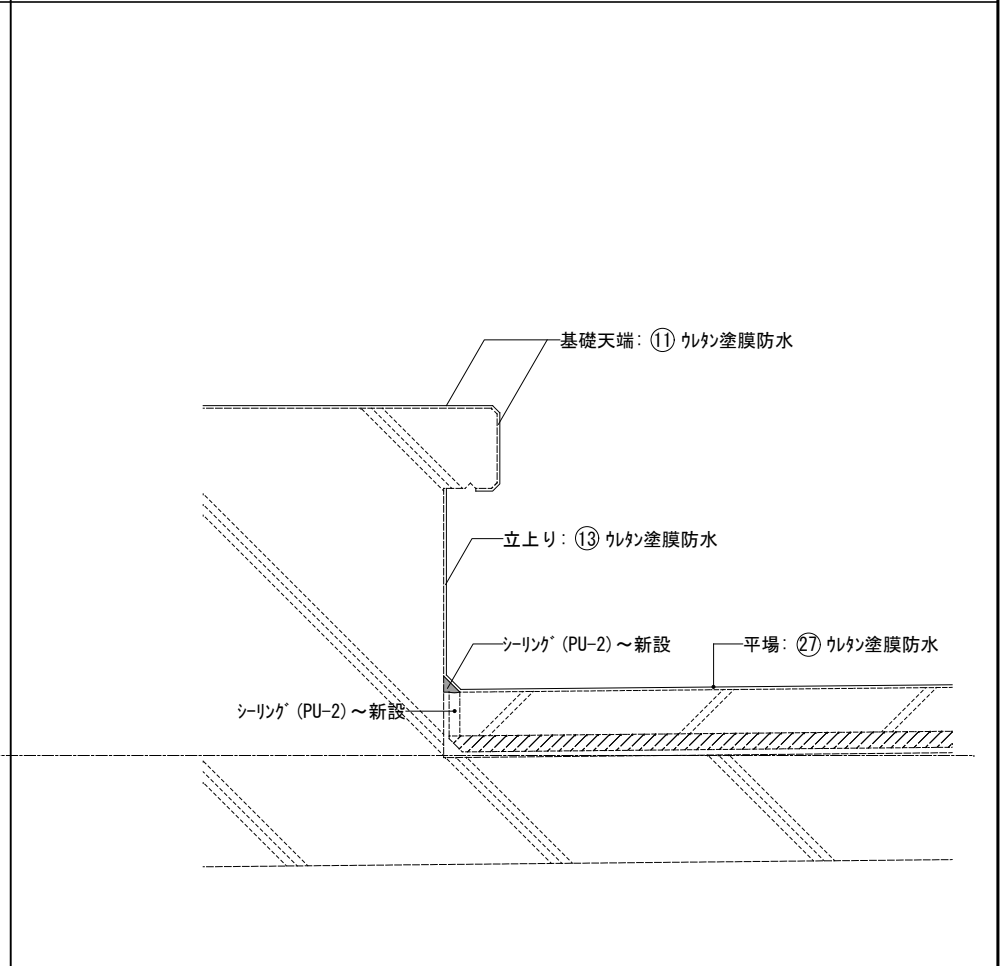
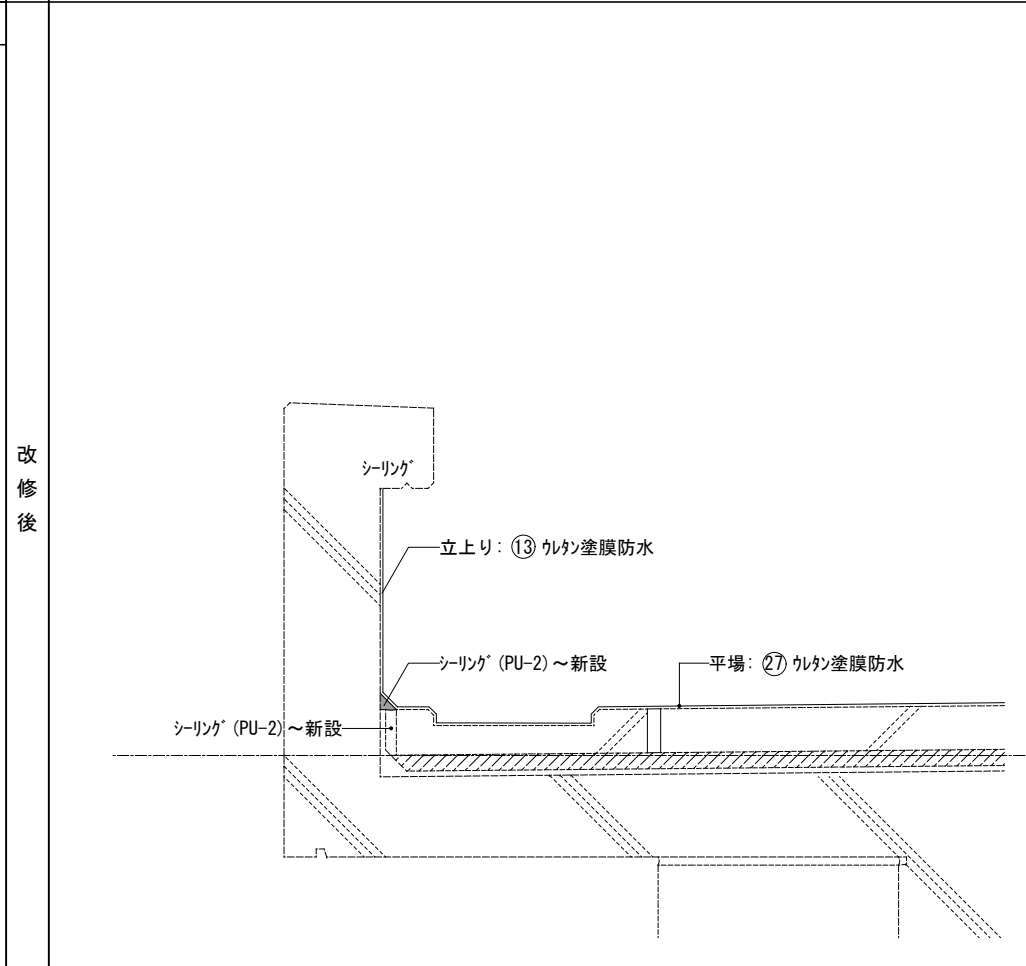
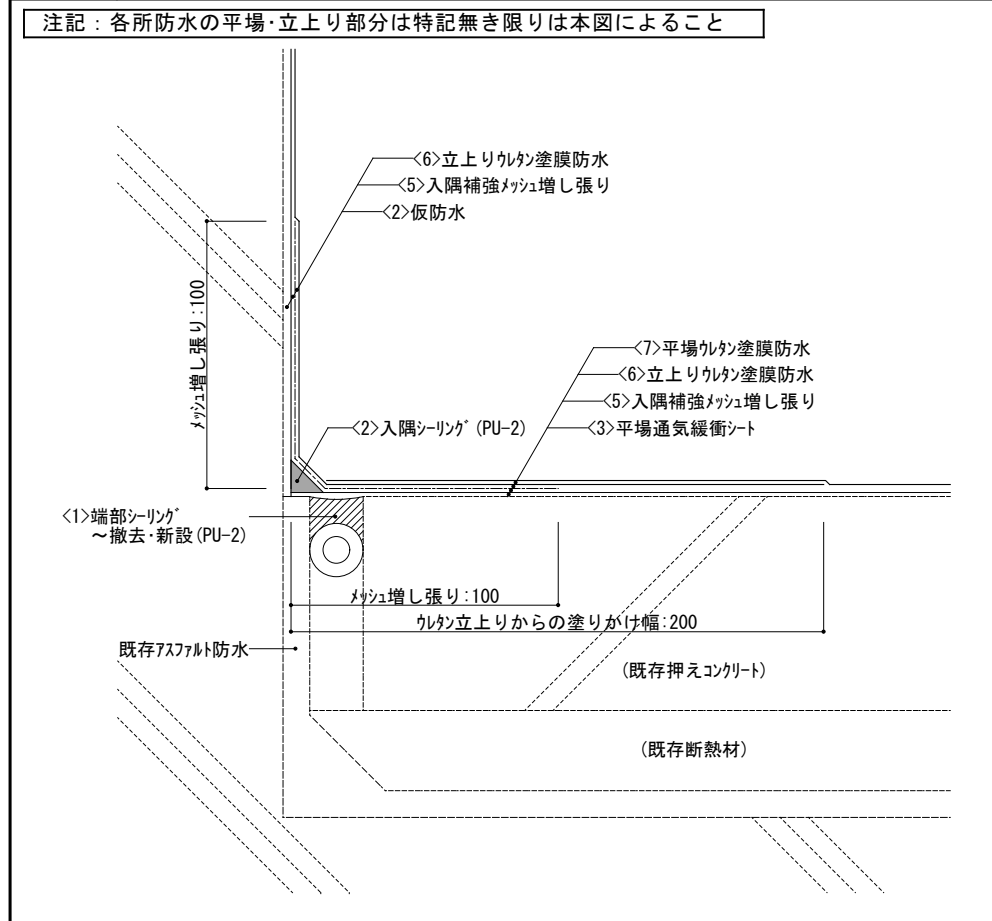
凡例	名称	W × L × H	数量	タイトル
	配管類基礎:樹脂製型枠	550 × 250 × 150	5	【BD-06】
		400 × 250 × 150	1	
		250 × 250 × 150	1	
		1000 × 250 × 150	1	

備考		工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事
1. 水勾配は既存に倣うこと。また脱気筒の位置は既存に倣うこと		図面名称	防水改修 1号館PH屋根 平面図
2. 既存露出アスファルト防水面の脱気筒・ドレン改修廻り改修は、既存アスファルト防水の撤去を行い、t3仮防水(速硬化ゴム7mm厚樹脂系プライマ-メントモルタル)にて補修すること		図面番号	A-52
		作成年月	令和8年3月
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

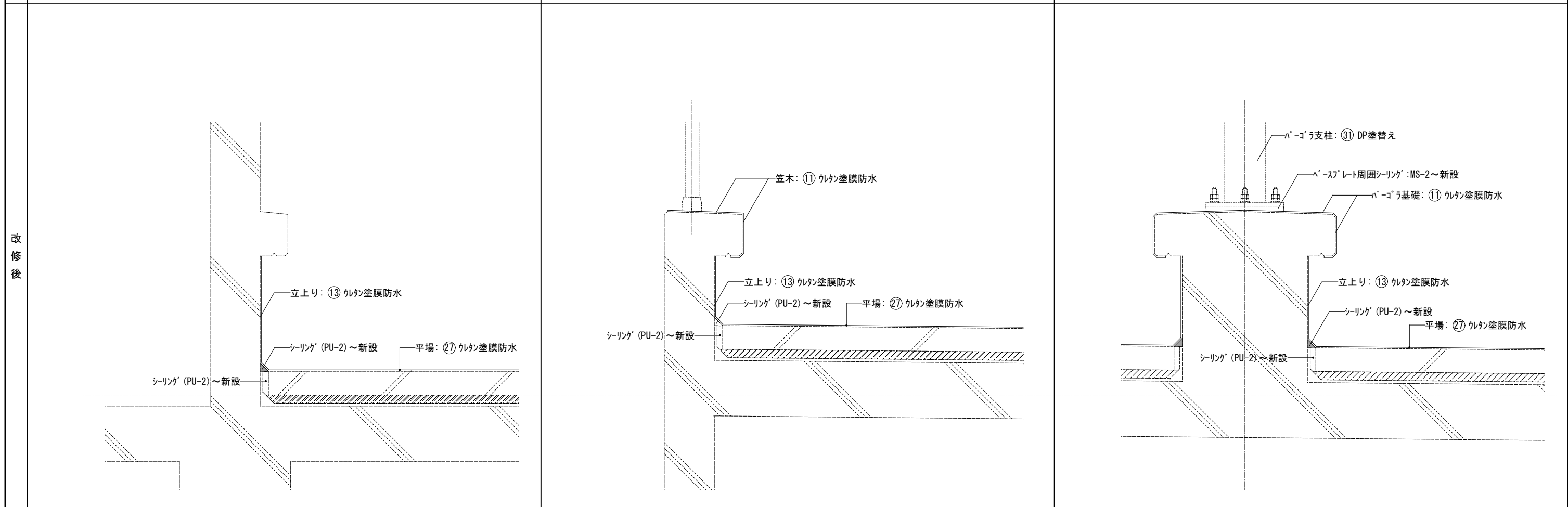
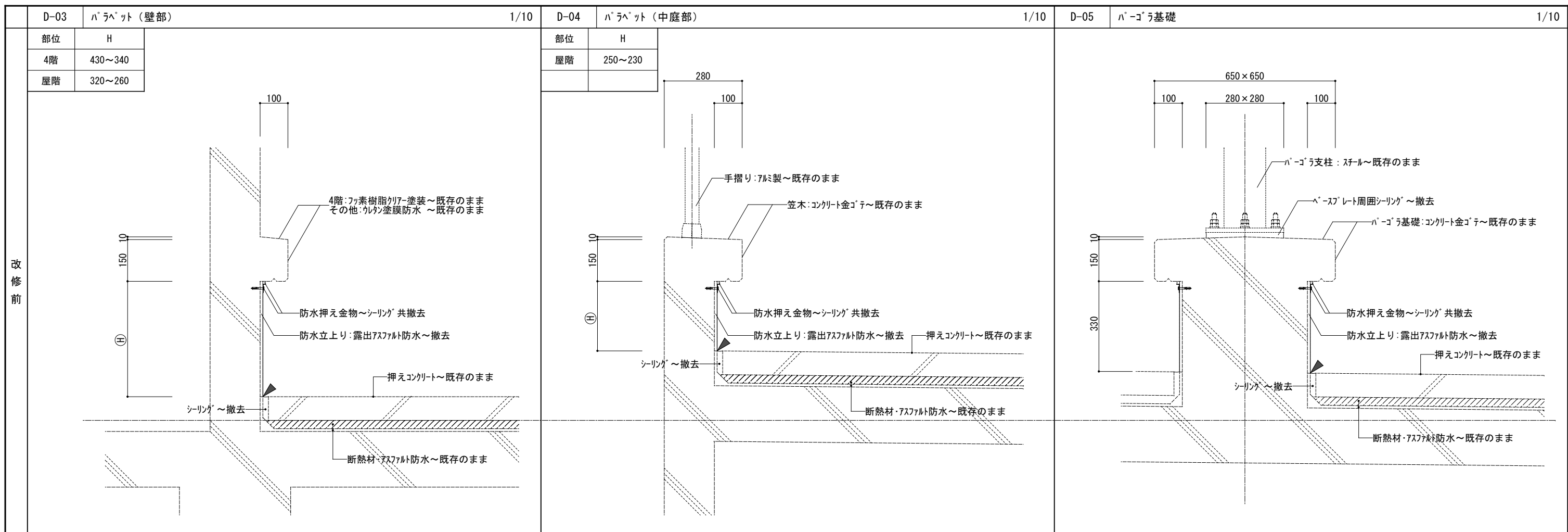
基礎等 数量・寸法							
階	部位	名称	数量	W	L	H	備考
4階		設備基礎	16	500	3,500	390~360	
屋階	X0通り側	設備基礎①	13	500	3,500	370~340	
		設備基礎②	1	900	2,900	530	
		設備基礎③	1	900	2,900	500	
		設備基礎④	1	2,050	2,900	470	
		設備基礎⑤	1	1,500	3,250	200	
		設備基礎⑥	1	1,500	5,600	200	
		設備基礎⑦	1	1,500	3,800	200	
		ハコ基礎	6	650	650	330	
	X4通り側	設備基礎⑧	16	500	3,500	370~340	
		設備基礎⑨	1	1,500	4,200	200	
		設備基礎⑩	1	1,500	5,100	200	
		ハコ基礎	8	650	650	330	
	Y6通り側	設備基礎⑪	2	500	4,800	430~410	
		設備基礎⑫	1	2,300	2,900	260	
設備基礎⑬		1	2,250	4,200	240~220		
設備基礎⑭		1	900	4,530	260~220		
EV屋根		設備基礎	2	600	1,600	290~270	



D-00 防水共通図 1/2



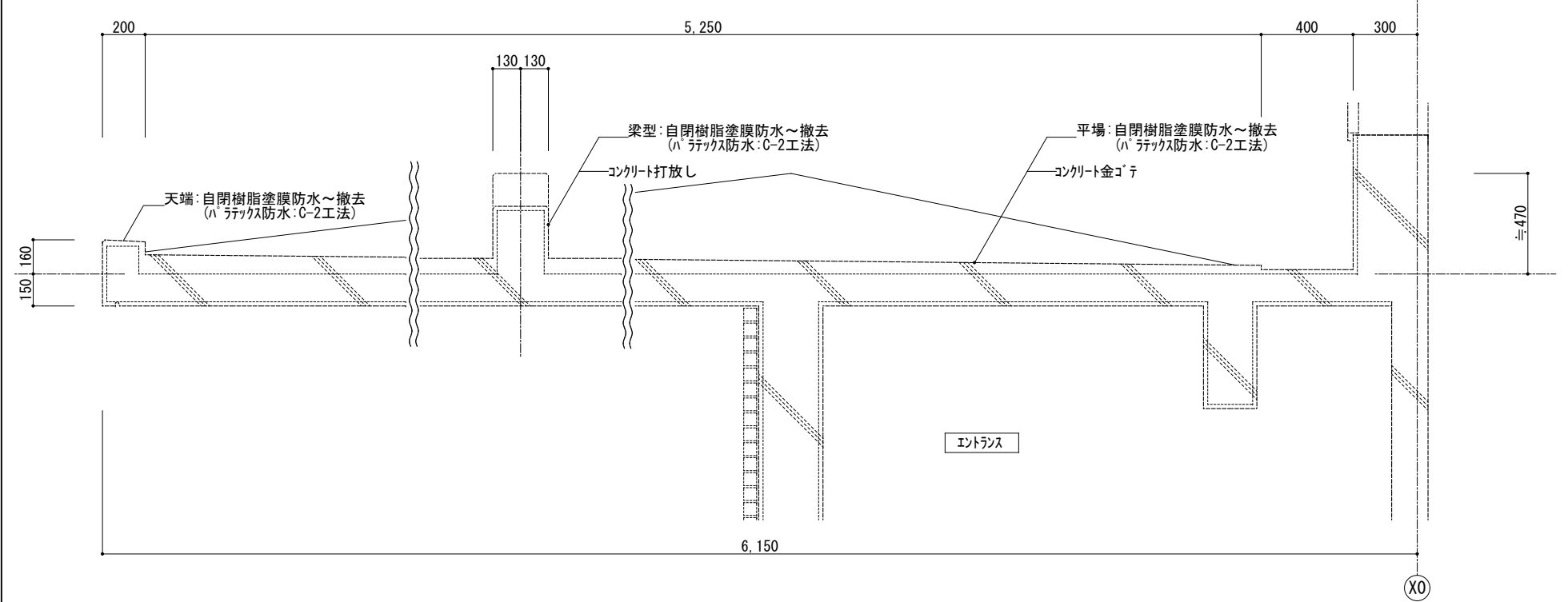
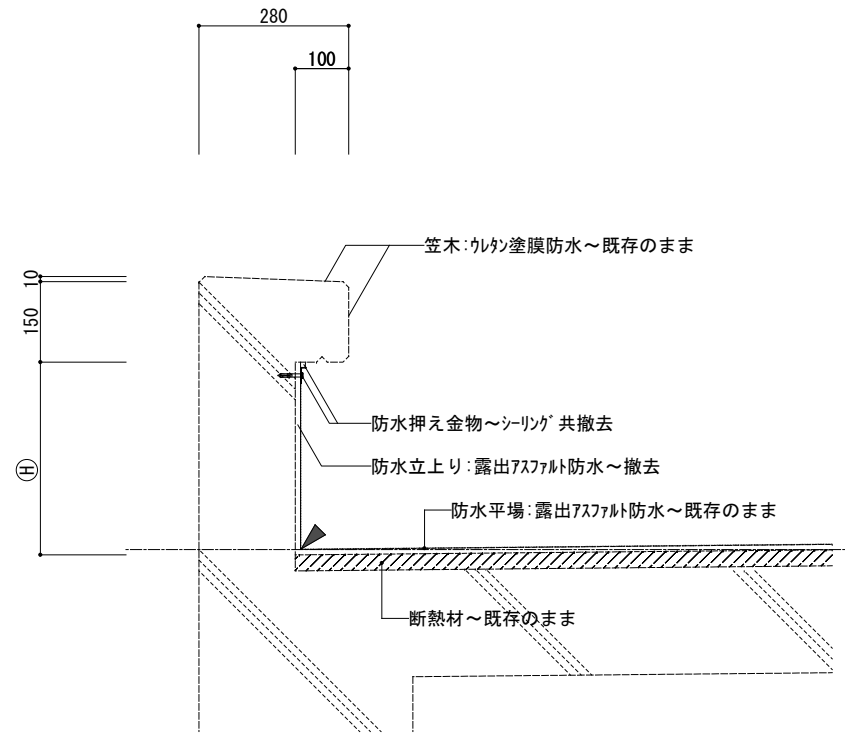
備考	▲: 既存防水層カッター入れ		
工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	防水改修 断面詳細図その1	図面番号	A-53
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



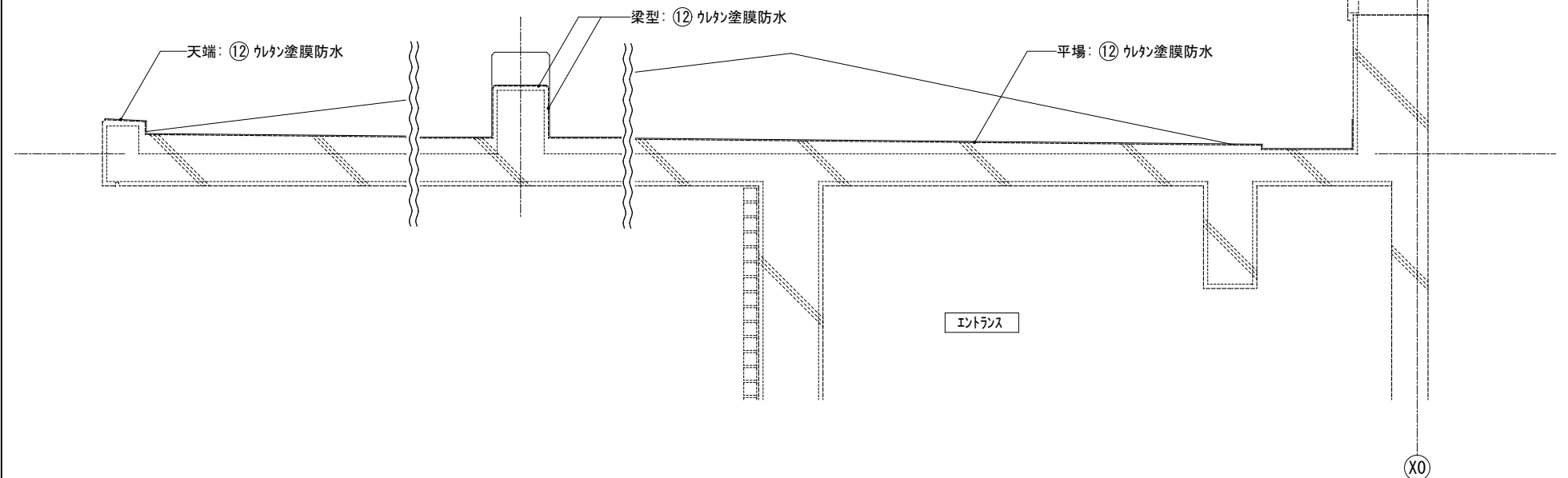
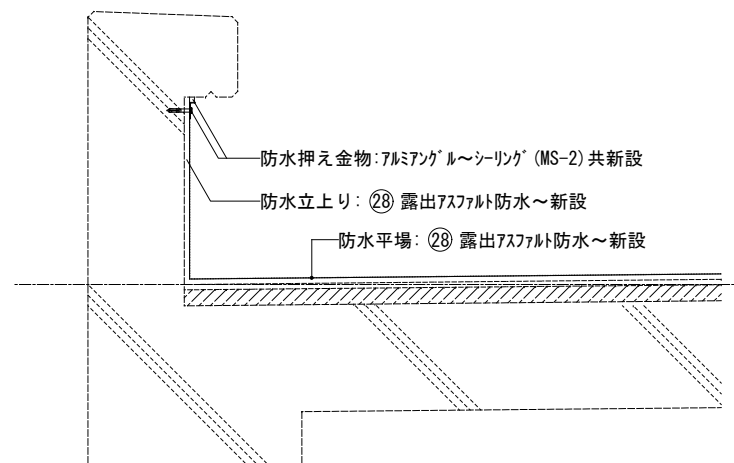
備考	工事名
▲:既存防水層カケ入れ	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事
	図面名称
	防水改修 断面詳細図その2
	図面番号
	A-54
	作成年月
	令和8年3月
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団

部位	H
電気室屋根	350~270
EV屋根	350~270

改修前



改修後

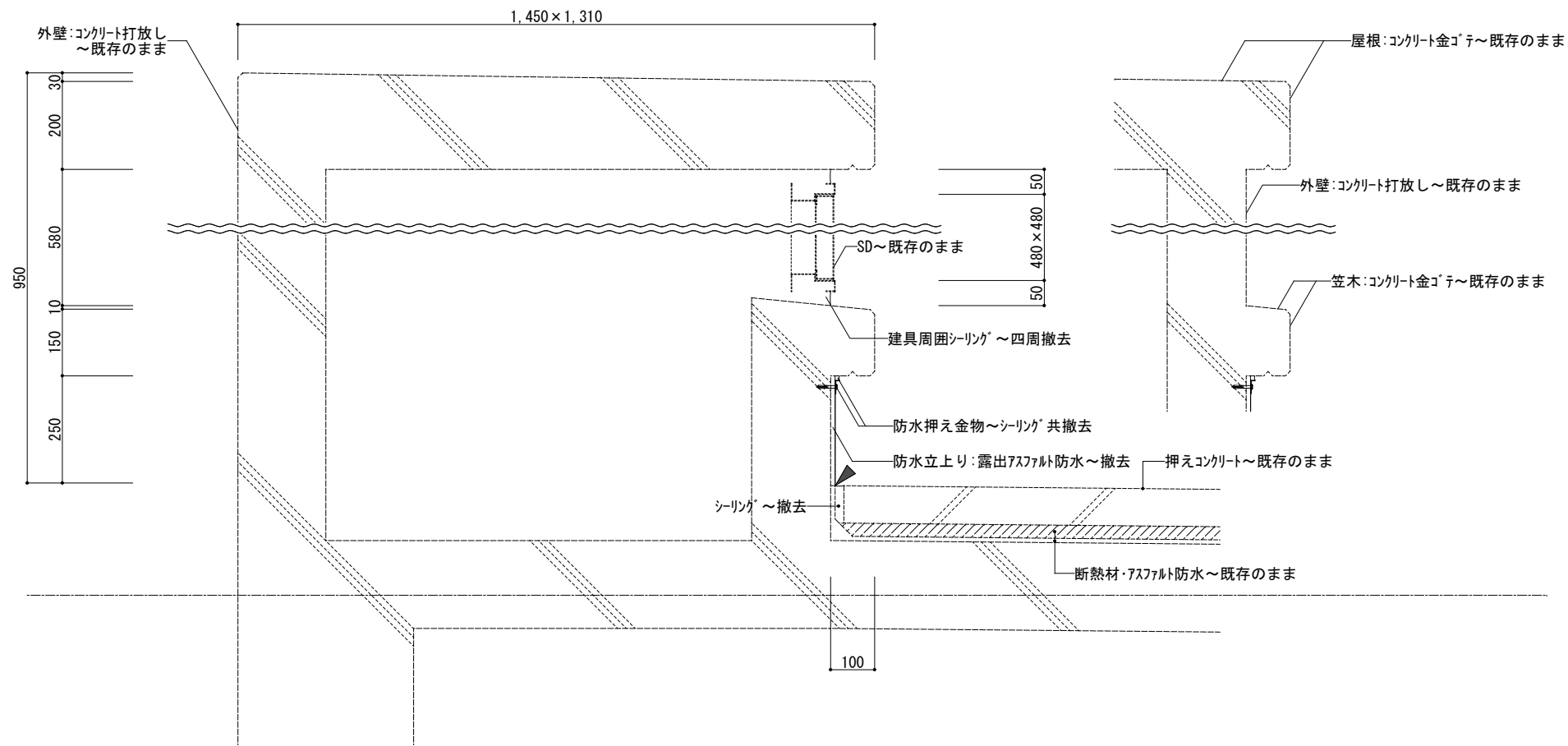


備考

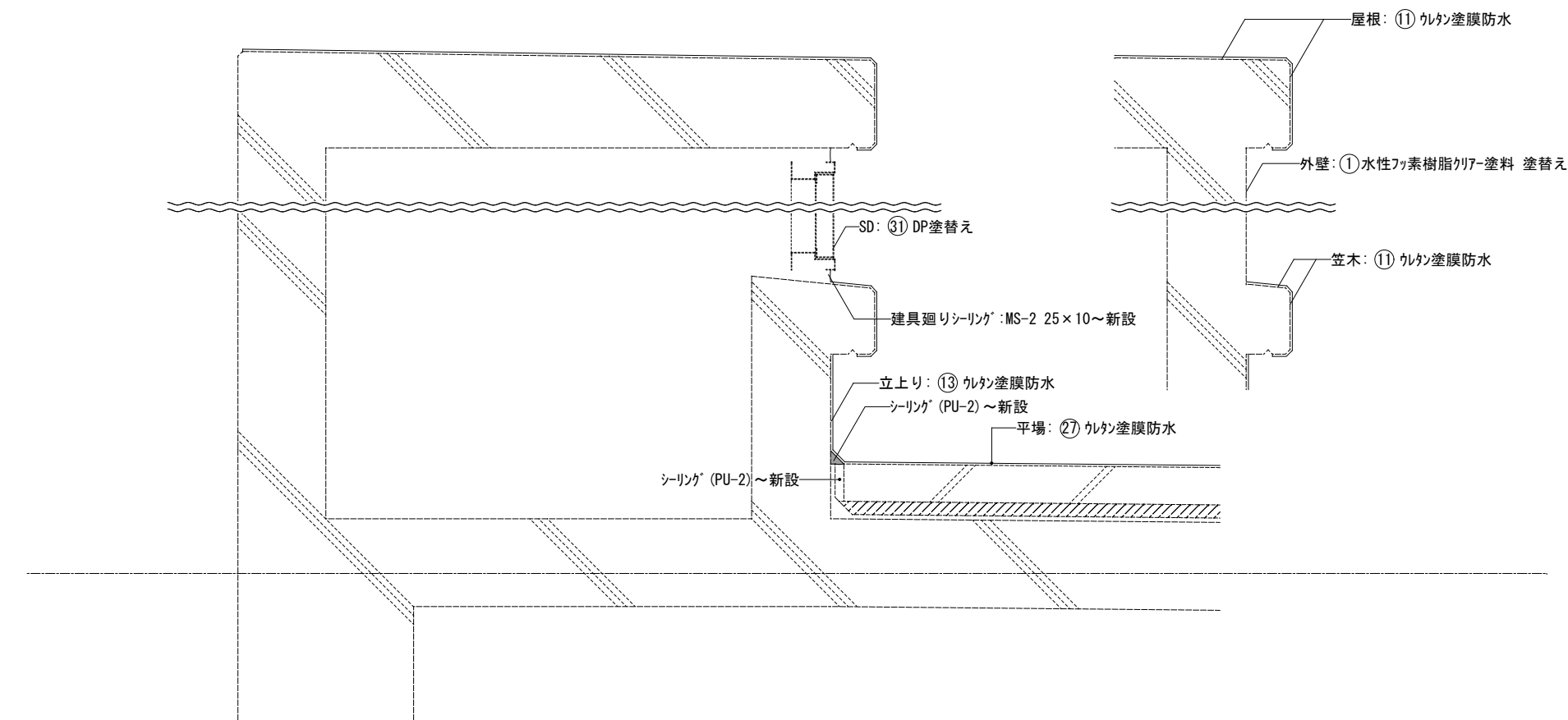
▲既存防水層のかけ入れ
 1. 【D-07】部は目視調査が出来ない箇所のため新築時の設計図書からの復元図である。本図と現場と相違がある場合は現場を優先とする。

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
図面名称	防水改修 断面詳細図その3	図面番号
作成年月	令和8年3月	A-55
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

改修前



改修後

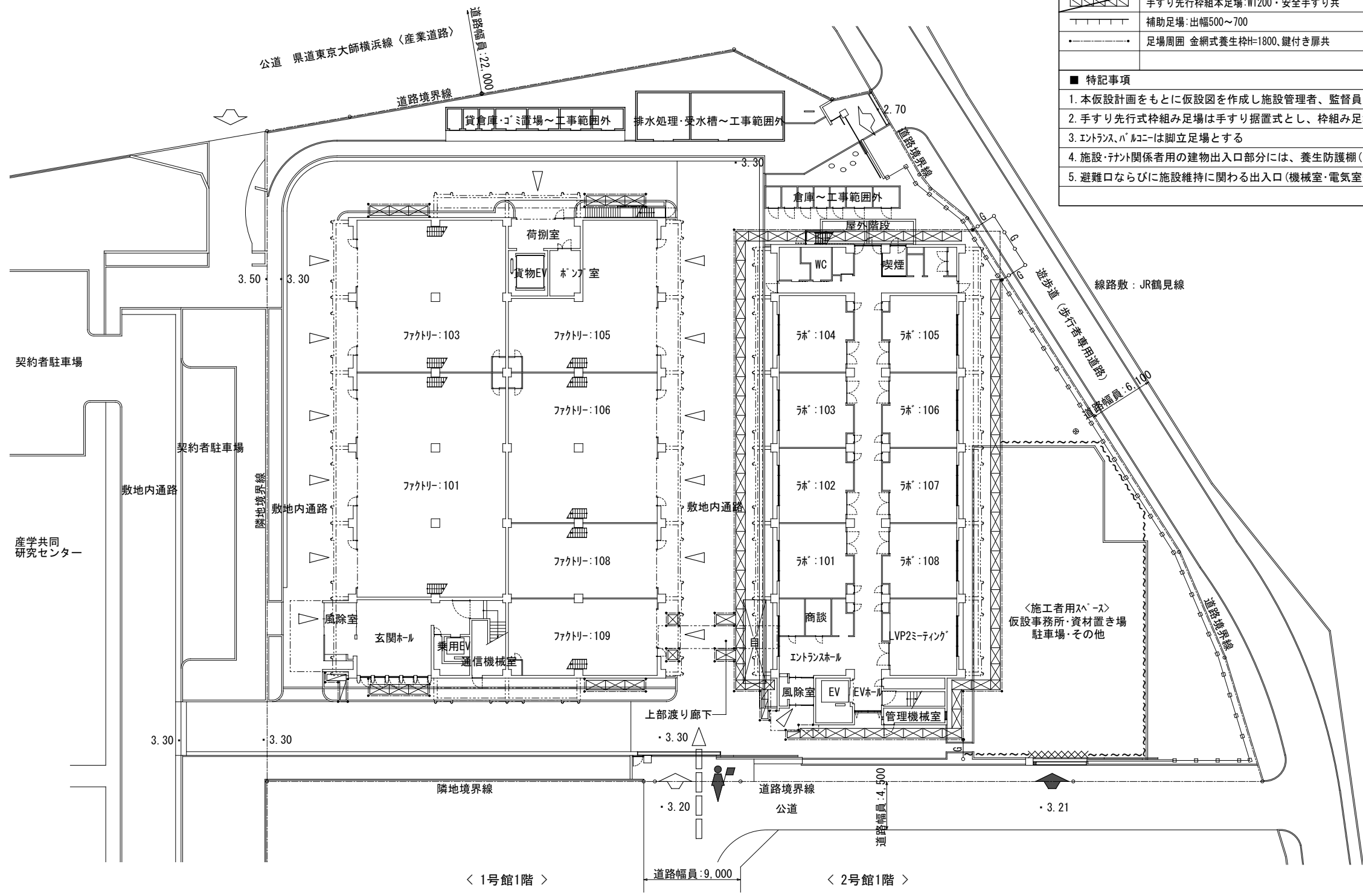


備考

工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事		
図面名称	防水改修 断面詳細図その4	図面番号	A-56
作成年月	令和8年3月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

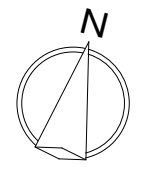
■ 仮設計画図凡例			
	工事関係 敷地出入口	~~~~~	成形鋼板: H3,000
	施設・テナント関係 敷地出入口	XXXXXXXXXX	シート: W6,000×H4,500
	工事関係 建物出入口	—○—	ガードフェンス H1,800
	施設・テナント関係 建物出入口	—△—	カーコンパネ
	工事車両搬入通路	—▲—	t22仮設鉄板養生 (段差がないよう設置)
	交通整理員	—●—	t12.7ホリエリ製敷板 (7'サイズ) 養生
	手すり先行枠組本足場: W 600・安全手すり共	—自—	自転車置き場: 移設のうえ復旧
	手すり先行枠組本足場: W 900・安全手すり共	—★—	揚重機器: 施工に伴って移動
	手すり先行枠組本足場: W1200・安全手すり共		
	補助足場: 出幅500~700	○.○○	地盤面の高さを示す (m)
	足場周囲 金網式養生枠H=1800、鍵付き扉共		

- 特記事項
1. 本仮設計画をもとに仮設図を作成し施設管理者、監督員と協議のうえ着手すること
 2. 手すり先行式枠組み足場は手すり据置きとし、枠組み足場周囲にはネット状養生シート(防災I類)を地盤面迄すること
 3. エントランス、バルコニーは脚立足場とする
 4. 施設・テナント関係者の建物出入口部分には、養生防護棚(出幅2m)を設置すること
 5. 避難口ならびに施設維持に関わる出入口(機械室・電気室等)は、仮設物によって出入りを妨げな様に留意すること



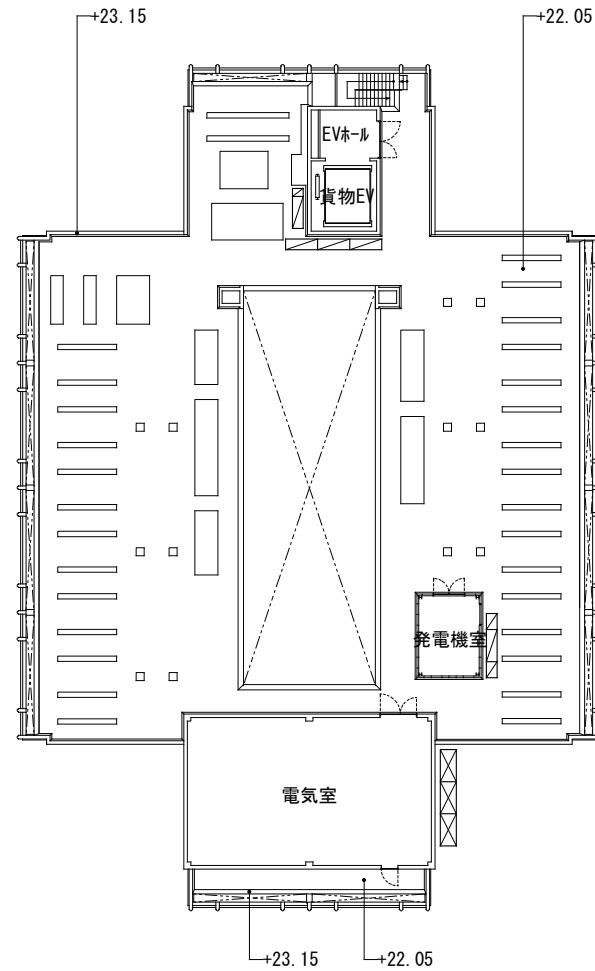
【参考図】

1階仮設計画図 1/300



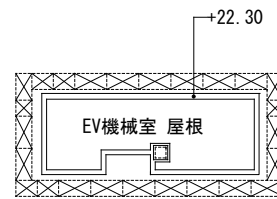
備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	仮設計画図その1(参考図)	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-58
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

■ 仮設計画図凡例			
	工事関係 敷地出入り口	~~~~~	成形鋼板: H3,000
	施設・テナント関係 敷地出入り口	XXXXXXXXXX	シート: W6,000×H4,500
	工事関係 建物出入口	—●—●—●—●—	ガードフェンス H1,800
	施設・テナント関係 建物出入口	—○—○—○—○—	カーコンナバー
	工事車両搬入通路	▨▨▨▨▨▨	t22仮設鉄板養生 (段差がつかないように設置)
	交通整理員	△	t12.7ボリエチレン製敷板 (7'サイズ) 養生
	手すり先行枠組本足場: W 600・安全手すり共	自	自転車置き場: 移設のうえ復旧
	手すり先行枠組本足場: W 900・安全手すり共	⊙	揚重機器: 施工に伴って移動
	手すり先行枠組本足場: W1200・安全手すり共		
	補助足場: 出幅500~700	・〇〇〇	地盤面の高さを示す (m)
	足場周囲 金網式養生枠H=1800、鍵付き扉共		

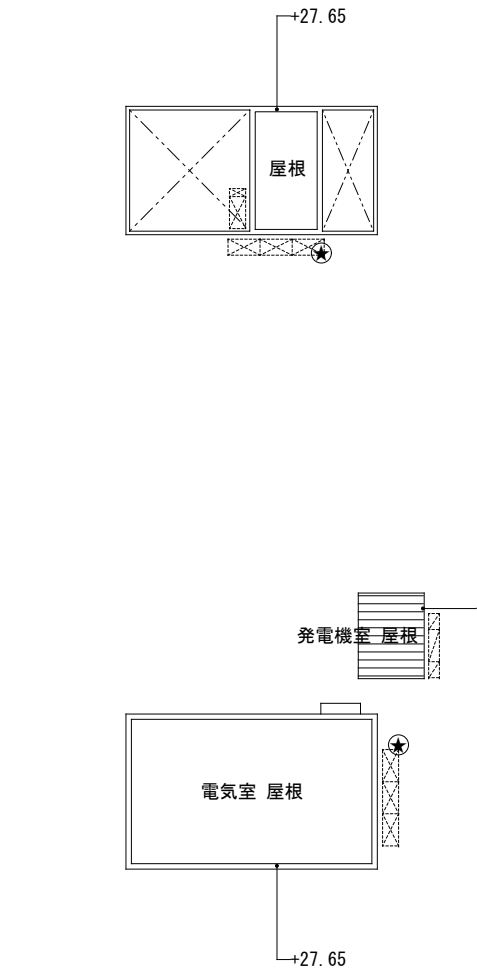


< 1号館PH階 >

1号館PH階・2号館PH屋階 仮設計画図 1/300

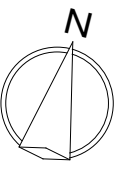


< 2号館PH屋階 >



1号館PH屋階 仮設計画図 1/300

【参考図】



備考	工事名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 2号館外壁その他改修工事	
	図面名称	仮設計画平面図その4(参考図)	図面番号
	作成年月	令和8年3月	A-61
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		